

済々黌



熊本地震から10年、航空自衛隊の「ブルーインパルス」による展示飛行
垂直尾翼に「2」とあるのが松永大誠3等空佐（H23）搭乗の2番機

 済々黌 
同窓会会報

2026年/令和8年/第42号

編集・発行 済々黌同窓会

〒860-0862 熊本市中央区黒髪2丁目21番50号 多士会館内

☎096-345-3002 ☎096-346-3225

「卒業してから長い済々黌」
同窓会の益々の発展を祈念して！



済々黌同窓会第11代会長 諸熊 建次（S44）

済々黌同窓会会員の皆様、こんにちは！

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、母黌は去る2月11日に創立144周年を迎えましたが、本年は済々黌の生みの親である佐々友房先生の没後120年、育ての親である井芹経平先生の没後100年の節目の年に当たります。同窓会では「史料保存アーカイブプロジェクトチーム」に依る両先生の顕彰事業を企画し、その一環として、先ずは恩賜記念日の5月21日の大同窓会におい

て「済々黌を貫く佐々先生・井芹先生の教え」をテーマに講演会を開催しました。（詳細は16・17頁をご参照ください。）

同窓会では、県立図書館にある両先生に関する参考文献や、済々黌高校資料室や歴史資料館所蔵の過去から続く数多の「多士」等、済々黌の歴史的資料や文献の収集を行いました。又、各地の同窓生からの史料寄贈の受け入れ等を通して、1888年（明治21年）4月済々黌に着任、そして1897年（明治30年）からは第5代黌長として、35年間の長きに亘り済々黌の黌是である「三綱領」教育の

礎を築いてこられた『井芹経平先生の教え（仮）』の編集・編纂作業に務めて参りました。現代社会にも相通するこの先生の教えを在黌生にも分かり易いような教本・小冊子にして年度内には配布できるように現在準備を進めている処であります。

済々黌同窓会の歴史を綴りますと、その奔りは、大正初期の井芹黌長時代に在ると謂われております。済々黌は創立以来、4万7000名を超える多士済々の済々黌人を世に輩出し、現在の同窓会員登録数は2万3000名を誇る比類稀な同窓会組織を有しております。

済々黌が歴史と伝統ある全国屈指の名門校と謂われる所以は、偏に長年に亘る歴代の黌長・教職員の先生方や、社会で活躍する一人一人の同窓生の日々絶え間ない研鑽の積み重ねの結晶であり、又、1世紀以上に亘る全国各地の同窓会活動に尽力してきた同窓生諸兄のご奉仕の賜

物と思料します。

済々黌では「卒業してからが本場の済々黌人」、「出てから長い済々黌」と昔から良く謂われてきたのは此の事なのでしょう。か？

済々黌同窓会は、年次、各地区、各地域・職域の同窓会等、それらの集合組織体です。それぞれの同窓会組織の持続発展を目指し、あくまで「継続は力なり！」です。全国の同窓会会員の皆様方には、持ち場持ち場の最寄りの同窓会活動への参画と併せ、是非ともご縁のある他地区・他地域の同窓会への積極的なご参加をお願いする次第です。

最後になりますが、同窓会は済々黌人にとっては「生涯学習の教場」であり自らを高める「研鑽と憩いの場」でもあるのです。同窓生の皆様の引き続きの同窓会活動へのご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



済々黌高等学校第34代黌長 坂本 憲昭

済々黌同窓会の皆様には、本黌の教育活動の充実と在黌生の激励のため、日頃から物心両面にわたり多大なる御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。昨年4月に済々黌第34代黌長を拝命し、2年目を迎えました。創立145年目となる伝統ある本黌において、本年度も微力ではありますが、精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去る4月8日に入学式を挙行し、新入生414名を迎えて令和8年度がスタートしました。期待と緊張の中、阿蘇での2泊3日の宿泊研修を終え、若き多士たちの済々黌ライフが始まりました。本黌では、本年度も建学の精神であります三綱領を根幹に据え、文武両道の気風を尊重し、学業だけでなく学校行事や部活動等にも力を注ぎ、一つひとつの教育活動を着実に実践して参ります。また、自由闊達な中にも伝統を重んじ、人間教育を基盤として人との絆を重んじる黌風を大切にしながら、変化の激しい時代に対応し、社会に貢献できる次代のグローバルリーダーの育成を目指し、精一杯取り組み参ります。

この原稿を書いております4月下旬現在、在黌生は、5月10日に開催予定の「第141回恩賜記念大運動会」に向けて準

備を進めております。前日には、大運動会の広報活動の一環である街頭パレードも予定しております。本年は、熊本地震から10年という節目の年にあたります。安心して大運動会に全力で取り組めることに感謝するとともに、この大運動会が在黌生にとってかけがえのない思い出となり、愛黌心を育み、自立した多士へと成長する契機となることを期待しております。

また、本黌は、令和5年度より校舎の長寿命化改修工事に入っておりますが、昨年度までに北校舎および南校舎周辺の工事が完了し、本年4月からはすべてのクラスが新たに整備された教室で学んでおります。さらに、本年度途中からは特別教室棟の工事も予定されております。最後になりましたが、同窓会の皆様の御尽力により設立された多士会館では、日々多くの生徒が学習活動等に励んでおり、大変お世話になっております。歴代会長、事務局の皆様並びに開館ボランティアの皆様をはじめ、関係するすべての皆様の御厚意に心より感謝申し上げます。

結びに、済々黌同窓会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



同窓会会長 小田 健正（H7）

同窓会の皆様におかれましては、日頃より本黌生徒並びに同窓会活動へ多大なご支援、ご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

昨年に引き続き同窓会会長を拝命いたしました、平成7年卒の小田健正と申します。伝統ある同窓会の看板を背負うことの重責を改めて痛感するとともに、今回もその職責を全うすべく、精一杯取り組み参る所存でございます。

今年は、私たちの記憶に深く刻まれている熊本地震の発生から、節目の10年を迎えました。

当時は振り返りますと、正直なところ混乱の中で記憶が判然としない部分も多いのですが、仕事や生活の立て直しに追われる傍ら、開催直前であった大同窓会の実行委員長として、目まぐるしく日々を奔走していた自分自身のこと鮮明に思い出されます。

復興は着実に進み、見慣れた故郷の景色も月日を経て新しく生まれ変わった部分が多々あります。また、この10年の間に世界の情勢や社会のルール、価値観の多様化など、私たちを取り巻く仕組みも大きく変化いたしました。母黌を取り巻く教育環境も、今まさに大きな変革の時を迎えようとしています。

しかし、時代の荒波の中でも決して変

わらないもの、そこそが人との繋がりでないと私は確信しております。辛いとき、あるいは歓喜の瞬間、常に傍らで助け合い、励まし合える仲間がいたからこそ、私たちは幾多の困難を乗り越えてくることができました。

現役の生徒たちにも、済々黌での学びを通じて、主体的に己を高め合うだけでなく、互いを尊重し支え合える一生の宝物となるような人間関係を、この学び舎で育んでいくと強く願っております。

同窓会としましては、自由闊達な黌風の中に、より質の高い教育環境を整えるべく「すべては在黌生の為に」という原理原則を常に念頭に置き、今年度の活動に邁進してまいります。学黌、同窓会そして同窓会の三者が、これまで以上に手を取り合い、一丸となって生徒たちを支えていくことが、今の時代には何より重要なのではないかと考えております。

保護者の立場として大変恐縮ではございますが、在黌生が充実した学校生活を送り、次代を担う志を磨くためにも、今後とも同窓会の先輩方、後輩の皆様からの変わらぬ多大なるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。同窓会を代表いたしました挨拶とさせていただきます。

センター長(黒川地区住民)		
地区長(黒川住民・下宿・アパート組合)		
コーディネーター(赤十字防災ボランティア)		
東海大学		
自衛隊		
行政(南阿蘇村)		
炊き出し		
地域の女性の方中心		
20名		
医療		
地域避難者の保健師		
3名		
学生		
5名		
3日目に日赤医療団が来所		
記録		
学生		
5名		
・打ち合わせの記録と情報共有		
・センター入出のチェック		
物資		
学生		
15名		
・搬入物資の管理		
輸送		
学生		
20名		
・ヘリポートから体育館への物資輸送		
センター打ち合わせ:6:00、22:00		
記者会見(センター長、地区長、行政派遣者):9:00、13:00、18:00		
高森町避難所への分派		
大学教職員		
2名		
学生		
101名		

(表1) 避難所(大学体育館)の組織化

ただ、非常に助かったのは日赤の災害ボランティアの方がすぐに避難所に入ってこられて、避難所の組織化と運営を行っていたことでした。現地で関係する各組織が避難センターの下に組織化され、毎日2回センター打合せ、そして、1日3回の記者会見を実施しました。このため、他の避難所のような報道機関と避難者とのトラブルなどは一切発生しませんでした。学生が多かったので、記

特別寄稿

熊本地震から10年

記憶 熊本地震直撃 東海大農学部 キャンパスでの体験

前 東海大学九州キャンパス長 荒木 朋洋 (S48)

はじめに

私は、済浪会を経て、神戸大学農学部へ進学し、その後、九州大学大学院を修了しました。最初に就職したのは米国ボストン大学でした。2年間の米国暮らしの後、熊本県南阿蘇村にあった東海大学農学部(当時は九州東海大学)に就職いたしました。

東海大学は全国にキャンパスがあり、日本でも有数のマンモス大学ですが、農学部は熊本だけにありました。国立公園内にあるキャンパスとして、農場、牧場、講義棟、研究棟、体育館、野球場、グラウンドなどが同じ場所にある全国でも珍しい環境のキャンパスでした。東海大学農学部は、昭和55年(1980年)、地域の要請を受けて設置され、全国から集まった学生たちが南阿蘇村の下宿、アパートに住み、地域と一体になって生活していました。

この東海大学農学部の阿蘇キャンパスは、平成28年(2016年)4月の熊本地震(本震)で甚大な被害を受けました。私は、その当時農学部長として震災の初期対応に当たりましたので、その経験をお伝えしたいと思います。

熊本地震直撃

4月16日未明の熊本地震の本震は、東海大学阿蘇キャンパスの入り口にあった阿蘇大橋を外輪山の山崩れによって崩落させ、キャンパスはほぼ孤立状態となっていました。

録班、物資班、輸送班では大活躍しました。(表1)

体育館では大学の備蓄食料、水の提供と、農学部のトラクターを使ってグラウンドに仮設トイレの造成などを行いました。

また、周辺に住んでいた学生すべてが避難してきましてので、安否確認のための名簿作成を行いました。この中で残念ながら3名の学生さんが犠牲になったことがわかりました。

避難所は学生と地域の住民合わせて600名ほどになり、多すぎるということで、学生100名を高森中学校体育館へ自衛隊ヘリで移送しました。

2日目からの活動

2日目になると、大学の農場のスタッフがトラクターを使って、大学内の道路の補修を行い、車が通れるようになりました。東海大学では、東日本大震災の教訓で、湘南キャンパス内に災害備蓄倉庫を配備しており、熊本地震直後に、現地の状況が分からなくとも支援物資を積んだトラックを派遣する、いわゆるプッシュ型支援を行いました。その結果、午後2時過ぎには神奈川からの支援物資が阿蘇キャンパスに到着しました。同時に工学部の専門家も同行したため、ドローンによる空撮などの記録を開始しました。3日目になると道路の状況も改善し、学生の退去が本格化してきました。また、日赤の医療隊が到着し、医薬品や衛生電

私は阿蘇市の自宅の2階で寝ていましたが、自宅はとても手を付けられる状況ではなく、とりあえず身の回りの物を車に乗せて大学のキャンパスを目指しました。

発災後の周辺道路の状況は、唯一通ることができたのが阿蘇市方面からの裏道だけでした。

現場では発災直後は自助、すなわち被災者同士が相互救助にあたりました。その後阿蘇市のレスキューによる救助が始まりましたが、道路障害と多方面の災害のため、被災者の掘り出し救助が本格化したのは自衛隊も到着した明け方からでした。

私の研究室の学生も、倒壊したアパートの1階で埋まっていたましたが、朝になってようやく救助されました。

当日明るくなってくると被害のすさまじさが明らかになってきましたが、学生アパートは1階部分が完全につぶれ、救助は呼びかけに反応があった部屋から開始し、まず2階の部屋の床をエンジンカッターで切断し、その後1階の天井を切断、そして上から掘り出すという方法で生き埋めになった学生を救助していきま

した。救出された負傷学生は救急車が来られないため、ヘリの到着まで駐車場に敷いた布団で待機させられました。また、熊本市内は被災して受け入れができなかったため、福岡、大分、鹿児島にヘリで移送しました。(写真1)

話もそりました。午後には大学手配のバスが到着し、大半の学生は一部のボランティアを除いて実家に移動しました。

被災直後のキャンパス

大学体育館の臨時避難所が閉鎖された後、大学の対応に着手しました。

1号館前の中庭では椅子・テーブルが倒れ、中央に亀裂が走っていました。これはのちに活断層が地表に現れた貴重な事象であることがわかりました。(写真2) 1号館内部は破壊がひどく、防火扉などはフレームごと崩落して通行できなくなっていました。1号館の階段も亀裂が入って崩落しかけていました。正面の車



(写真2) 中央に亀裂が走る1号館前の中庭



(写真1) 1階部分が押し潰されたアパートでの救出活動

現場では瞬時に停電していたため、情報が得られず、車のテレビが唯一の情報源でしたが、逆に停電のおかげで充満していたプロパンガスの漏出に火が入ることなく、救助活動ができました。また、交通路遮断で大学のスタッフが出られず、周辺に在住の数名の教職員で対応せざるを得ませんでした。携帯電話はつながらず、大学本部との連絡もできませんでした。

キャンパスに避難所設置

その後、地域避難所が被災者全員を収容しきれないこと、夜に嵐になるとの予報で、大学の体育館を臨時避難所とし

よせは50ヤほど沈下していました。

研究棟の内部はほぼすべて壊滅状態で、分析機器もすべて破壊されていました。

研究資産で買い替えることができない生物試料、すなわち組織培養の細胞などは大きなダメージでした。(写真3)

おわりに

このように、大きな被害と様々な教訓を残した阿蘇キャンパスでしたが、地盤調査委員会の調査結果から、直下に活断層があることがわかり、やむなく移転復興という形になりました。そのため、農学部1号館周辺は震災遺構として熊本県に譲渡し、現在熊本空港横に新たに農学部キャンパスを整備し、2023年度から「阿蘇くまもと臨空キャンパス」として教育・研究を行っています。今後、私たちが経験したことを震災の教訓として役に立ていただければ幸いです。



(写真3) 大きなダメージを受けた生物試料

母覺支援を考える

今春の高校入試は「高校授業料無償化」が本格的にスタートする中で行われた。熊本県内でも様変わりが見られ、济々覺の後期（一般）選抜の倍率は前年の1.45倍から1.41倍に低下し、県全体でも公立高校の志願者は300人も減少した。その一方で、私立高校の志願者は増加した。様々な要因が考えられるが、授業料無償化の影響を見て取ることができるだろう。新しい時代を迎え、母覺や同窓会はどうあるべきか。来年の創立145周年を前に「選ばれる济々覺」であるための魅力づくり、伝統や実績に根差した覺風を磨き上げていくこと（ブラッシュアップ）が一層、求められている。

「高校入試に『異変』、私立高の無償化、専願受験に影響？」（2月3日付 熊本日日新聞）
「高校無償化で『異変が』 公立志向の熊本で私立『専願』が急増」（2月20日付 朝日新聞熊本版）

地元紙、全国紙がこうしたタイトルで、そろって今春の熊本県内の高校入試の「異変」を伝えた。公立高校全日制後期（一般）選抜の平均倍率は0.88倍で、昨年度の0.92倍から0.04ポイント低下し、人数で300人下回った。熊本市以外では、普通科に限ると、八代高の1.01倍を除き、全て定員割れし、中には志願者が定員の1割にも満たない高校もあった。熊本市内でも熊本西高が0.57倍と大きく定員を割っている。人気が高いとされる、いわゆる「四校」のうち、济々覺は1.48倍から1.41倍に、第一高は2.05倍から1.77倍に、第二高は1.53倍から1.32倍にダウン、熊本高だけが1.50倍から1.56倍に上昇した。

一方の私立高校はどうだったのか。多くの学校で志願者数が増加、特に顕著なのが専願（原則、合格者は入学辞退ができない）の志願者数だ。学園大附高とマリスト高はほぼ倍に、真和高校は約4割、九州学院高は約3割増加したという。

熊本県内の高校入試はこれまで「公立志向」が強く、第1志望は公立で、私立は第2志望とする受験生が多かった。ところが、今年度の高校入試では第1志望を私立高校とする受験生が大幅に増えた

のである。異変に注目した前記の新聞記事なども、この変化の大きな要因を高校授業料無償化と捉え、「昨年までのデータが通用しない」「学園大附高の奨学生合格ラインは济々覺を上回るかもしれない」といった塾担当者の声を伝えている。私立高校には、奨学生（入学金や授業料が免除・減額されるなど）の制度もある。これを含め、熊本県の高校入試の流れを整理してみよう。

◇1月下旬 私立高校の専願と奨学の試験◇2月初旬 公立高校の理数科や英語科などの前期（特色）◇中旬 私立高校一般◇3月初旬 公立高校後期（一般）が行われる。

従来、私立高校の奨学で合格を獲得した上で、公立高校前期（特色）後期（一般）入試に臨むのが一つの流れだった。しかし、今年度は私立高校専願の志願者・合格者が大幅に増加したため、奨学の枠が減少し、あおりを受けて不合格となった受験生が私立高校一般を受験したり、公立高校後期（一般）の出願変更（志望校の変更）をしたりする例も見られたとされる。

少子化が進む中で近年、私立高校は生き残りをかけ、設備の充実や学習環境の整備と合わせ、大学への進学率向上や指定校推薦枠の拡大など、入学者を確保するための様々な取り組みをしてきた。授業料無償化の拡大で、この動きにはさらに拍車がかかるだろう。逆に、設備や学習環境の整備の面では、公立高校にはあ

る程度の制限があることは否めない。無償化は中学生にとって、志望校選択の幅を広げる。本格的な無償化は始まったばかりで、来年度以降どのような変化が現れるか予測は難しい。ただ、公立高校はこれまで以上に私立高校との生徒獲得競争を迫られるとともに、生徒への教育力が問われる。母覺も現状に安住することが許されないほど、時代は大きく動いているようだ。

（田上賢祐・S49、上野功一朗・S61）

高校授業料無償化とは
平成22年（2010年）4月に施行された「公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する法律」による就学支援金制度。公立高校の授業料が実質無償化され、私立高校の生徒には公立高校と同額の就学支援金（年間11万8800円）が支給されることになった。当時の全国私立高校の平均授業料は年間35万4505円で、所得に応じて支給額が加算される制度もあったが、保護者の負担はまだ小さくなかった。その後の数回の制度変更を経て、今年度からは所得制限が撤廃され、公立高校では年間最大で45万7200円（全国私立高校の平均授業料年額）が支給されることになった。これにより、熊本県内の高校ではほとんどの学校で授業料が実質無償化された。

県の取り組み

私立高校は少子化進行による定員削減に危機感を持ち、「生き残りをかけて」「各々の個性」を磨き、魅力を実感できる学校づくり、熱心な生徒募集活動等を行ってきている。授業料無償化は、「私学シフト」の傾向を加速させる懸念が拭えない。

そこで熊本県は、「熊本ならではの魅力化、特色ある学校づくり」に取り組み、昨年9月に「県立高等学校のあり方検討会」で、「今後の県立高等学校のあり方について『熊本ならではの』学校モデルの創造」（提言）をまとめた。その一部を抜粋し紹介する。

私立志向の高まり

【高校1年生実員数の推移】

年度	H19	R4	R5	R6	R7
公立実員	12,655	8,984	9,467	9,107	9,002
私立実員	5,681	5,735	5,414	5,556	5,483
公+私（計）	18,336	14,719	14,881	14,663	14,485

公立の割合	69.0%	61.0%	63.6%	62.1%	62.1%
私立の割合	31.0%	39.0%	36.4%	37.9%	37.9%

全日制課程における公私の進学比率を比較すると、平成19年度（2007年度）は公立の入学者の割合がおよそ7対3だったのに対し、近年はおおよそ6対4の割合に近づいてきている。

- ・学習塾ヒアリングで挙げられた県立高校の課題
- (1) 授業料の実質無償化等による私学志向の高まりについて
 - ・無償化により授業料の実質負担が変わらなくなったので、学力や居住地域によっては私学志向が高まっている。
 - ・一家庭あたりの子どもの数が少なくなっていることも私立志向が増加している要因ではないか。
 - ・大学の推薦枠が多い私立高校は塾からも勧めやすい。
- (2) 私立高校（公立高校との違い）について
 - ・私立の教員は、異動がなく愛校心が強い。オープンスクールや塾への挨拶回りなど、生徒募集への熱心さが違う。
 - ・私立はホームページにもワクワク感がある。
 - ・私立は対応も迅速かつ柔軟。進路に悩む生徒の相談にもすぐに面談をしてくれた。
- (3) 県立高校の魅力化、特色ある学校づくりについて
 - ・定員割れをしている地域の普通科の高校について、特色のある学科等に改編することは逆効果になる可能性も。普

に1回実施している進路希望調査においても、私立の全日制課程を希望する生徒の割合が大きくなってきており、私立志向が高まっている現状がある（私立全日制希望者 H19：9.9%、R6：18.7%）。

通科を希望する生徒が多く、特色ある学科等ほど将来の選択肢が狭くなる、というイメージを持っている生徒も多い。

員を調整し倍率を上げるしかないのでは。
・県央学区は、学区が広がった影響で熊本市内への一極集中は止まらないのではないかと。

県外の進学校へのアンケート結果

高校授業料無償化に伴う受験の動向と、それに対する同窓会の意識などについて知るために、九州6県を代表する県立高校の同窓会に簡単なアンケートを実施した。調査は5月中旬に7校に調査票を郵送し締め切りの6月初旬までに4県の5校（福岡県立修猷館高校、福岡県立福岡高校、佐賀県立佐賀西高校、大分県立大分上野丘高校、他1校）の同窓会より回答があった。

回答のあった5校においては、今春の合格倍率が下がった高校は無く、無償化に対する危機感も「特に何も感じない」が3校、「感じた」「やや感じた」が各1校だった。

今回の無償化を機に、中学生や保護者の高校選びの変化を感じたかの問いには、「おおいに感じた」2校、「少し感じた」が1校、「何も感じない」が2校だった。

として何か対策の必要性を感じるか、という問いには、「特に感じない」が2校あったが、「おおいに…」2校、「少し…」が1校となっていた。

対策の具体例を任意で記入してもらったところ、3校記入があり、特に1校は別紙に数枚にわたって貴重な回答をいただいた。

伝統校だけに、対象の高校では今春の合格倍率が下がることはなかった。しかし、中学生や保護者の意識の変化や、それに対する更なる対策の必要性を感じる同窓会も多いようだ。具体的には奨学金をはじめ、海外研修や部活動への補助など、金銭的な支援が中心で、すでに実践しているとのことだった。この回答を通じて各同窓会の母校への愛校心と誇り、生徒への熱い思いが伝わってきた。

（小川勝彦・S49、島田等・S49）

学校・同心会・同窓会による鼎談 選ばれる学校とは

济々賢がこれからも魅力ある学校、選ばれる学校であるために何が必要なのか。学校と同心会（PTA）、そして同窓会が取り組む対策と同窓会の支援のあり方について、坂本憲昭賢長、小田健正同心会会長（H7）、諸熊建次同窓会会長（S44）に話してもらった。（撮影＝猪 献一郎・S49、進行＝上野 功一朗・S61、記録＝吉田 光一郎・H3）



坂本憲昭賢長

公立と私立では補助額にかなりの差があり、不公平感があります。公立高校は地域に根ざし、その地域を支えるということから経済的優位性があった。しかしその役割が果たせなくなるかもしれない。諸熊 これまで行きたいと思っています。経済的な理由で我慢していた子どもさんが私立に行きやすくなるということはあるでしょう。ただ、郡部の公立高校はより影響が大きいでしょうね。学業の面はどうでしょう。志願者の減少で学力が低下する心配はありませんか。

坂本 私立高校は予算の掛け方などに柔軟性やスピード感があります。特に施設、設備などはそうで、それが強みだと思っています。しかし、そんな私立高校と競争する中で、最も大切な教育の質という面で負けているのではないかと考えています。本賢で言えば、無償化が直接学力の低下につながると思っています。諸熊 高校生をもつ親、保護者としては、どう捉えておられますか。

小田健正同心会会長（以下、小田） 同心会の役員さんたちにも意見を募って

きましたので、それも含めてお話しさせていただきます。先ほど坂本賢長からお話があったように、子どもたちの進路選択の自由度が広がったこと、家計の安定と安心感、それに、今は共働きが一般的で、世帯所得から対象外とされていた家庭が多かったため、所得制限の撤廃、以上がメリットとして挙げられた点です。次に心配、懸念する点として、困窮世帯から高所得世帯まで一律ということ、入試状況の変化から不安や戸惑いを見せる子どもが多かったこと、教育の質が変化するのは、ということが挙げられました。授業料が無償化になっても、諸費用の面で公立と私立では差があります。私立は特色を出すために予算を集中的にかけることができます。すると相対的に公立高校の特徵や魅力が薄まってしまふ。子どもたちが学ぶ機会を平等に得られるように、頑張る子ども達の意欲を削ぐようなことにならない制度になってほしい、というのが保護者としての感想です。

諸熊 無償化が本格的にスタートした今年の入試、報道では「異変」といった言葉も見られましたが、学校としては何か変化を感じられましたか。坂本 授業料無償化が固まってから1回目の入試で、倍率などを見てもはっきりと変化があったとは思っていません。ただ、入試後、中学校の先生から、併願していた私立高校の入試が不調に終わったため、本賢を受験する予定だった何人かの生徒が志望校を変更したという話を



小田健正同心会会長

聞きました。影響や変化については、今後も情報の収集と分析を続けていきたいと考えています。諸熊 保護者の方はどうでしょう。何か変化を感じたことはありませんか。小田 私学志望者が大幅に増加したことで、併願していた私学が不調だった公立の志望校を変更したといった話は、以前に比べて多かったように思います。公立の小中学校で過ごしてきた子たちは、学校説明会などで、私学の整備された施設にある種の憧れを抱くようで、これも志願者が増えた要因かもしれません。

諸熊 今年の入学式で賢長も、私も「济々賢に来てくれてありがとう、選んでくれてありがとう」と挨拶しました。「選ばれる高校であるために」というのが、今回のテーマでもあるわけですが、長年のご経験から、中学生が高校を選ぶポイントみたいなものはあるのでしょうか。

坂本 まずはさまざまな実績とそれが積み重なってきた伝統ではないでしょうか。これは保護者も含めて。本賢には長い济々賢ということ、同窓会の皆様には、お子様やお孫さんにもぜひ济々賢に来ていただければと思います。

諸熊 中には3代、4代という方もおられる。ぜひ頑張ってもらいたいですね。同心会の方はいかがでしょうか。

小田 これはOBとしての意見になりますが、济々賢には4万人を超す卒業生がいて、各地で活躍されています。これはどの学校も真似のできない、最強の資産ですから、この活用を考えてみるのはどうかと思っています。先ほどから出ている情報発信についても、それに長けた若い世代の同窓生も多数いると思います。そういった人脈を使って济々賢の魅力を外部に発信する。それと現在行われている職業講演会や進路相談などをもっと細分化して、オンラインでの面談や相談ができる仕組みを作るといったことも可能ではないでしょうか。同窓会がある意味でキャリアコーディネーター的な役割を担うことができれば、今でもそうですが更に、卒業してから長い济々賢というのが、大きな魅力になると思います。

諸熊 各地区の同窓会を回ってみて、様々な場で活躍しておられる方が沢山いる、本場に多士済々だと感じています。経済的な支援の拡充に加えて、魅力の情報発信と同窓生のネットワーク作り、新たな検討課題、宿題をいただきました。今後前向きに検討していきたいと思っています。今日は貴重なお話を聞きました。ありがとうございました。



伝統と実績に基づいた、地域に根差した高い信頼度、知名度があります。経済的な面においてもトータルコストで言うところ、選ばれる土台はできていると思います。我々職員は、当たり前のことをしっかりやるだけですが、生徒に対する日頃の教育活動を充実させることに注力しています。生徒の進路を全力で支える、部活動や学校行事を通して人間性を高める、先輩たちが培ってきた文武両道の伝統を踏まえた上でグローバル・リーダーの育成を目指しています。塾では学力中心で進路指導されているといったことも聞かれますが、本賢の教育活動の内容やねらいなどを中学生やその保護者にしっかり伝えることで、ぜひ济々賢で学びたいという生徒が増えてほしいと思っています。諸熊 先日、今春卒業した生徒たちと

話す機会があったのですが、彼らもやっぱり先生方に進路指導などで本場にお世話いただいたということを書いていました。これこそ济々賢の伝統でしょうが、先生と生徒の関係、人と人の繋がりが強い学校だなと感じたところでした。坂本 この高校も普通科であれば学ぶ内容自体はさほど変わりません。本賢の風土、賢風が口コミで中学生やその保護者に伝わってきた、济々賢に行ってきた、やって良かったと言われてきた結果が今に繋がっているのだと思います。諸熊 派手なアピールは必要ないにしても、今後はこの会報誌も含め、何らかの広報活動と同窓会としてお手伝いしていきたいと思っています。坂本 ありがたいことに、本賢は公立高校の中ではスクールアイデンティティが確立されていて、こんな特色のある学校だというのが一般にも知られています。ただ、時代や中学生の気質が変わっていく中で、中学生にとって憧れの学校であり続けるためには、伝統に新たな学びで磨きをかけ、適切な情報発信を心がけたいと思っています。



諸熊建次同窓会会長

諸熊 進路を決めるポイント、保護者の方はどう見ておられるのでしょうか。小田 子ども達から多く聞かれるのは、やっぱり文武両道という昔からの賢風の部分。在賢生の自由闊達さや通いやすいという立地条件、周囲からリスペクトされる学校というのにも聞かれます。それと、偏差値がちょうどいいということ。ただ、

母費を全力支援 — 同窓会の取り組み

(上西川原千晶・H4)

多士会館は、済々黌高校創立100周年を記念して昭和59年に建設され、今年で築後42年を迎えました。長年にわたり、本黌の教育活動や交流の拠点として、多くの方々に利用されています。昭和59年以前の卒業生にはあまり馴染みがなく、平成前半の卒業生も部活動の合宿で使われたり、留年危機の生徒のための補講通称バカ合宿?が行われたり、ごく一部の生徒しか利用していなかったイメージかと思いますが、在黌生の間では「たしる」(＝多士会館で勉強する)、「たしダッシュ」(＝多士会館で座席を確保するために、放課後すぐにダッシュすること)など、多士会館にまつわる造語があるほど、とても身近で愛されている会館です。

多士会館の歩みと現在の取り組み
現在、会館では在黌生の学習環境の充実に力を入れています。部活動終了後も学習に取り組みたいという生徒の声に応え、外部委託と同窓生開館ボランティアの協力により開館時間を延長。日々、多くの生徒が自習に励んでいます。中学生には「済々黌には塾に行かなくても自習できる場所があるらしい」と知れ渡っているようで、入学式後に見学に立ち寄る新入生や保護者の姿も見られます。

また、多士会館は同窓会や同心会(P.T.A)活動、学年会の開催場所として活用されているほか、地域の皆さまの会合や研修会の場(一部有料)としても広く利用されており、学校と地域をつなぐ大切な拠点となっています。

多士会館運営費の主な使途について
皆さまからお寄せいただいている多士会館運営費は、主に以下の用途に活用されています。

まず、建物および設備の維持管理・修繕です。築40年以上経過し、日常的な維持管理に加え、空調設備の更新や屋根・外壁の改修など、定期的に大規模な修繕が必要となっています。次に、部活動助成金として年間約120万円の予算を確保し、九州大会・全国大会へ出場する部活動への遠征費の助成を行っており、生徒たちの活躍を後押ししています。さら



多士会館で自習をする生徒たち。いつも満席状態

に、開館時間延長に伴う管理業務の費用です。現在、平日は21時まで、土曜日は19時まで開館時間を延長しており、その管理業務をシルバー人材センターへ委託しています。同窓生による開館ボランティア(無償のご協力も頂いております。未来へつなぐために)

一昨年度までは日曜日も開館していましたが、ボランティア不足および業務委託費の削減のため、昨年度より日曜日は閉館としています。また、これまでは学校の教室も勉強場所として、週末19時まで利用できていましたが、教諭の働き方改革の観点からも、生徒の安全確保が不十分となるため、一部部活動で使用する以外は週末の立ち入りが禁止とされたようです。日曜の勉強場所を失った生徒たちからは「地元の図書館に空席がない時が多く、フードコートやファミレス、スターバックスやマックで勉強しているとお金がかかる上、長時間いると追い出される」との声もあります。開館ボランティアについては、なかなか人員確保が厳しく、今後は有償化検討の余地もあります。多士会館をこれからも末永く維持し、次の世代へ引き継いでいくためには、継続的な支援が欠かせません。今後とも、皆さまの温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

少子高齢化だのタイプ重視だのと言われる令和の世。我が済々黌同窓会組織にも、次世代を担う若きリーダーたちが続々と誕生しています。今回は、各地区や世代を率いる新会長5人(うち隊長1人含む)を集め、活動報告から「ぶっちゃけ青年会ってどうなの?」という本音まで、NGなしの一问一答形式で語り尽くしていただきます! (という超下定番ベタベタな企画)

しかし、紙面の都合で一部割愛! 全面公開は同窓会HPにて! 同窓生の皆さん、こちらもぜひお読みください。

【お話を伺った新会長の皆様】
林浩平さん(熊本・前年度会長・H18)
竹内督翔さん(熊本・新会長・H19)
森川大輝さん(関西・新会長・H26)
横田賢さん(東京・新会長ではなく運営を任されているそうなので、今回「隊長」と命名・R2)

Q1: まずは小手調べに、前年度の青年会の活動報告からお願いします!

林 熊本では昨年度も怒涛のスケジュールでした。5月の「英霊追悼式準備・参加」、6月は「多士会館エアコン清掃」(これがまた良い汗かかったです)、8月は「就職相談会&多士黌流会(夏の懇親会)」、2月にはH18〜21卒の「4学年合同懇親会」を開催し、そのまま卒業生への活動紹介へと駆け抜けました。4月にも春の懇親会を行っています。また、H18卒からR8卒までの代表評議員をつ

なぐ「LINEグループ」も作成、フル活用しています!

森川 関西では5月の「新入生歓迎バーベキュー」(25頁に写真)ですね。昨年は熊本高校同窓会と合同で50〜60名の参加でしたが、今年は済々黌単独で、なんと40名程に! 青年会のポテンシャルの高さを見ましたね。

横田 東京でも5月に「上京生歓迎BQ」(25頁に写真)をやりました! 新卒のR8卒が20名、さらにR7卒も10名ほど継続参加。平成卒の初参加の方もいらっしやって、大盛況の歓迎会でした!

Q2: それぞれの「新会長としての抱負」を教えてください。

林 とにかく「若手を巻き込むネットワーク形成」です! 同級生をどんどん巻き込んで、みんなで大同窓会を笑顔で迎えられる環境を整えたいですね。

竹内 再来年の大同窓会に向けて、少しずつ同級生の絆が深まっているのを実感しています。繋がりを次世代へ継承できるように踏ん張ります!

森川、横田 青年会をただ集まって飲むだけの懇親の場にしたいくないんです。「超実用的な場」として、気軽に来られる活気ある会に育っていきます!

Q3: ここ为核心に迫ります。正直、同窓会って『おじさんたちの集まり』だと思いませんか? ……?

林 最初は巨大な壁のように感じてい

令和7年度ボランティア協力者(敬称略)
真島雅久(S43)、江口正明(S43)、江藤誠矢(S43)、藤澤哲也(S43)、桂輝雄(S44)、河内正(S44)、宮本誠二(S44)、諸熊建次(S44)、中村俊雄(S44)、中原勝宣(S46)、今井直美(S46)、森田勢津(S46)、名和直子(S47)、曲梶信之(S48)、江上憲二(S49)、今井政文(S49)、長谷川佳代子(S49)、工藤誠一(S50)、野田研一(S50)、大田黒浩一(S51)、岡本一隆(S52)、山藤博喜(S52)、塚本亮司(S52)、北原政典(S52)、林田進(S52)、龍田文彦(S52)、渡邊祥子(S53)、野口伸三(S53)、岩田智子(S55)、柴田弘之(S57)、安部浩司(S58)、坂梨昭弘(S58)、緒方誠司(S59)、浦田美紀(S60)、坂井木綿子(S60)、北里佳寿子(S60)、甲木哲哉(S61)、甲木和世(S62)、松田健二(S62)、松村和也(S63)、吉田二浩(H27)、吉原勇二(H4)、富永結貴(H16) (県庁同窓会では会員の皆様にお声がけ、ご協力をいただきました。)

【同窓会助成金】	
進学奨学金	500,000 円/人 複数人可
進学関連助成金	未来探究 1,000,000 円 (英検報奨金と合わせて)
	英検・TOEIC 等報奨金
	1 級 = 20,000 円、準 1 級 = 15,000 円
	多士賞 クリスタル楯・図書カード・賞状
	就学助成 100,000 円/人 複数人可 (※)
卒業証書用ファイル	
應援同好会助成金	100,000 円/年
【多士会館助成金】	
部活動	九州大会 5,000 円/人 (上限 100,000 円)
助成金	全国大会 10,000 円/人 (上限 200,000 円)

※就学助成金は現在まで助成なし

ました(笑)。代表評議員会なんて、すべてが上の世代の決定事項の報告会みたいで、「若手の自分が席を温めている意味はあるのか?」と毎回疑問でした。でも「ここで存在感を出さないと、自分たちの代の大同窓会が失敗する!」という勝手な危機感から参加し始めて。気づけば楽しい仲間が増え、そして自分もおじさんになっていました。

竹内 現在38歳の私は、おじさんなのか、まだ若いのか…。20代の後輩から見たら十分おじさんですよ。どの世代からがおじさんか分かりませんが、現状、同窓会がそういう場であるなら、もっと若い人たちが「行きたい!」と思える会に変えていかないといいですね。

横田 コロナ明けの集まりの時、同期と軽いノリで行ってました。そして、先輩方は皆さん気さくですし、今では普段からめっちゃくちやお世話になっています。

Q4: 青年会をどう「利用」したら、私たちの世代はもっと面白くなると思いますか?

林 つなぐりを私生活や仕事に生かすこと。あとは、活動のルール自体を面白く変えちゃうのも手です。先輩方が驚くような提案を仕掛けていくと、一気に活動がエキサイティングになりますよ。

竹内 まずは「イベントを面倒くさいと思わないこと」ですかね。仕事や子育てで忙しい世代ですから、「来られる人

「ぶっちゃけ、青年会ってどうですか」

この記事の執筆も担当する 兼 インタビュアー
富永 結貴 (青年会前々々会長・H16)

【同窓会会報特別企画】
40歳以下会員 全員集合
青年会新会長 インタビュー!

が、来られる時に行く」でいい。青年会内のタスクや情報をしっかり共有して、負担が特定の誰かに集中しない仕組みを作れば「ちょっと行ってみようかな」という人が増えるはず。

森川 これまでは「参加して何になるのか、何に繋がるのか」が見えにくかったのが、若手の参加意欲を上げていた原因だと思っんです。そこをクリアにしていきたいですね。

横田 より自由度を高く、いろんな面白い企画を実行していきたいです！せっかく後輩たちもたくさん来てくれているので、彼らにプラスになる刺激を与えたいですね。

富永 皆さん素晴らしい！敢えて前々々会長として言うとしたら、「もっと先輩や同級生、後輩を頼ってみては？」という事ですかね。まあ、その辺を私が一番うまく出来ていないので、自戒を込めての意見ですが（笑）。故に今こうして原稿の締切ギリギリまで追い込まれているわけですがね！あ、涙が出てきた。

Q5 最後は、これからの青年会会員、そしてまだ見ぬ若手同窓生へメッセージをお願いします！

林 同窓会は、済々黉の卒業生が様々な社会と繋がる「プレミアムチケット」のようなものです。青年会はその入り口。若いからこそ遠慮なく意見を交わし合い、時には先輩の懐に飛び込んで頼る。そんな活気ある場にしていきましょう！

竹内 会長をはじめとする運営陣はそれ

なりに大変な部分もありますが、一般会員の皆さんは「良い所どり」で美味しいところだけ楽しめばいいんです（笑）。せっかくの済々黉の繋がりを、仕事でもプライベートでも最大限に使い倒してください！

森川 青年会を単なる「あぁ楽しかった」の飲み会で終わらせず、悩み相談や人脈形成ができる「実用的なプラットフォーム」として活用してください。関西でお待ちしています！

横田 私も運営としての歴は浅いので、「もっとこんなことがしたい！」「こういう企画なら行きたい！」という意見があれば、気軽にメッセージをください。皆さんが「済々黉生でよかった」と思える東京青年会を一緒に作りましょう！

富永 皆さん、爽やかで気持ちのこもったメッセージありがとうございます！この良い流れに乗って、私からも。過去の自分も含めて、若い世代にこれだけは言いたいです。

「コスパとか、タイパとか言ってるじゃないよー！」

一生分の運を使い済々黉に入った私が前々々会長として敢えてそれっぽく言うなれば、「目先の最適は、人生の全体最適ならず」です。一見、無駄に思える集まりにこそ、とんでもないお宝（人脈や美味い酒）が転がっています。青年会は、いつでも皆さんの参加をお待ちしています。敷居は恐ろしく低く、お酒は美味しく、先輩方は優しいです。ぜひ、次のイベントで僕たちと握手しましょう！

みて選抜が行われるので、ずっと夢であった助産師になれるようコツコツと頑張ります。また私は高校時代漕艇部に所属していました。保護者の方々や顧問の先生方、素敵な仲間のおかげで2年間本当に幸せな青春を送らせていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。その思い出のおかげかボートの練習のきつさを知っているはずなのに大学でもボートを選んでしまいました。大好きな先輩達が頑張っている姿を江津湖で見ながら、私も夢に向かって努力を続けていきたいです。



横浜国立大学都市科学部建築学科
中村 優希 さん

私は現在、建築の歴史や理論、図学を学ぶ一方で、数学や物理、英語、フランス語などの基礎的な学問を学び、建築を考えるための土台を少しずつ築いています。絵画や彫刻など芸術作品についての授業もあり、実際に絵を描いたり彫刻を作ったりしてとても面白いです。また、学びの場である横浜という都市について考える機会も多くあります。自然と都市、歴史的建築と現代的空間が共存する環境の中で学ぶことで、建築に対する視野が着実に広がっていること

を実感しています。さらに、地域課題実習という活動の一環として、新潟県にある古民家の再生プロジェクトにも参加しており、地域の歴史や暮らしに根ざした建築のあり方について考える貴重な経験となっています。

私の大学生活における大きな目標は、「後悔しないこと」です。済々黉での生活にはとても満足していますが、もっと挑戦すればよかった、あのときこうしておけば、と思うこともあります。大学では建築の勉強はもちろん、ギターや留学、インターンなど自分が興味のあること、やりたいことには積極的に挑戦していきたいと考えています。4年生になったときに悔いが残らないよう、遊びにも勉強にも全力で取り組んでいきたいです。



九州工業大学
福井 瑠渚 さん

急に何か話すといっても難しいですが、まずいえることは、大学生活はとても楽しいということです。だから高校生には自分が行きたい大学に向けてたくさん努力をして後悔しない人生を送ってほしいなと思います。勉強したくないときには大学生生活の

令和8 新卒生 新生活は どうですか？



立命館大学
上村 瑞帆 さん

現在はアルバイトも探しているところで、生活面でも少しずつ自立していけるよう努めています。今後も熊本での経験を糧に、大学生活が豊かなものとなるよう自分らしく取り組んでいこうと思っています。



熊本大学医学部保健学科
森下 光雪 さん

現在は毎日1限から授業があり、語学と経営学を中心に、想像していた以上に忙しい日々を送っています。将来的には留学にも挑戦したいと考えているため、手を抜くことなく何事にも全力で取り組みたいと思っています。熊本を離れて関西で生活する中で、地元の良さを改めて実感する機会が増えました。特に水の美味しさや方言の温かさは、離れて初めて気づいた魅力です。時には関西の方言に戸惑ったり、自分の言葉が通じず難しさを感じることもありますが、地元の言葉はこれからも変えずに大切にしていきたいと考えています。関西地域の同窓生と再会できる機会もあるとのこと。母校との繋がりを大切にする済々黉ならではの機会だと感じしており、とても楽しみです。熊本を身近に感じられること、嬉しく思います。

ことを想像したら頑張れるかもしれないです。受験勉強なんて今となってはいい記憶なんてないけれど、その努力は一生の宝になったと思います。私からは高校生のうちにしておくべきだったことについて話そうと思います。それは英語の勉強です。私自身英語が苦手で逃げてしまい、今後悔後悔中なので本当に頑張るべきだと思います。今の時代何をやるにしても英語が関わってくるので努力しておいて損はないと思います。私が通っている大学ではTOEICのテストがそのまま成績になるので英語が苦手な私は大変です。またTOEICの点数が高いと就職にも有利に使えるのでとても大事です。最後になりますが高校生の皆さんは青春を謳歌してほしいです。大学生になって部活動や文化祭、運動会などがとても懐かしく思えます。あの楽しさは人生でそのときにしか経験できないものなので楽しんでいい思い出にしてください！！



慶應義塾大学総合政策学部
住 夏綺 さん（写真中央）

地域コミュニティやまちづくりに興味があり、済々黉在学中には、子飼商店街をフィールドに活動してきました。現在は、

大学のある神奈川県藤沢市をフィールドに農家さんのお手伝いや、ゲストハウスを地域の方々や交流できる場にしていく取り組みなどを行っています。朝から田んぼに行き、田おこしをして、おにぎりを食べてそのまま1限の授業に向かったり、休日には玉ねぎを収穫し、寮で料理をしたり。「藤沢市を知ることから始めよう」を自分のテーマとし、地域の方々との対話を大切にしています。

また、授業ではウェルビーイングに基づく政策を考えてみたり、「聴く」とはどういうことなのかについて考えたり、インドネシア語を学んだり、大学の仲間たちと切磋琢磨しながら、自分の学びを深めています。勉強だけでなく、ずっと憧れていた吹奏楽も始め、放課後はアルトサックスを吹いています。

自分の「やりたい！」という気持ちに素直に、そしてそれをカタチにすることを大切に。あえて熊本から離れ、自分の大好きな熊本を盛り上げていくために、全国、そして世界をフィールドに学び、その学びを熊本に還元していくために。済々黉で挑戦し続けた私は今、また違う舞台でも挑戦し続けています。

高校3年間、家族や仲間、先生方、そしてOB・OGの方々がたくさん支えていただきました。そのおかげで、今自分がワクワクする学びを追いかけられる環境にいます。たくさんの方々への感謝と愛を忘れず、これからも挑戦し続けていきたいと思えます。

「やりたいことを応援」…共通テスト後、冷静になって本当にやりたいこと（一級建築士になる）を考へて、それまでの志望校を変えて先生に「やっぱり横国（横浜国立大）を受けま

すって。びっくりはしてたけど、やりたいことがあるなら応援するって（横国を）受けさせてくれた。

「やる杭が打たれなかった」…何かをしていても、先生方からは一回も否定されなくて、ずっと応援。いい意味で、挑戦する人を応援するっていう空気があって、やってみようって思えた。部活も勉強も「頑張ってる人」が多い。

毎年、済々黌を卒業するのと同時に日本中あるいは世界に散っていくのは、当たり前であり、それこそが頼もしき済々黌同窓生なのだが、一方でそのまま学費、同窓会と縁遠くなってしまふ人も多い。卒業からあまり経っていない世代とのつながりを少しでも太くしていくために、こ



座談会終了後に参加者の皆さんでお食事会。来年に向けて当時2年生の平野百華さんも参加

るにあたって、先生が色んな練習させてくれたり、親身になって考えてくれて、本当に先生最高になって。ずっと1年生の頃から医学部行きたいって言ってたから、進路よりも勉強の面で相談することの方が多かった。数学とかの質問とかもいつでも受けてくれるし。医学部だから面接もあるけど、大体2日に1回ぐらいのペースで面接練習入れてくれて、本番の面接の時は楽な感じで受けられた。

「親身な先生方②」…元々は普通に入試でと思っていたが、大学見学から興味を持って九工大の推薦を受けようと動き始めたら、先生も面接練習とかで支えてくれた。志望理由書にしても、最初自分の思うままに書くけど、やっぱりそれじゃダメだから、先生がすごいサポートしてくれる。休憩時間でも、全然嫌な顔をせずに「あ、いつ空いてるよ」とか言ってくれて…本当にありがたうございます。合格したって言いに行きた時も泣いて喜んでくれる先生もいて、本当にすごいな、この先生は、っと思いました。

「第一志望を優先」…受験に関しては本当に第一志望をみんな頑張ってるって受けて、受からせようみたいな学校の雰囲気がある。最初から私立第一志望でやっていると、なんとなく「私立より国公立が上」という思想のようなものが根付いている（と感じる）。先生からまずは国公立から提案されたりもしたが、2年の時の担任が「私立でもしっかり応援するよ」と、実際に応援してくれた。3年になって担任ではなくなっても夜の7時、8時まで相談に乗ってくれた。

「主要校偏重？」…超難関大コースと難関大と地元大コースみたいに分けられていて。その名前になるような大学以外の大学志望だと、あんまり個別の対策とかはやってくれなかったなっていう印象。レベルとは別に、済々黌にとってマイナーな大学に対するある種の冷たさという。皆さんよい学費生活を送ったようですが、中学生に済々黌、薦めますか？…全員が同意、「薦める」。「出る杭が打たれなかった」…何かをしていても、先生方からは一回も否定されなくて、ずっと応援。いい意味で、挑戦する人を応援するっていう空気があって、やってみようって思えた。部活も勉強も「頑張ってる人」が多い。

言わせて！座談会



4万人を超える済々黌の同窓生の中で一番若いのは、もちろん今年卒業し、同窓会に入会した令和8年卒の皆さんとなる。彼らがどんな思いで済々黌に入ってきて、学費生活を送り、そして済々黌を巣立ってこれからどんな同窓生になっていくのか。卒業式から2週間足らずの3月12日、卒業したての新同窓生に学費に集まってもらい、色々な話を語ってもらった。

参加者は一村竜光さん⑩、浦田佳奈さん⑤、上村瑞帆さん①、住夏綺さん③、竹内梨乃さん⑥、中村優希さん⑩、福井瑠渚さん⑧、森下光雪さん⑥、渡邊薫さん⑩（五十音順 数字は3年次クラス）。（吉田光一郎・H3）

「親世代の人達の熱量がすごい」…3年間部活動も済々黌だからこそ「やっぱ部活動も」っていうのはすごく感じた。OBの人たちもすごく積極的、なんなら生徒より保護者の方がすごい応援熱心だし、みんな黄色い。すごい熱量を感じて、

「親身な先生方①」…私は熊大の推薦なんですけど、推薦を受ける時に先輩方から熊大の実際の様子をお聞きできる機会を設けてくださって。そこは済々黌でよかったなって思うし、面接の練習をさせてくれて、今がある。

「制服が可愛い」
「応援団やりたい」
「家族を見て」
「熊本市内の学校に行きたい」
「部活と学業の両立」とイベントごとが楽しそう」
「塾の推奨」
「目標に向けての最短ルート」…小学校の頃から助産師になりたいと思っていて、大学4年間でその資格が取れるのが熊大で、そこへの進学率が高いのが済々黌だったから。

「別の人からめっちゃ逆算したんだ！もっ少しく詳しく教えてください。」
小学校6年生の頃に助産師になりたいっていったら、お母さんが「助産師（資格）を取れる大学はどこだ？」って調べてくれて。ちょうど近くに熊本大があって。さらにお母さんがまた調べてくれて、熊大だったら済々黌が進学率高いよということ。済々黌に。もう一つには多士会館が大きな理由で、高校に行ったら塾には行かないと決めていたので、多士会館で自習できるのはホントいいなと思って。多士会館が出てきましたが、多士会館、どうでしたか？
多士会館：めっちゃイイと思います！行ってる人が多いかも。
夜遅くまで開けてくれてるところ（が）ありがたかった。3年間塾に行ってなかったから、家だと勉強出来ないし、学費（教室）は19時に閉まるし、本当に

「入学して知った、多士会館。確かにそこ（塾に行かずに自習出来る）、アピールポイントだよ、絶対。でもやっぱり、（多士会館のことを）知らないっていうよね、中学生の時。皆さんの学費生活について、行事とか、部活とか？」
「両学年でした」…イベントの大半が雨で、修学旅行も雨で、遠足も雨で中止に。最後の卒業式は晴れてよかった！
「運動会」…運動会前の体育館の練習会があったけど。どれぐらい本気で歌うべきか。「黌歌って歌うものなんだ」っていう（事に気づいた）。先輩たちがお手本を見せてくれたから、それが当たり前になった。練習会って実は一番大切かも。



会場にはたくさんの同窓生が詰め掛けた。

難い人材だった。以後すぐ、もう翌年には木村氏の下で教頭役をやってですね、県下の教育に新しい風を吹き込んでおられる。2代目の佐々友房、3代目の木村弦雄、4代目の八重野範三郎、この3代の覺長を補佐して、まさに三綱領教育を実践されております。

また、明午橋の横に自宅があったんですが、そこに明治23年に「二三学舎」と

名付けた寄宿舎を作られて、生徒と一緒に寄宿舎生活をするという教育をされています。

明治29年に濟々覺覺長心得、翌30年に第5代中学濟々覺覺長となり、大正12年6月に熊本県立中学濟々覺覺長を辞任するまで35年間、濟々覺のみならず県下の尋常中学教育の発展に尽くされました。

覺長在任中には、今のクラブ活動、課外活動をやられた。それから清明、仁愛、剛健という覺歌の中にも入っており、まですけども、三綱領をもっと分かりやすくした八条目というのを作られております。日露戦争時には現地に派兵された約300名の濟々覺卒業生に数回にわたって慰問状を送り、その返信は戦地の実情を伝える教材となりました。当時は非常に戦勝気分で沸きますけれど、実際はこういう悲惨なことがあるんだと、戦勝気分には浮かれないで学業に励みなさいというふうなお手紙もあり、戦地の実情を伝える教材として濟々覺の生徒たちにそれを読み聞かせて教育を行った。それらをまとめたのが『日露戦争従軍将兵の手紙』です。日露戦争で戦死した50数名のために基金を募って、覺門入って左側にあります忠烈之碑を作られた。

明治45年に創立30周年を記念して覺歌を制定（作詞：山形元治、作曲：猪瀬久三）。史実に基づいて加藤清正、細川重賢、宮本武蔵など熊本の偉人を紹介した副読本『多士読本』を作成されています。宮本武蔵を史実に紹介したのは、井芹

先生の講演録をまとめた本が最初で、おそらくこれを読んで小説にしたのが吉川英治です。吉川は後に書いた随筆の中で井芹先生の事を紹介しております。

大正6年から7年にかけて、井芹先生は第一次世界大戦期のアメリカに学事視察に行かれています。当地で自主自立の精神や男女共学に感銘を受け、現地から濟々覺の生徒や教職員に多数の書簡を送っておられます。「米国人が極めて自治心に富み、公徳心の頗る発達せる点など我が日本の現在とは殆ど比較にならぬ」と述べておられる。後に、日本が鬼畜米英ということと全く違うようなことを言っているわけです。これは先生の非常にリベラルなところだと思います。

帰国後先生は、朝礼の開始、父兄会の組織、家庭訪問、臨海学習などを取り入れておられます。また、当時はそのまま持ち上がりだったのを変更され、学級組織編成（クラス替え）を導入されました。さらに、食育や覺庭の洒掃、冬期夏期の課外授業、模擬試験など、まさに現代教育の先駆けとなることをやって、全国中学の模範校として進められました。

遺産の継承

『井芹経平先生傳』に使われている史料に濟々覺の機関誌『多士』が多く使われています。米国公文書館の台座に「過去の遺産は将来への実りをもたらす種子である」と刻印されていますが、三綱領や濟々覺の「記憶の器」の蓋を開け、教育の遺産を今に生かす「羅針盤」として使うことが重要です。

濟々覺が所蔵する史料は、まさに「記憶の器」です。記録ではなく、記憶。それらの中には、濟々覺の機関誌として最初に作られた『大東立教雑誌』、その後の『文学世界』、九州学院になった一時期の『高原』『多士』と、それらにまつわる色々な史料があります。紙のものだけでなく、忠烈之碑なども含めて、まさに濟々覺アーカイブズ（Archives）。

史料保存アーカイブプロジェクトチームの皆さんはボランティアで毎週水曜日に集合し、その確認作業を行っています。現在、創立150周年事業の準備として資料の収集・整理を行い、特に「井芹先生の教え」という小冊子を、濟々覺の機関誌『多士』から抽出し、デジタル化して編集し、小冊子にまとめるという作業を始めているそうです。

アーカイブズというと、一般的に公文書館とか資料館といった表現になるのですが、これらの史料をただの保存に留めずに、今の学びに生かし未来に繋ぐということが問われているわけです。ぜひ同窓生の皆様にも、この点についてご理解とご協力をお願いしたいと思います。

【佐々博雄氏・プロフィール】熊本市出身。佐々友房先生の兄・佐々干城氏のひ孫にあたる。在覺時はポータル部に所属（創立メンバー）。国士館大学文学部卒業、中央大学大学院文学研究科修士課程修了。専門は日本近代政治外交史。現在、国士館大学名誉教授。

佐々友房先生没後120年、井芹経平先生没後100年 記念講演会

濟々覺を貫く 佐々先生・井芹先生の教え －近代保守教育の源流・教育の遺産を今に生かす－

講師 国士館大学名誉教授 佐々 博雄 氏（S42）



同窓生を前に講演する佐々博雄氏

今年は佐々友房先生没後120年、井芹経平先生没後100年に当たる。史料保存アーカイブプロジェクトチームでは5月21日、濟々覺同窓会総会後に顕彰事業として講演会を企画、開催した。講師は同窓生であり、友房先生の兄・干城氏のひ孫である佐々博雄氏。以下はそれをまとめたものである。（倉澤隆子・S51、上野功一朗・S61）

友房の想いと時代背景

初めに、副題にある保守教育とは何か、ということを少し説明しておかないといけないかと思います。これは新しい理論や知識を急進的に早急に取り入れるのではなく、この熊本の地で長い歴史と伝統のもとに培われた文化や慣習の中で、それらを生かしながら噛み砕きながら取り入れていくという、そういう教育。そういう意味で保守という言葉を使っています。濟々覺はまさにその源流であるということです。

友房、井芹先生が生きた時代というのは大日本帝国憲法、天皇主権という中でです。明治政府は近代化というものをやって行くわけですが、急速な西洋化、近代化というのはいろんなひずみを生んでいます。そういう中でこのお二人は、熊本の中での伝統的に育ってきた考え方というものを生かして、国家に対して責任を持てる国民を育てる、彼ら個人個人の人格を完成させるということを目指したわけです。

明治国家の形成、その骨組みができるのが明治22年の大日本帝国憲法の発布です。生まれたばかりの近代日本の足元を固めていくということで、非常に政治的な部分も出てくることから、友房はこの

年に濟々覺の覺長を辞めて政治の方に向かうわけです。ただ、それで濟々覺の教育から離れたわけではなくて、その後も財団法人濟々覺の評議員として、39年に亡くなりますけども、それまで濟々覺の支援を続けています。

濟々覺を貫く教えといえは三綱領です。明治憲法体制を支えた大きな柱というのは官僚制度、軍隊、それから教育勅語の3つがあるわけですが、この教育勅語が出されたことによって、まさに濟々覺の三綱領と軌を一にする内容であった、明治国家が濟々覺の教育を認めたということ、それ以後、濟々覺の経営的なものも確立していくわけです。

同心学舎、濟々覺というものは在野士族、この熊本で育った人たちによって作られた教育機関であって、決して政府が指示して、それを受けて作られた学校ではなかった。その教育というのは、彼らの体験、まさに反政府的な体験、経験、そういうものから生まれた保守的、伝統的な日本の歴史、伝統や価値、これを重視して、緩やかに、漸進的に近代教育を進める精神的、普遍的道德教育、これを基礎とした教育であったわけです。濟々覺は国家主義教育というふうに言われておりますけども、元々はこの熊本在野士

族の政府への反骨精神、これを基に西南戦争で荒廃した熊本の再興のために生まれたものであって、政府の教育方針に迎合した学校ではありません。そしてこれを継続していくのが井芹先生であるわけです。

井芹先生の教育実践

井芹先生は、渡辺家から養子に入られた父井芹経勝・母縫子の子として甲佐で生まれています。名門の旧家である東天野屋というのが井芹の家です。少年時代から優秀な方で、高等小学校を卒業され、明治12年、西南戦争が終わってすぐに再興された県立熊本中学に入学されて、校長・木村弦雄氏の指導を受けておられます。木村氏は師範学校と中学校の校長をやっている。その教え子でもあるわけです。16年に第1回生として卒業、東京高等師範学校に進まれ、21年3月に卒業されています。卒業後はすぐに濟々覺にいられています。卒業後はすぐに濟々覺にいられています。文部省から外国留学の誘いを受けられるけれども、友房の懇請によって濟々覺に来ている。当時この時期、濟々覺の付属女学校、今の尚絅学園、ここでも講義をしておられます。

井芹先生は理系です。最新の物理・化学の知識を持たれた方。濟々覺に足りないのはこういう新しい教育、特に数学とか物理、化学は弱かったたので、友房としてもぜひ得たいということ懇請して、来られたわけです。濟々覺は当時、官公立同等の資格を得たばかりで、非常に得



親の育て 濟々覺 先生 井芹経平 教えを導いた多士

令和8年の今年、濟々覺生みの親である佐々友房先生の没後120年、となりを改めて知るとともに、その教えを再確認すべく、『濟々覺百年史』今回は読みやすいように現代文に書き直している。原文を読みたい方は

昭和35年（1960年）秋、数学で文化勲章を受章した岡潔氏は、その著『春宵十話』に次のような文を載せている。

◎吉川英治さんのこと

授賞式の翌晩、池田首相の招待で晩さん会があり、忙しい池田さんの代りに荒木さん（池田内閣の文相）が主人役をつとめてくれた。この席では吉川さんと、昔の誰それは偉かったという話になり、人を見る明のある人がいたという実例として、熊本のある中学校の校長の名が持ち出されたりした。この校長は東郷元帥の息子さんの顔をじっとみつめて、「東郷さんあなたの前だが、息子さんは百姓をさせるのが一番よいなあ」と言い切った。東郷さんもそれを受け入れて、新宿御苑の菊作りをさせたのである。

さて、この文中に出てくる「熊本のある中学校長」と「東郷元帥の息子さん」が、濟々覺第5代覺長、井芹経平先生と東郷彪氏であることは、古い濟々覺関係の人なら容易に首肯できるであろうが、何といても70余年も以前の明治末期のことであり、一般には知っている人は数少ないであろう。東郷彪氏は明治40年（1907年）3月、唯一人の鹿児島県人として濟々覺の学籍簿に名を連ね、それから東京高農に進学している。卒

濟々覺第五代覺長

井芹経平先生

業後は宮内省に入り、新宿御苑の菊は氏によって作られたといわれる。

井芹経平先生は、明治21年（1888年）より、大正12年（1923年）まで、35年の在職中、26年もの間覺長を勤めた方で、濟々覺では佐々覺長を生みの親、井芹覺長を育ての親として、絶大な崇敬の誠を捧げ、やはり佐々覺長と同じように、玄関前に胸像がそびえ立っている。また井芹覺長は単に濟々覺のみならず、濟々覺から分れたもの熊中や、分覺であった八代中・鹿本中・天草中などの創立にもあずかって力が大きく、文字通り熊本県中学教育の大御所であったのみならず、全国中学校長中にも断然頭角をあらわし、東は水戸の菊池（謙二郎）、西は熊本の井芹と並称されたほどの大教育家であった。

それでは井芹覺長と、東郷大将の令息彪氏の関係がどうして結ばれたか、詳細は不明であるが、『井芹経平先生傳』には次のように記されている。

容貌は乃木大将に酷似しているが、御性格は全体として、大分異なって居たやうである。にも係らず、相似かよった点も無いではない。其の操手の堅い所、醇正な所、公明な所などが即ちそれである。大将といへば、東郷大将の出征中、長男彪君を濟々覺に引受け、二三学舎に於て監督された。やがて大将凱旋、東京灣

親の生み 濟々覺 先生 佐々友房 創立に込めた想い

育ての親である井芹経平先生の没後100年になる。そこで、両先生の人に収録されたお二人の先生に関する記述の中から一部を紹介する。なお『濟々覺百年史』を参照されたい。（岡本 一隆・S52）



余が目映じた 佐々克堂先生 野田 寛

○適性教育の一斑

ある日、私は学校の玄関前に立ち、「内正其心外修其行（内にその心を正し、外にその行いを修む）」と書かれた、山岡鉄舟の額を眺めていた。すると克堂先生が通りかかり、「今から剣術を見に行こうではないか」と言われたので、私は先生の後について行った。

先生は歩きながら、「以前、剣術の稽古をしたことがあるか」と尋ねられたので、私は「ありません」と答えた。すると先生は、「剣術のようなものでも、すべてに一律に課すのはよくない。時習館が、竹添井々や井上梧陰のような人物に、無理にやらせたのは間違いだ。狩野のような者はやらなくてもよい」と言われた。そして結局、私は剣術の授業への出席を免除された。これが、私が武道をしなかった理由であり、また克堂先生の適性教育の片鱗が表れた出来事である。

先生の教育は、いわゆる「適性教育」であった。まず、その人自身に、自分の長所や才能がどこにあるのかを自覚させる適性に従って学問や修養の道を進ませることを主眼としていた。先生は折に触れ、さまざまな機会を通じて私を導き、才能を引き出し、刺激を与え、励まし、奮い立たせ、向上心と呼び起こしてくだ

さった。その心配りは実に行き届いていた。だから、先生のおそばに座って話をうかがうたびに深い感激を覚え、その感動は何日も続いたのだ。

○道義的練磨：克堂先生の教訓

「練る」という言葉は、克堂先生も飯田先生もよく使われた。私たちは当時、この言葉を今でいう「修養」とほぼ同じ意味に受け取っていた。ただし、そこには学問上の知識を本当に自分のものとするために、さまざまな工夫や努力を重ねるという意味合いが、より強く込められていたように思う。したがって、「練る」という言葉には、書物を通して学ぶ練磨も、実際の経験や実践を通して行う練磨も、どちらも含まれていたのである。

克堂先生は常々、「濟々覺の目的は、単に知識を授けることではない。根本となる力、いわゆる『底力』を養うことにある。生徒一人ひとりは、その養われた力を土台として、さらに学問を深め知識を求めるべきであり、また実社会のさまざまな事柄にも対処していくべきである」と説かれた。では、その底力を作り上げるための槌、すなわち鍛えるための道具とは何か。それこそが「練る」ということであった。両先生が繰り返し使われたこの言葉は、いつしか生徒たちの間にも広まり、よく用いられるようになった。それは、この言葉の中に濟々覺の訓

育における重要な意味が込められていたからである。

○氣質変化の試み：克堂先生の教訓

先生は、私が入学して間もない頃に、早くも私の欠点を見抜いておられた。在学中、私は折に触れて何度も先生から教えを受けたと感じている。しかし先生の教え方は露骨なものではなかった。雑談の中、歴史上の人物について語る中に教訓が込められていたのである。たとえば直接欠点を指摘される場合でも、その言葉はごく簡潔なものであった。

入学した翌年の春、先生は談話の席で私にこう言われた。「山が険しく切り立っている、やがて崩れるものだ。君はなるべく寛厚（おおらかで思いやりのあること）の徳を養いなさい」。これが、先生から私の欠点を直接指摘された最初の機会であった。言葉はそれだけであったが、私はこの一言に非常に強い衝撃を受けた。そこで私は、「父も以前から私を戒めており、寛という名を与えたのもその願いからである」という話をし、自分の性格を改めようと決意したことを先生に伝えた。

※「克堂（くくどう）」は佐々友房先生の号

○野田寛（1866年（慶応2年）～1954年（昭和29年））明治15年秋、数え年17歳で濟々覺に編入。入学すると直ちに友房に見出される。濟々覺を卒業後、東京大学文学部へ。佐々が彼に郷党の子弟の教育を頼む念が深いのを知って、明治26年9月熊本に帰り濟々覺の教壇に立った。県立熊本中学校初代校長。

に於て觀艦式が行われた。大将の留守宅から彪君の臨時帰宅を促して来た。彪君も亦無論之を熱望した。然るに先生は断乎として拒否された。曰く欠席の理由にはならぬ。学生は學業にいそめばそれによい。

また『井芹経平先生傳』によると、井芹覺長は、田満・親切で交際が広く、またよく人の世話をされた。桃李言われども下自ら蹊を成すで、先生の門にはいろんな階級、いろんな種類の職業の人が出入りし、依頼・難題・相談をもちかけ、指導を仰ぎ、援助を乞うた。先生は一々これに応酬して、それぞれ満足を与えられた。という意味のことが記されている。当時の濟々覺は定員800人で、5学年まであったので、1学年僅か160人であった。とくに最終学年は更にそれより減少するのが普通であったので（明治40年3月の卒業生は119名）井芹覺長自ら進路指導に当たっていた。とくに東郷彪氏の如き二三学舎にあずかり、寝食を共にした間柄で、『春宵十話』中の話のように、当時飛ぶ鳥落とすほど名声高き東郷平八郎大将に「あなたの息子さんは百姓にしたら」とずばりいいきった言葉も、井芹覺長であったればこそ発せられたろうし、東郷大将も彪氏もそれに従われたのであろう。因みに濟々覺に現在も東郷大将の『至大至剛』の揮毫が所蔵されているのは、彪氏の卒業記念に東郷家より寄贈されたものである。

三綱領八条目の訓話

覺長 井芹 経平

〇三綱領

三綱領は、わが濟々覺の創立以来の根本精神である。私たちはこれを本分として、また人生の拠り所として、常に一貫して自己修養に努め、絶えず向上し続けることを目指さなければならぬ。このように行うこそ、教育勅語の教えを心に深く刻み、実践するゆえんである。

正倫理 明大義
重廉恥 振元氣
磨知識 進文明

〇八条目

- 一 清明仁愛剛健の三徳を修め以て人格の完成を期すべし
- 一 光輝ある我が覺の歴史に鑑み以て愛覺の精神を発揮すべし
- 一 孝悌の道を厚うし
- 一 忠愛の念を長養すべし
- 一 師弟の倫を重んじ
- 一 学友の信公共の誼を厚うすべし
- 一 儉素以て己を持し
- 一 礼文以て其の身を修むべし
- 一 規律の習慣を立尚び
- 一 向上の志を壮にし
- 一 発憤以て其の業を励むべし
- 一 高尚純潔の情操を涵養し
- 一 精確周匝の知能を啓発すべし
- 一 斉整強健の身体を鍛錬し
- 一 耐久旺盛の氣力を修養すべし

新しい学年の始まりにあたり、本覺の大切な信条である三綱領八条目についてその意味をお話ししたいと思う。しかし、限られた時間の中では、それらすべてを詳しく説明することはとても難しい。そこで、やむを得ずその内容を要約し、今回は三つの項目にまとめてお話ししようと思うのである。

〇自強を尚ぶこと

自強とは、自分自身の意思と覚悟によって、勤勉に努力し続けることである。諸君には、それぞれ必ず何らかの志があるはずである。その志は学年によって、さまざまに表現されるだろうが、それを簡潔に言うならば、「将来、立派な模範的人物になろうとする覚悟」、さらに言い換えれば、「十分な信望と尊敬を集める人物になろうとする覚悟」であると私は断言する。ただし、「信望」とは知識や見識を備えた人々から信頼され、敬愛されるに値する人物になろうと固く決意することこそ、諸君の志なのである。

諸君は、自らの大志に向かって、自らの覚悟によって、自ら進んで努力し、奮闘しなければならない。これこそが、私が特に「自強を重んじよ」と言う理由なのである。

〇剛健質実を尚ぶこと

剛健とは、不倦不屈の精神が常に満ちていて、自分がなすべきこと、守るべき

きことに対して、卑怯にならず、怠けず、未練がましくなく、あいまいな態度を取らず、正しいと信じたことは誠実かつ明確に、断固として実行することである。また、行ってはならないことについては、毅然とした態度でこれを退け、そして常に堂々とした態度を保つことを意味する。別の言葉で言えば、「重厚」であるということも、ほぼ同じ意味になる。

一方、質実とは、「資質が素朴で飾り気がない」といった意味であり、見栄を張ったり、虚栄心にとらわれたり、外見だけを飾り立てたりしないことである。したがって、「剛健であり、かつ質実である」とは、諸君の心の中に向上心や実行力、開拓精神が力強く満ちあふれ、その活動力が非常に大きく、自分の志に向かって進むうえで妨げとなる外界の誘惑を打ち破り、抑え込みながら、力強く前進し続ける活力を持っていることをいう。しかし、その一方で外から見た態度はきわめて質素で堅実であり、軽薄で浮ついたところや、華美を好むような様子が少しもないということである。

〇信義を尚び礼節を重ずること

この教えは、前に述べた二つの項目と切り離すことのできない重要なものである。広い意味で言えば、人間が万物の霊長として、その資格を備えるための根本的な条件となる信条である。「信義」の精神を尊重することについて、自他の関係に分けて言えば、自らの向上を目指す志、すなわち高潔で清らかな廉恥心に

対して、「自分は決して後悔すべきことや、恥じるべきことはしない」という徹底した覚悟を貫くことである。これこそが、自らの志に対して誠実であり続ける、最も大切な道なのである。

次に、「礼節」を重んじることについてであるが、礼節というものは、清らかな信義の精神が十分に育まれ、それが自然に外へ現れたときに生まれるものであり、人をますます高潔で品位のある人物へと導く美徳なのである。

◇以上、三綱領八条目の要旨を三つの項目にまとめて述べてきた。これらは互いに密接に結び付いており、切り離して考えることのできないものである。したがって、諸君が道徳、学業、身体の鍛錬のいずれの面でも、将来大きく成長し成功するためには、この三つを同時に心に刻み、実践することによって、初めて真に学問修養の要点をつかむことができるのである。諸君が、この「八百健男子」の真の精神を発揮するならば、それは一方では母校を愛する精神となり、また一方では諸君自身の修養の根本ともなるのである。諸君の将来は実に遠大であり、私は諸君が必ずや多くの人々から信頼と尊敬を受ける人物として大成することを心から願っている。そのために、私はここに率直な気持ちを述べたのである。諸君には大いに奮起して、この修養の意味を深く理解し、自らのものとして身につけてほしいと願う。

(大正9年『多士』第30号より)

をお伝えしている貴重な資料です。

この貴重な紙資料である「多士」(「会報」)の適切な修復・保管が県立図書館で行われ、必要なデジタル化は同窓会チームで着実に進められています。

■佐々先生没後120年・井芹先生没後100年 記念顕彰事業

●佐々博雄氏 講演会

今年の記念顕彰事業として史料保存アーカイブPTでは講演会の開催を企画。講師を国士館大学名誉教授で、日本近代外交史が専門の佐々博雄氏(S42)に依頼、快くお引き受けいただき、同窓会総会後に無事開催することができました。開催に当たっては佐々氏をはじめ、総会・大同窓会開催担当学年の平成17年卒の皆さん、他関係各位に大変お世話になりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

●「井芹経平先生小伝」刊行

佐々友房先生・井芹経平先生の顕彰事業の一つに、『井芹経平先生小伝』の刊行を考えております。

編集方針として①経歴については簡潔に②トピックとして「史跡探訪」の様なコーナーを設け、甲佐や美里、植木、熊本中学(旧)、東京高等師範学校などの跡地の写真を掲載する③本文は現役生徒が読めるもの、読みたいと思う内容に④大きさはA5サイズとする。

つぎに盛り込みたい内容として、①先生のお人柄②先生の教育者としてのエピソード

高校、同窓会、図書館、三者の息の長い連携体制は、歴史ある資料をしっかりと保存し、しかもその内容を誰もが検索閲覧して、後世に伝えようとするものであり、これからも取り組んでいきます。

ソード、生徒に向けられた温かい眼差し、東郷元帥に息子を託される③先生の高い精神性と「覺風」、文武両道、宮本武蔵と加藤清正の講演録から④先生の愛国者としてのエピソード、日露戦争の慰問状、『忠烈之碑』の建立⑤先生を慕う生徒達の声、胸像の建立、等。

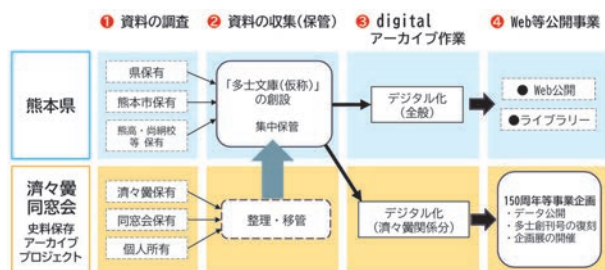
現在、井芹経平先生の文章を、『多士』創刊号(明治36年11月5日)の「論説奨学運動二部設置の主旨」から、第37号(大正12年5月20日)の「訓話 自敬他敬」までの25編を拾い上げ、史料保存アーカイブのメンバーで手分けして、高校生でも読める様に、一部AIも活用しながら作業を進めております。

今後の予定は、現役生には『井芹経平先生の教え』として小冊子で秋ごろにはお配りし、また『井芹経平先生小伝』は年末刊行を目指して取り組んで参ります。

(小川勝彦・S49、光永邦保・S49、猪猷一郎・S49、岡本一隆・S52)

史料保存アーカイブプロジェクトチーム(PT) 活動のご紹介

私たちが誇るべきは、歴史の古さではない。そこに光をあて、伝えて行くこと。創立150周年に向けての『未来につなぐ「思い」のバトン事業』の基本理念



「濟々覺に関わる多くの方の『思い』を未来に伝えること」近代熊本の高等教育黎明期から現在までの記録、史料等を整理・保存し、熊本市・市全体の歴史・教育・文化のこれからの発展に資するための事業です。

熊本の高等教育の発展を支え、伝統を重んじることを綱領とする濟々覺が先ずこの活動に取り組み、この輪を広げていきます。



熊本市立図書館への寄贈セレモニー

■第二回「多士」(「会報」)寄贈式
2月25日、覺史「多士」のバックナンバーを熊本市立図書館に寄贈するセレモニーが、昨年に引き続き県立図書館の応接室で行われました。同窓会からは、多々善郎・史料保存アーカイブプロジェクトリーダー、小川勝彦・同窓会幹事(プロジェクトメンバー)、猪猷一郎・プロジェクトメンバー、県立図書館からは、石井美紀・情報支援課長、田嶋尚子・情報支援課参事、清田志野・情報支援課参事が参加しました。
覺史「多士」は、明治36年に創刊され、123年の歴史を刻むものですが、その価値は、覺史の域に留まらず、近代熊本の高等教育黎明期から現代までの歴史を語る上で貴重な資料となるものです。
同窓会誌「会報」は、昭和8年に創刊され、現在に至るまで、皆様に同窓会の各種の活動、同窓生の活躍、母覺の状況

史料保存アーカイブプロジェクトウェブサイト



濟々覺百年史



濟々覺関連人物誌



銀座通りにある「濟々覺発祥の地」の石碑
(写真＝辻氏提供)



銀座中通りのコインパーキングの敷地に建
つ「小楠堂跡」の標柱 (写真＝辻氏提供)

作成プロジェクトチームとしてはこの情報をおいておくわけにはいかない。早速、辻氏に話を聞いてみた。

きっかけは、講師を務めることになった「城下町歴史散策」（熊本地名研究会主催、辻氏は運営委員）での資料作り。そのために取り寄せた江戸末期の絵図で「飯田熊太」という名を見つけたことが発端という。辻氏は熊本高出身で平成

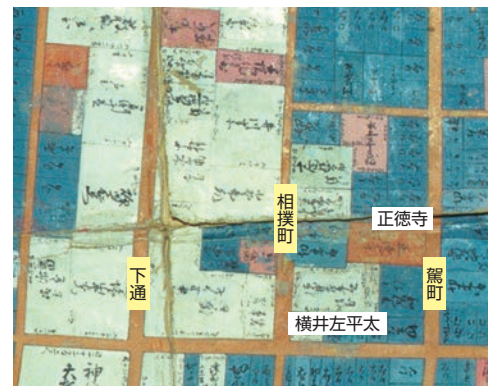


図1「高田原之絵図 115」1824年（文政7年）から1851年（嘉永4年）（熊本県立図書館所蔵）

14年の卒業。在校時に創立百周年を迎え、高校の沿革について見聞きする機会が多かった。そこで「一幹両枝、同心学舎などの言葉が頭に焼きついていて」ことから、「飯田熊太」の名前に目が止まったのだ。

さらに資料を探し、調べてみると少しずつパズルが合わさっていった。江戸時代末期の「高田原之絵図」（図1）で横井左平太（小楠の甥）と記載されている屋敷地が、その後で作成された絵図（図2）では飯田熊太に変わっている。

明治に入って作成された地券台帳（熊本市政資料）を確認すると、飯田熊太所有の土地（熊太の三男勝雄の名義）は相撲町9番地。昭和2年発行の「熊本市街地籍細密地図」に照らすと、これは銀座通りの1本南側の通り（銀座中通り）になり、「横井小楠相撲町旧居跡」の標柱が建つ場所と同地である。「濟々覺発祥



図2「高田原之絵図 117」（熊本県立図書館所蔵）



図3「熊本市街地籍細密地図第1巻」（国立国会図書館デジタルコレクション）

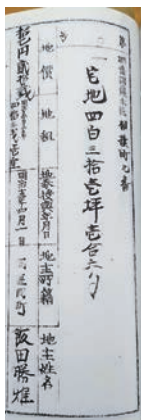
の地」の石碑が建つ銀座通り沿いの場所は12番地、飯田熊太の屋敷地から少し北側ということになる。

同心学舎は設立後、北側の土地を取得して拡張・増床している。そして名称を同心学校、私立濟々覺へと改称し、所在地として「相撲町11番地」「相撲町12番地」と公文書などに明記されるようになった。

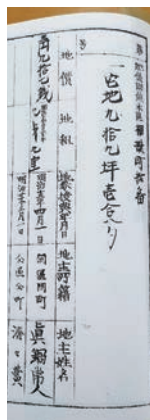
ことから、発祥の地として間違えられたのではないかと辻氏は指摘する。ただ、地券台帳がどこまで正確だったかは不明。またグレーな部分も残るとのこと。

会報作成チームとしては、史料保存アーカイブチームと協力しながら調査を続け、新たな情報があれば、この場でまたご報告していくことにする。

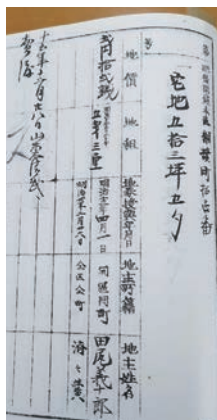
（上野功一朗・S61）



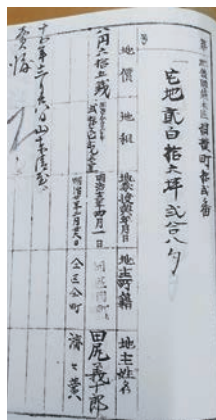
相撲町9番



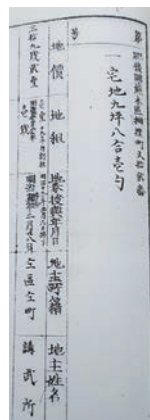
相撲町10番



相撲町11番



相撲町12番



相撲町又12番

SEISEIKO History

明治天皇の御下賜金 — その後を追って

濟々覺にとって大切な記念日の一つに恩賜記念日がある。濟々覺の運動会は今年おその名を冠して行われ、濟々覺同窓会の総会・大同窓会も毎年この記念日に開催されている。その由来とは、開豊翌年の明治16年（1883年）5月21日、経済的な窮地にあった濟々覺を救った明治天皇の御下賜金500円である。

現在の貨幣価値にすると1000万、1500万円になるというこの500



『濟々覺百年史』を傍に詳しく説明された川附副議長

円、経済的に困窮していたことから何かに使われただろうと思われたが、そうではなかった。同窓生でもある川附陽副議長（H元）に尋ねると、この御下賜金は使われることなく、今もお大切に管理されていることが分かった。現在は議長名義の定期預金として肥後銀行に預けられていて、令和8年5月7日時点で3万4869円になっている。

『濟々覺百年史』に、「熊本市内坪井力食社に月壹分の利子で預託され、大いに学校の財源として活用されている」、また県立移管の際、財産については「宮内省御下賜金を永久に第一濟々覺に保存せしめ、永く濟々覺の名を存置されたい」という条件を付して出願し、県はこれを認可したとの記述がある。御下賜金が契機となり、旧肥後藩主細川家や熊本出身の中央官僚による寄付、さらに有志による濟々覺維持資金募集が行われた結果、莫大な支援が集まって円滑な運営が可能となったということもあるが、この御下賜金は当初から「永久に保存すること



御下賜金は今も、濟々覺で大切に管理されていた

濟々覺発祥の地 — 実は1本南側だった!?

「濟々覺発祥の地」として銀座通り（熊本市中央区下通1丁目）に石碑が建っている。濟々覺創立百周年記念事業の一つとしてこの地に設置されたこの碑には「同心学舎跡」、「明治12年12月 熊本区高田原相撲に佐々友房先生他有志 現在の濟々覺の淵源 同心学舎を創立」と彫られている。『濟々覺百年史』にも「菊池合志郡長飯田熊太氏金二十五円と高

が決められていたのだろう。

ちなみに、力食社とは明治維新後に士族授産事業を目的に設立された組織で、当初は織物業などを主な事業としていた。それが明治10年の西南の役後、罹災士族の救済のために組織を変更、さらに当時は国立銀行が各地に設立され始めた時期であったことから、それら大手の金融業の間隙を埋める役割も果たしていたようだ。

14年後の今も黄線が繋がりに続いているのは、その源にこの御下賜金と共に多くの先輩の願いがあったからに違いない。濟々覺で薫陶を受けた同窓生は決して忘れることなく、次の世代にも引き継いでいかなければならない。

（上野功一朗・S61）

各地の同窓会

全国に繋がる黄色い絆

各同窓会よりお寄せいただいた写真（紙面の都合で寄稿の一部）とホームページやFacebook、InstagramのQRコードのページです。ぜひ、覗いてみて、そして次は参加してみてください。



関西



青年会主催の新入会員歓迎 BBQ
2026.5.16 大阪市淀川区西中島河川敷



東京

東京同窓会青年会での新入生歓迎 BBQ
2026.5.16 グリルピア AQUA CITY ODAIBA(お台場)



福岡

2026 年ゴルフコンペ（黄壁城会）

2026.5.14 毎年行っている、熊本高校 OB 会との親睦ゴルフです。トライアルゴルフ&リゾート WAKAMIYA COURSE（旧若宮ゴルフクラブ）にて 27 名が参加しました。



済々黌福岡同窓会 2025.10.11 八仙閣本店



東海

令和 7 年東海地区同窓会
2025.10.25 名鉄グランドホテル



宮崎

宮崎多士会では毎年の例会やゴルフコンペなどを定期的に開催し会員間の交流を深めてきました。今後も会員を増やしていきますので、宮崎にお越しの際はぜひご連絡ください(写真は 2025 開催の例会)。(多士会事務局 幹事 林田匡史・H11)



北九州

済々黌北九州同窓会懇親会
2026.6.6 ステーションホテル小倉



済々黌大同窓会

令和 8 年 5 月 21 日(木) 熊本ホテルキャッスル

令和 8 年 5 月 21 日、済々黌大同窓会が熊本市中央区の熊本ホテルキャッスルにて開催された。総会では令和 7 年度の事業報告・決算、および令和 8 年度の事業計画・予算案が審議され（42 頁参照）、講演会と続いた（16 頁参照）。その後に行われた懇親会には、昭和 30 年卒の大先輩から 3 月に卒業したばかりの令和 8 年卒の新入会員まで総勢約 530 名の同窓生が集結した。

懇親会は物故会員への黙祷に続いて、上西川原響さん（R8）による「三綱領」の唱和で幕を開けた。続いて登壇した諸熊建次同窓会会長（S44）は、この 1 年間の主な活動や多士会館の現状報告、今後の抱負を述べるとともに、「各地の同窓会にもぜひ参加いただき、さらに盛り上げてほしい」と一層の協力を呼びかけた。また、済々黌の坂本憲昭議長をはじめとする多くの来賓の皆さんが会に華を添えた。

令和 8 年卒の代表・水上晴さんの音頭で高らかに乾杯が交わされると、会場内は久しぶりに再会した先輩・後輩・同級生たちの熱気と歓声に包まれた。歓談中には、木原稔内閣官房長官（S63）、阪神タイガース・大竹耕太郎投手（H26）、ブルーインパルスのパイロットである松永大誠 3 等空佐（H23）ら同窓生からのビデオメッセージが上映されたほか、シンガーソングライターの嘉悦なつ美さん（H17）によるミニライブや「済々黌絆」のメンバーによるステージが披露され、

会場は大いに盛り上がった。

今年のタイトルは「栄耀の架橋」。幹事学年の平成 17 年卒の皆さんが高校 3 年生だった 2004 年夏、アテネ五輪のテーマ曲としてヒットした、ゆずの「栄耀の架橋」。部活や受験に挑んだ当時の記憶を重ねつつ、済々黌らしく「栄耀」と置き換え、世代や人と人を繋ぐ願いを込めたという。新城康介実行委員長からは、参加者への深い謝辞と同窓会の今後の益々の発展を誓う力強い挨拶が述べられた。参加者への細やかな配慮が光る素晴らしい運営となった。

宴の終盤には、幹事学年の第 51 代團長・高木彰彦さんから応援団 OB の指揮のもと全員で賛歌を斉唱。同級生の名前を紡いで作られたオマージュ作品「栄耀の架橋（H17 年卒 Ver.）」に見送られながら、黄色い絆を深く実感した盛大な会は幕を閉じた。

来年は平成 18 年卒の皆さんが幹事学年を引き継ぐ。全国・県内各地区の同窓会が今後もさらに盛会となることを願いつつ、また来年の再会を期する形となった。（上西川原千晶・H4）



お礼を述べる新城実行委員長

ご注意ください！
来年度「済々黌大同窓会」は開催日が変わります。
日時 令和 9 年 5 月 29 日（土）午後 7 時
場所 熊本ホテルキャッスル



乾杯で登壇した令和 8 年卒の皆さんと音頭をとる代表の水上さん



祝 米寿

三綱領唱和で始まり、賛歌斉唱で終るまで話題は尽きず、時の経つのを忘れる程でした。三一会は、これが最後だとして万歳で終わりましたが、帰りの際の挨拶は「元氣な内にまた逢おうね」です。私達は何処まで済々豊大好き人間なんでしょう。僅か3年の高校生活でしたが、人生を左右する出会いがありました。

渾名で呼んだ先生方には、色々和薫陶を受け、贅内にあっては秀才で優等生もいれば、私みたいな者もいる。硬派で保守的な考えの生徒もいれば軟弱で革新的な者もありました。しかし差別やいじめも無く、皆仲良しで学校へ行くのが

昭和31年卒 (さんいち会)

米寿を祝う 最後の同窓会

昭和31年に卒業した学友は8学級400余名でした。しかし卒業70年にもなりますと、故人となったり、消息不明となったりで連絡できる学友は半数にも及びません。今回、米寿を迎える節目に当た



昭和36年卒 (さぶろく会)

卒業65周年会

済々豊三六会は、済々豊を卒業して満65年が経過しました。記念の懇親会を令和8年3月6日(金)午後1時より下通り紅蘭亭において開催致しました。會長の私は、急な病氣入院で欠席してしまい、大変迷惑をおかけしました。會長挨拶は、園田耕輔前會長にお願い致しました。同窓会のこと、母豊の現状などは、木下桂甫代表評議員が報告してくれました。その後、懇親の席となり、お互いの健康のこと、家族のこと、昔のことなどを飲食しながら語り合い、楽しく過ごしたようです。最後にみんなで賛歌を斉唱しました。

来年、令和9年3月6日(土)に、開催予定の三六会での再会を約束し、散会したとの報告を受けまし

昭和31年卒 最後の同窓会

昭和31年に卒業した学友は8学級400余名でした。しかし卒業70年にもなりますと、故人となったり、消息不明となったりで連絡できる学友は半数にも及びません。今回、米寿を迎える節目に当た

昭和40年卒 (よんまる会)

卒業60周年 記念事業報告

令和7年11月16日、KKR熊本で済々豊四〇会卒業60周年記念総会と懇親会を開催した。赤星敦



卒業65周年

會長から「盛会を参加(72名)の皆さんに感謝申し上げます。多くの方から、初めて参加した、来て良かった、との声を聞き、うれしかった」、坂田憲二副會長からは「これまでになく盛り上がった同窓会だった。来年も元気に再会したいと思っています」という感想が届いた。

令和8年2月10日、多士会館で最終回の記念誌作成会議を終えた

各地の同窓会 全国に繋がる黄色い絆



鹿兒島

2023年11月の懇親会時の写真です。賛歌を斉唱しているシーンです。



大分

大分多士会総会

2025.12 各参加者が近況や母豊の思い出を語り合い、三綱領を唱和し、賛歌を斉唱。今後、大分県内在住の若手を交えた懇親会や、熊本高校、熊本第一高校同窓会との三校合同同窓会などを企画していきます。(田上 賢祐・S 49)

済々豊同窓会

公式ホームページ 公式 Facebook DOSO-Info 公式 Instagram

日本全国の同窓会

北海道同窓会 東北同窓会 関東同窓会 関西地区同窓会 東海地区同窓会 北九州同窓会 大分同窓会 宮崎多士会 鹿児島同窓会 済々豊東京同窓会 済々豊東海地区同窓会 済々豊関西地区同窓会 済々豊広島同窓会 済々豊北九州同窓会 済々豊福岡同窓会 済々豊福岡同窓会 済々豊宮崎多士会 済々豊鹿児島同窓会 済々豊北海道同窓会

全国的各地区同窓会のホームページや Facebook ページです。是非、覗いてみてください！！

全国地区同窓会		
済々豊東京同窓会	会 長／堀 昭一(S43) 事務局／茨木 紀夫(S60)	昭一(S43) 紀夫(S60)
済々豊東海地区同窓会	会 長／安部 賛 (S47) 事務局／森川 智章(S60)	賛 (S47) 智章(S60)
済々豊関西地区同窓会	会 長／勝浦美奈子(S57) 事務局／高比良光洋(H3)	美奈子(S57) 光洋(H3)
済々豊広島同窓会	会 長／杉田 裕 (S43) 事務局／長谷 富美(S54)	裕 (S43) 富美(S54)
済々豊北九州同窓会	会 長／山本 哲朗(S43)	哲朗(S43)
済々豊福岡同窓会	会 長／江藤 照 (S45) 事務局／山野 康治(S56)	照 (S45) 康治(S56)
済々豊同窓会宮崎多士会	会 長／栗林 忠信(S38) 事務局／林田 匡史(H11)	忠信(S38) 匡史(H11)
済々豊鹿児島同窓会	会 長／西田 友博(H5) 事務局／横山 誠二(S42)	友博(H5) 誠二(S42)
済々豊同窓会大分多士会	会 長／柳原 淳 (S51) 事務局／安永 正宏(S58)	淳 (S51) 正宏(S58)
済々豊北海道同窓会	会 長／小島 肇 (S45) 事務局／船津 保浩(S57)	肇 (S45) 保浩(S57)
熊本地区同窓会		
八代済々豊同窓会	会 長／藤浦裕一郎(S44) 事務局／池松 桂至(S56)	藤浦裕一郎(S44) 池松 桂至(S56)
人吉球磨済々豊同窓会	会 長／岡 啓嗣郎(S34) 事務局／笹路美智子(H15)	岡 啓嗣郎(S34) 美智子(H15)
済々豊同窓会山鹿支部	会 長／三浦 一水(S48) 事務局／村田 康代(H17)	三浦 一水(S48) 村田 康代(H17)
済々豊天草同窓会	会 長／酒井 保之(S36) 事務局／若松 健智(S51) 原田 隆紀(S51)	酒井 保之(S36) 若松 健智(S51) 原田 隆紀(S51)
大津・菊陽賛友会	会 長／山内 和彦(S40) 事務局／布田 悟 (S46)	山内 和彦(S40) 布田 悟 (S46)
済々豊合志市同窓会賛志会	会 長／大嶋 和博(S41) 事務局／上野功一郎(S61)	大嶋 和博(S41) 功一郎(S61)
済々豊宇城地区同窓会	会 長／古賀 康彦(S40) 事務局／佐藤 嘉晃(H2)	古賀 康彦(S40) 佐藤 嘉晃(H2)
済々豊南阿蘇同窓会	会 長／片山 公則(S45) 事務局／忠彦(S37) 事務局／穴見 竜三(S57)	片山 公則(S45) 忠彦(S37) 穴見 竜三(S57)
阿蘇町済々豊同窓会	会 長／松崎 俊一(S50) 事務局／生田 敬二(S55)	松崎 俊一(S50) 生田 敬二(S55)
小国郷多士会	会 長／桑島 元博(S33)	桑島 元博(S33)
一の宮済々豊同窓会	会 長／福味総一郎(S42)	福味総一郎(S42)
済々豊御船地区同窓会	会 長／盛 孝徳(H5) 事務局／澤田 興洋(S41)	盛 孝徳(H5) 興洋(S41)
済々豊玉名同窓会	会 長／高木 清一(S45) 事務局／前田 大全(H14)	高木 清一(S45) 前田 大全(H14)
済々豊植木町同窓会		
熊本地区同窓会		
山都町済々豊同窓会	事務局／山下 泰雄(S56)	山下 泰雄(S56)
済々豊南部交流会	会 長／西田 紀雄(S33) 事務局／福山龍太郎(S58)	西田 紀雄(S33) 福山龍太郎(S58)
職域等同窓会		
済々豊同窓会熊本県庁支部	会 長／ 会長代理／浦田美紀(S60)	浦田美紀(S60)
熊本市役所多士会	会 長／田中 俊実(S57) 事務局／木村 啓介(H12)	田中 俊実(S57) 木村 啓介(H12)
済々豊宅建多士会	会 長／中野 伸治(S61) 事務局／横溝 礼司(H元)	中野 伸治(S61) 横溝 礼司(H元)
税理士多士会	会 長／宮本 研司(S53) 事務局／氏森 羊子(S60)	宮本 研司(S53) 氏森 羊子(S60)
きなひも会	会 長／河野 宏明(S58)	河野 宏明(S58)
済商會	理事長／原田 秀樹(S60) 事務局／和泉伸之介(H14)	原田 秀樹(S60) 和泉伸之介(H14)
済々豊運動部 OB 会連合会	代表幹事／高田 徹(S55) 事務局／	高田 徹(S55)
熊本黄壁城ライオンズクラブ	会 長／河野 祐生(H18) 事務局／片岡 孝文(H18)	河野 祐生(H18) 片岡 孝文(H18)
熊本多士ライオンズクラブ	会 長／戸澤 栄二(S49) 事務局／吉田 覚 (H3)	戸澤 栄二(S49) 吉田 覚 (H3)
済々豊同窓会事務局		
☎ 096-345-3002 FAX 096-346-3225 ✉ tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp		



平成21年卒
(へいにいいち)

**入学20周年記念
同窓会**

私たちが済々黌の門を叩き、初めて顔を合せてから節目の20年を迎えました。これを記念し、昨

令和2年卒

卒業5周年同窓会

昨年12月、令和2年卒業生による卒業5周年の同窓会を開催いたしました。当日は多く

年12月28日にホテルメルパルク熊本にて学年同窓会を開催いたしました。

当日は恩師の先生方もお招きし、約70名の仲間が集う盛大な会となりました。今回は子育て真っ盛りの世代であることを考慮し、お子様連れでの参加も歓迎いたしました。会場では次代を担う子供たちの元気な姿も見られ、非常に和やかな雰囲気の中で旧交を温めることができました。

多感な時期に「黄線」を纏い、共に切磋琢磨した日々。先生方の温かい言葉に当時の情景が鮮やかに蘇るとともに、それぞれの道で奮闘する友人たちの姿には大きな刺激を受けました。

5年後に控える大同窓会の幹事学年という大役へしっかりと繋げていきたいと考えています。今回は3年後に開催予定です。

最後になりますが、ご出席いただいた先生方、そして遠方から駆けつけてくれた仲間へ深く感謝いたします。
(山田 悠生)



の同級生が集い、久しぶりに顔を合わせる旧友との再会に、当時の思い出が鮮やかによみがえり、和やかなひとときとなりました。

会場では、学生時代の思い出話に花が咲くとともに、それぞれの

令和6年卒

成人同窓会

成人同窓会は今年1月11日、約300名の同級生が集まり、ワンステーションホテル(熊

歩んできた道や現在の活躍について語り合う姿が見られました。変わらぬ笑顔を見せる者もいれば、各分野で経験を重ね、頼もしく成長した姿を見せる者もあり、互いの近況を語り合う中で、5年という歳月の重みと済々黌で結ばれた絆の深さを改めて実感いたしました。

仕事や進学など歩む道はそれぞれ異なりますが、済々黌で過ごした日々が今も大きな支えとなっていることを感じる、かけがえのないひとときとなりました。

評議員の一人として、今回の同窓会を無事に開催できたことを大変嬉しく思っております。また、ご協力いただきました皆様により感謝申し上げます。

今後このような交流の場を大切に、世代を超えたつながりをさらに広げていければと願っております。引き続き、同窓会活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(松山 航大)



本駅前)にて盛大に開催されました。久しぶりに再会した友人たちは、それぞれ大学進学や就職など新たな道に進み、高校時代よりもさらに成長した姿が印象的でした。会場では近況報告や思い出話に花が咲き、当時と変わらない関係性の温かさを改めて感じることでできました。また、恩師の先生方ともお会いすることができ、大変有意義で思い出深い時間となりました。

現在、大学生活の中で特に大変だと感じているのは時間管理です。

昭和41年卒
(よんいち会)

傘寿の祝い

済々黌41年会の傘寿の祝いを兼ねた同窓会が4月19日に市内下通りの中華店で行われた。

丁度今年は昭和41年3月に卒業して「60年」を迎えた。「還暦」と言えるかどうか分からないが、節目となる同窓会には46名が参加した。

大嶋和博代表幹事が挨拶に立ち「こうして元気な顔を見せられてうれしく思います。でもそろそろこの会もお終いになりそうです」と言う。大阪からはるる参加した中村弘則関西代表は「皆さんの顔を拝見できるのを楽しみにして来ました。こんな機会を大事にしていきたい」と挨拶。続いて一人

後新年会を行った。続いて3月29日に花見会を行った。(いずれも会場はKKR熊本)

また60周年の記念事業として、「卒業60周年記念誌」の発行、多士会館への40万円相当の寄贈、スリランカのサイクロン被害の支援事業で支援金を募り、花見会の席でスリランカで僧侶をされている高島上人に四〇会の皆さん65名からの83万円の寄付を行った。
(幸本 光造)

昭和59年卒
(ごおきゅう会)

還暦同窓会

私たち昭和59年卒の学年同窓会は還暦を迎えた昨年、6月に母黌での模擬授業と紅蘭亭

一人がマイクを持って近況報告などで健弁を振るったが、概ねは「また会いましょう」の願いが多く聞かれた。どうやら次回の開催もありそうなるムードで、最後は賛歌斉唱し、甲斐一郎氏の音頭で三本締めし、約3時間の同窓会が幕を閉じた。
(鷲頭 英司)



での懇親会を開き、11月には吉市へ1泊2日の修学旅行に向かいました。

たくさん懐かしい顔が県外だけでなく海外からも駆けつけてくれて、久しぶりに再会した喜びを分かち合いました。卒業以来、初めて顔を会わせる同級生も少なくなかったのですが、40数年前にタイムスリップしたかのように、すぐに打ち解け、高校時代の呼称で呼び合い、近況報告と思ひ出話で盛り上がりました。

健康や孫の話題も多く、わが年齢を実感しましたが、同級生はいつまでも同級生。何の気兼ねも要

平成18年卒

卒業20周年同窓会

令和8年1月2日、「平成18年卒、卒業20周年記念同窓会」を、KKRホテル熊本にて執り行いました。同級生93名に加え、当時の先生方にも4名ご臨席いただきました。

恩師を中心に会話が広がり、在校時の思い出話やお互いの近況報告にと、話が尽きることはありませんでした。在学時、夏の水泳クラスマッチで、先生をプールに落としたことを20年越しに謝ると、「あの時、実は落とされることを覚悟しており、落とされるのを待っていた」との返答を受け、皆で笑いました。

終盤には、青年会の活動や自分たちが再来年に大同窓会の幹事学年となることを改めて報告し「力を貸して欲しい」「また熊本に集

らない親近感、節目の歳を迎えて第2の人生を歩み始める世代の私たちにとって、いつまでも変わることはない、かけがえのない財産だと深く再認識できました。

学年の絆を深めつつ、母黌や同窓会全体にも、これまで以上に貢献していきたいと思えます。
(幸山 政史)

まろう」と舌を掛け合いました。三綱領唱和、賛歌斉唱、エールを白石真也君の指揮の下、全員で合わせ、大盛況の一次会は幕を閉じました。また今回はお昼からの開催ということもあり、夜更けの5次会まで集まりが続き、20年前の自分たちに戻ったような、ほっとする時間を十分に楽しむことができました。H18年卒の結束力が高まった充実の一日でした。
(林 浩平)



大学では自由な時間が多い一方で授業や課題、試験勉強、アルバイトなどを自ら計画的に進める必要があります。そのため、日頃から優先順位を考えて行動することの

大切さを実感しています。また、高校までとは異なり、自ら学ぶ姿勢や主体性がより求められるため、日々試行錯誤しながら充実した学生生活を送っています。

後輩の皆さんには、今の高校生活での学びや仲間との時間を大切にしながら、自分の目標に向かって努力してほしいと思います。

(伊藤志竜)

熊本県警
多士会

私たち「熊本県警多士会」は、熊本県警察に所属する同窓生で組織される団体です。

その年にご勇退

される先輩の退職祝いや同窓生の絆の強化を目的に毎年開催しています。

ピーク時は会員数が200人を超していたそうですが、令和7年度は120名で、ほとんどの卒業年度が在籍しています。

今年度は、令和8年1月24日（土）、熊本市内で同窓会を開き、ご勇退される豊田敬牛深警察署長、石井（旧姓…久具）朋子山鹿警察署長（ともにS59年卒）の退職祝い兼ねて38名が参加しました。幹事は、その年に44歳になる学年が受け持っており、今回は平



ライジンググループ
「さんご会(21)」

戦後81年。あの大戦中に生まれ、敗戦、戦後の復興と、激動の時代を駆け抜けた生き証人である私達も、この世と別れる時期が迫っている。この貴重な最後の期間を同級の仲間と交流出来たら如何に意義のあることではないか、と思う。

昭和35年に済々黌を500人強で卒業した私達も今や生存しているのは50余名か。その中の21名が参加するグループライン（LINEグループ）がある。LINEはスマホなどで多人数で同時にメッセージのやりとりや無料の通話ができる機能だ。

スマホなどを持ち合わせない、面倒と思う同級生も、誰かの手を借りて参加しませんか？

この欄を通じて一人でも多く集合し語り合えたら面白い！ さんご会の皆さんの新たなメンバーの投稿を待ちたい。余生最後の楽しみが増えたい。と願いつつ。

(濱田雄太・H12)

（正源司克也）

ターを活用して、詐欺の手口を県民に周知する広報を行っています。ワルモンは、県内のイベントに積極的に参加しており、マスメディアで取り上げていただくことも増えていますので、是非チェックして、最新の詐欺手口の理解を深めてください。

また、固定電話を常時留守番電話設定にして、知らない人からの用件には応じないことや、詐欺師が最初に接触してくる電話番号は国際電話が多いため、固定電話の国際電話発着信の取扱いを休止することも有効です。携帯電話は警察庁推奨の詐欺対策アプリ「詐欺対策bYNT

e」をインストールすれば、国際電話を遮断し（Androidのみ）、警察庁等から提供されたデータを基に不審な着信があると画面に警告が表示されるなどの機能で未然に被害を防ぐことができます。万が一電話を受けてしまった場合でも、一旦電話を切って、相手が名乗る官公庁の電話番号を調べてかけ直せば問題ありません。

詐欺の手口は日々変化しています。大事なご家族やご友人が被害に遭わないよう、これを機に是非、詐欺対策について今一度話し合ってみてください。

詐欺被害の 現状と対策

特別寄稿

熊本県警察本部生活安全企画課

瀬口哲寛 (H12)

最近、ニュースなどで「特殊詐欺(熊本県では、「電話で『お金』詐欺」と呼んでいます)」「SNS型投資・ロマンス詐欺」「闇バイト」「匿名・流動型犯罪グループ(いわゆる「トクリュウ」)という言葉をよく耳にされているかと思う。警察では、詐欺被害者を生まない取り組みを実践しているところであり、同窓生の皆様に詐欺被害の現状、警察で周知している対策を知っていただきたく筆を執った次第です。

まず、詐欺被害の現状ですが、熊本県内における令和7年中の「電話で『お金』詐欺」の被害金額が約11億円、「SNS型投資・ロマンス詐欺」の被害金額が約19億円といずれも前年から約2倍に増加しており、全国的にも被害金額は前年比で大幅に増加しています。

手口としては、「オレオレ詐欺」の手口が最も多く、特に警察官を騙るものが増加しています。その騙りの内容とは、「あなたの口座が犯罪に使用されており、あなたに逮捕状が出ている。逮捕を免れる



方法として、□座内の現金を確保があるので、○○万円を下ろして××に置いておくこと。確認が終了次第、現金は返却する。」などというもので、LINEなどのビデオ通話で逮捕状を見せられるケースもあるそうです。そもそも警察が逮捕状を取得するのは犯人の逃走防止が主な理由なので、逮捕状が出ていることを犯人に教えることはおかしい話ですし、もちろん確認のために渡した現金も返ってくることはありません。

では、どのように被害を防ぐかという点です。県内在住の被害者の多くは「電話で『お金』詐欺」の手口を知らなかったため、熊本県警察では自称詐欺師の「ワルモン」というキャラク



きなっせ！多士覺流会！



写真は、今年初の試み、春のミニ多士饗流会の模様

多士 済々

天地万象皆わが師
進まん理想の目標に

済々覺魂で懸命にプレーします！

大分Bリーグス 川原雄大選手（H30）

大分多士会（柳原淳会長・S51）は、大分市に拠点を置くプロ野球独立リーグ「大分Bリーグス」の川原雄大選手（H30）を応援している。2月には初めての激励懇親会を開催し、3月のホーム開幕戦を観戦。その後も、秋のプロ野球ドラフト会議での指名獲得を目指している川原さんに熱い視線を注いでいる。



激励懇親会で決意を語る川原選手



川原選手（中央）を応援する大分多士会のメンバー（3月14日のホーム開幕戦で）

川原さんは右投げ右打ち。174センチ、85キ。済々覺では外野手で、二番打者、チャンスメーカー的な存在だった。筑波大でも続けた野球の道に進むことを決め、2023年、大分Bリーグスに入団。昨年はチームが所属する九州アジアリーグで、三塁手のベストナインに選ばれた。

大分市内での激励懇親会では、同球団の岡崎郁GM（元プロ野球巨人、大分商高出身）から「川原選手はチームの主力であり、またムードメーカーでもあり、欠かすことのできない存在。着実に実力を付けてきた。更にレベルアップしてNPB（プロ野球）に焦点を合わせてもらいます。済々覺OBの皆様もぜひ期待をして見守って頂きますようお願い申し上げます」とのメッセージが届き、済々

覺野球部OB会の高田徹会長（S55）からも「川原選手が今シーズン益々進化し、夢であるNPB入りが実現できるよう済々覺野球部OB会一丸となって応援します」との激励が寄せられた。

振って応援した。川原さんは二番、サードで先発出場、11-7の打撃戦を制した勝利に貢献した。

川原さんの5月下旬時点の打率は3割3分3厘、本塁打1本。「後半戦もっと調子を上げていけるよう、済々覺魂で懸命にプレーします。今後とも、応援をよろしくお願いします！」と活躍を誓っている。（田上賢祐・S49）

始まりは、今年もここからだった

阪神タイガース 大竹耕太郎投手（H26）

昨年12月下旬、プロ野球・阪神タイガースの大竹耕太郎投手の姿は済々覺のグラウンドにあった。寒風が吹きつける中、白い息を吐きながら黙々と走り、投げる。「ここに帰ってくると身が引き締まる。原点に戻って、よし、来シーズンもやってやるぞ、という思いになるんです」。年末年始の数日間、母覺で汗を流し、プロ9年目のシーズンへ向かった。

3月に初の著書「覆す」を出版した。常識にとられない考え方や投球術で、育成選手からはい上がってきた自身のストーリーを描いたものだ。



力投を見せる大竹投手

「現状に満足しない」「変化を恐れない」「自分で考えて行動し、責任を持つ」文中に出てくる数々の思いやメッセージは、スポーツ選手に限らず、私たちにも人生のヒントを与えてくれる。

思い返せば、初めて大竹投手を取材したのは2012年夏だった。済々覺を18年ぶりの甲子園に導いた2年生エースだった。優勝した大阪桐蔭に3回戦で敗れた後、ベンチ裏の通路で涙を流しながら



大竹投手初の著書「覆す」

ら「やり返したい」と雪辱を誓った姿を鮮明に覚えている。

プロ入り後も、壁に当たるたびに彼を突き動かしているのは、そんな反骨心だろう。

考える力を養ったのも高校時代だ。「済々覺が自主性を重んじる学校だったことは僕にとってありがたかった」と振り返る。何が自分に足りないか、どこを伸ばせばいいか、そんなことを考えて毎日、自ら練習メニューを考えた。紅白戦では、内野手の目線で試合を見てみたい、と志願してショートの守備位置についていたこともあったという。

その思考力や行動力はプロの中でも卓越する。ソフトバンクホークスから阪神に移籍して4年目の今季は「キャリアハイクの成績」を目標に掲げる。長いシーズン、順風満帆とはいかないかもしれない。だが、15年近く記者としてそばで見えてきて確信する。どんな逆境でも彼なら乗り越えられる、と。球団初の2連覇へ。秋、歓喜の輪の中にいる後輩を取材できることを楽しみにしている。

（朝日新聞スポーツ部 山口裕起・H15）



大竹投手の野球部、早稲田大の先輩になる山口さん

労作の通信文集を出版

後藤道彌さん（S31）（熊本市在住）が長年、書き溜めた通信文（「便り」）をまとめた本を出版した。タイトルは『三和荘好日録』。2002年（平成14年）から、熊本市の高齢者介護・福祉施設を運営する社会福祉法人で総合施設長や顧問を務め、職員向けの「施設長便り」「顧問便り」を集大成した208編を収録している。済々覺時代の同級生との出版記念会が開かれ、刊行を祝った。

後藤さんは高森町出身。済々覺から熊本大学教育学部に進み、教職員に。熊本市立商業高校（現・市立千原台高等学校）教諭、市教委指導主事、市立総合ビジネス専門学校の教頭、校長などを歴任。38年間の教育公務員ののち、4年間、地域福祉相談業務を経験。2002年から社会福祉法人「真光会」に勤務し、



出版された『三和荘好日録』。全498ページの労作

後藤 道彌さん（S31）

2017年（平成29年）まで、高齢者総合介護施設「三和荘」の施設長、その後は顧問として、約150人の職員に接している。

「職員の皆さんに、私の気持ちや考えを伝えたり、参考になる情報を届けたい」として、毎月の給与明細を配布する際に、A4判表裏2ページ、または2枚4ページの施設長便りを同封することにした。非常勤の顧問になってからは顧問便りを続けた。

この間の大量の原稿がパソコンに蓄積され、「改めて職員さんや知人、友人、子どもや孫たちに読んでもらえるようまとめ直してみよう」と書籍化することにし、時系列を並べ替えるなど全体を再構成し、3分の1程度を割愛した上で、88歳になる記念として、2025年（令和7年）11月1日に400部を出版した。

書籍はそれぞれ「花眼」「戦後70年」「認知症も悪くない」「不戦の仕組みを」と題した四部構成。高齢者介護・福祉に関する啓発や情報紹介に加え、体験談、旅行記、随想、調査報告など多岐に及んでいる。対応に追われた新型コロナウィルスの感染拡大についても綴っており、2025年は戦後80年、昭和100年にあたり、戦争や平和への思いにも行数を費やしている。

出版記念会に集まったのは、美作明、宮本健一、伊津野淳一、椎崎敏臣、山下



出版記念会で、後藤さんの本を持つS31の皆さん。前列右から3人目が後藤さん

春通、吉井瑞代、高田和行、安達俊昭、谷三郎の皆さんで、「立派な作品が出来て、感心している」「継続は力なりというが、才能です」「君の才能はすごい」とコメントした。

前書きに「一冊にまとめる構想で書いたのではないため、話題がちろちろに飛んだ雑文集になったが、少しでも興味を持っていただいたり、お役に立ったりすることがあったら、望外の幸せ」と記した後藤さん。出版後、同級生や往時の教え子らから反響があったといい、「書籍として残すことができて良かった」と相好を崩した。（田上賢祐・S49）



写真左から岩田さん、主海さん、塚本さん、本田さん、村山さん、長谷川さん、下山さん、坂井さん

子育て世代が考え望んでいること — 同窓会ができるように

藤)木綿子(S60)が出席しました(敬称略、カッコ内は旧姓)

○同窓会活動に参加して子育て世代として感じていること、望むことはありますか。

- ・子どもを連れて参加できると嬉しい。
- ・子どもも参加できる会もいいなと思う。
- ・子ども同士も仲良くなれると思う。
- ・仕事と子育てに忙しく、同窓会について考える余裕のない日々を過ごしています。

・昼間の会議はありがたい。

・同窓会参加は楽しい。

同窓会への若い人の参加率が低いことが何かと話題になっています。特に最近卒業生の半数を占める女性の参加について。同窓会は色々な世代の集合体。各世代の要望をききながら、同窓会としてできることを考え、お互いにつなげていくことが重要かと思っています。今回は子育て世代に照準を当て、多士会館にて座談会を開きました。

子育て世代からの参加者は、塚本(馬場)加奈子(H16)、村山(又野)千紘(H16)、下山(内野)佑紀(H17)、本田(緒方)詩帆(H21)、主海勇心(H23)。同窓会側からは森田(佐藤)勢津(S46黌、zoomでの参加)、長谷川(三木)佳代子(S49)、岩田(柳田)智子(S55)、坂井(佐

- ・30歳で同窓会離れがあると聞かれていた。自分が30代になってそれがすごくよくわかる。行かなければ行かないであんまり何も困りはしなかったけれど、同窓会がここにあるっていうだけですごく安心できた。久しぶりに大同窓会に行ったら先輩方に会ったら、すごく楽しかった。託児とかがあったり、子育て世代の子どもと一緒にイベントとかがあったりすれば通うだろうな。
- ・海外にいて熊本に帰ってきてからしか同窓会への参加はなかったのですが、結婚 出産 出店が同時期、一気にきたので、同窓会参加はとても難しかった。

た。特に夜泣きがひどくて寝かしつけが死活問題。大同窓会となると、託児があっても、なかなかむずかしい。

- ・大同窓会の前にピクニックをしたんです。何時に来てもいいよという気軽な会で、子ども連れが多かったんですが、大同窓会の参加にはつながりませんでした。きつと来られなかったんだと思います。子どもたちも参加できるイベントやグランメッセでのイベントのようなものがあると、将来的に子どもが大きくなった後、大同窓会に参加しやすくなると思います。

○託児は必須ですね。会議を昼にするのも子育て世代の参加をお願いするのはよいですね。次にこんなイベントがあればというのがありますか？

- ・会館が学校かでマルシェとか、ちょっと文化的な楽しみができる場があればいいな。同級生に農業に転向した人があるし、木育、木工に関われるような人もいる。何かの販売や、文化的な活動をしている同級生もたくさんいて、それぞれができることを持ち寄れば楽しいものができるのではと思う。同窓会のお力があればいろんな人が集まると思う。

○多士会館を使うのはいいと思います。

済々黌をどんどん好きになる

シンガーソングライター 嘉悦なつ美(H17)

平成17年卒の嘉悦なつ美です。現在はシンガーソングライターとして活動しており、ライブや熊本のCM楽曲制作などに励んでいます。今年の2月には活動の幅を広げるため東京へ拠点を移し、新しい環境で奮闘中です。

高校時代は空手部に所属し、女子主将を務めていました。インターハイに出場できたことは今でも大切な思い出です。当時はまさか将来、人前で歌う仕事をするととは思っていませんでした。

関東や北海道ライブに行った時には同窓会の方々が応援に駆けつけてくださいました。どれほどありがたかったことか。今でも心が温かくなります。

そんな私が今年5月の大同窓会では、幹事学年として運営に携わり、当日は司会と歌を担当させていただきました。準備期間中は同窓生の皆さんに会うたびに「同窓会行こうよ」と声をかけていました。そのおかげで、本当にたくさんさんの同窓生の方々と出会うことができました。仕事も年齢もバラバラなのに、「済々黌」という共通点だけで一気に距離が縮まるのが不思議です。

特に今回感じたのは、たくさんさんの女性たちがそれぞれの場所で輝いていることでした。子育てしながら弁護士になった方や、新しい挑戦を続けている人。皆さ



【プロフィール】熊本と済々黌をこよなく愛するシンガーソングライター。東京・熊本の2拠点でライブや楽曲制作など活動中！

多様な力で紡ぐ同窓会の未来

済々黌関西地区同窓会 会長

勝浦 美奈子(S57)



すくなり、チーム全体の結束力向上につながるかと分析されています。

このたび済々黌関西地区同窓会において、初の女性会長に就任いたしました。会長としてさまざまな行事や会合に参加し始めておりますが、「済々黌初の女性会長」というだけで珍しがられ、どこへ伺っても大変丁寧に接していただいております。何だか上野動物園にやって来たパンダになったような気分です。もっとも、パンダのような愛らしさがあるかどうかは別問題ですが…。

他校の同窓会に参加する機会もありますが、どの学校も会員の高齢化や参加者の減少など、組織運営に大きな課題を抱えています。私たち済々黌関西地区同窓会も決して例外ではなく、これからの時代にふさわしい組織づくりが求められていると感じています。

そんな中、興味深い研究を知りました。NASAでは火星探査などの長期ミッションを想定した実験を行っています。その研究によると、男女混合のチームは同性のみのチームに比べて対立が少なく、心理的安全性が高まる傾向が確認されたそうです。特に女性が増え、互いを気遣う協調的なコミュニケーションが生まれや

「ここに足を運ぶきっかけになりますよね。多士会館でフナタリウムもできますよ！」

- ・子どもが楽しめるイベントがあれば3人連れて是非参加したいと思います。
- ・マルシェとか輪を繋げる取り組みがあちこちで開催されているけれど、そこに一人で行くのはハードルが高い。それこそ、先輩とか後輩とか同年代というだけでちょっと心強いし、良いと思います。

・うちの子野球をしているのですが、野球部の同窓生の方から何か教えてもらえたり、ゲームをしたりするのも面白そうだなと思います。

・自分が何も参加したことがないので、大同窓会でひとりぼっちということがないのかと心配していましたが、行った方が自分の居場所があるってことかな。

こちらからの提案ですが、子供が成長していく過程でもう使わなくなったものを次の世代に譲るというような譲り合いのイベントとかはいかがでしょうか？

参加者からは好感触でした。

まずは、多士会館を利用して、小さなマルシェなどをやってみましょう。いろんな人が出入りする多士会館、身近な同窓会になっていくといいですね。

実りある時間をありがとうございます。た。(長谷川 佳代子・S49、岩田 智子・S55)

自分らしく前へ進んでいて、とても刺激を受けました。私自身も音楽活動を続ける中で、不安になったり立ち止まったりすることがあります。でも同窓生と話す、「もう少しやってみようかな」と元気をもらえます。

高校時代は、正直こんなに同窓会に関わるとは思っていませんでした。でも今回運営側として携わったことで、改めて済々黌のつながりの強さを実感しました。今は亡き母が行きたかった済々黌。夢を引き継ぐ形で入学しましたが、本当に良かったです。

初めて参加した同級生が賛歌斉唱の後、感動して号泣。こんなに想いが一つになる高校はなかなかないと思います。卒業してからどんどん好きになってきています。

黄なかつに ～がたらんな!?

卒業してからが長い同窓生ライフ。キナセンの絆のもとに繋がる同窓生の活動「黄なかつ」で長い同窓生ライフをさらに楽しみませんか！

済々写友会

2025年7月29日から8月3日に6回目の写真展を、今年6月9日～14日に7回目の写真展をいずれも在賢生の写真部も参加して県立美術館分館ギャラリーで開催しました。また今年も5月に開催の済美展（別項）にも11名の会員が参加しました。来年の8回目の開催は会場が未定ですが同時期に開催予定。多くの同窓生の皆様の参加と観覧を期待しています。

【問い合わせ・入会の連絡先】

事務局 江藤 誠矢（S43）

電話：090-7393-0416

メールアドレス：sayer1@mac.com

済美展



第25回済美展（済々賢高等学校同窓生美術展）は、5月19日～24日に県立美術館分館で開催され、故人2人を含む昭和20年卒から平成11年卒までの同窓生52人の絵画、立体、写真、書道、など63点の展示を行いました。次回の済美展は県立美術館分館の改装のため、再来年になります。

【参加希望および問い合わせ先】

事務局長・田内 康敬（S44）

携帯電話：090-1342-8277

母賢は今

令和8年度大学受験 結果の総括について



進路指導主事
日渡 尚人

新課程2年目となった2026年の共通テストは、大方の予想通り、前年に比べて難化した。特に「物理」や「国語」、昨年度から新たに追加された「情報」の全国平均点が昨年度比で10点以上低下したほか、英語リスニングや数学ⅠAなどでも平均点の下落が見られた。この難化を受け、出願先を慎重に選ぶ「安全志向」が全国的に高まり、旧帝大の志願者数は微減した。本校においても同様の傾向が見られた。学部別に見ると、全国的に医療系（医・薬・看）の志願者が減少傾向にある。ただし、医学科の難易度は依然として極めて高く、本校でも合格のハードルが高い状況が続いている。一方で、良好な就職状況を背景に、法学部や経済学部といった実学系学部は高い人気を維持した。

このような状況下で、今年度の本校の受験結果は、国公立大に263名（現役208名、既卒55名）が合格した。主な内訳は、東京大1名、京大4名、大阪大11名、九州大32名、熊本大89名、県立大19名などである。私立大については、442名（現役273名、既卒

169名）が合格した。主な内訳は、慶應義塾大3名、早稲田大10名、中央大12名、同志社大12名、立命館大57名などである。なお、東京大および京都大の合格者はすべて既卒生であった。共通テストの難化により、目標点に届かず第1志望校を変更した生徒も一定数いたが、その後の2次対策授業では、初志貫徹した生徒も志望校を変更した生徒も、合格に向けて入試問題に粘り強く取り組んだ。結果として例年より浪人する生徒が増加したが、来年度のリベンジを強く期待したい。難関大や医学科への合格には、年々低学年からの学習の「量と質の向上」が不可欠となっている。高1・高2の段階でいかに基礎学力の貯金を作り、高3で実戦的な演習に集中できるかが勝負の分かれ目である。なお、本校では「行ける大学」ではなく「行きたい（行くべき）大学」を目指すよう指導し、超難関大である「東京一科」に複数名、九州大に50名の合格を目標としている。

大学入試の最新動向

（女子枠と年内入試の拡大）

理系を中心に、大学入試に「女子枠」を設ける大学が増加している。文部科学省が2025年に「多様な背景を持った者を対象とする選抜」の工夫を求める通知を出し、その一例として理工系分野の女子を挙げたことが契機である。この通知を受け、2023年度入試から国公立大を中心に女子枠導入の動きが活発化し

過去3か年の主な大学合格状況

年度		6	7	8		
大学名				現役	既卒	計
北海道大		0	4	0	0	0
東北大学		0	1	1	0	1
筑波大		1	2	1	0	1
千葉大		2	1	1	1	2
東京大		2	2	0	1	1
東京外国語大		2	1	1	0	1
東京学芸大		1	3	1	1	2
東京科学大(理工系)		0	0	0	1	1
一橋大		0	1	0	0	0
横浜国立大		2	5	2	1	3
名古屋大		1	0	1	3	4
京都大		3	2	0	4	4
大阪大		14	11	8	3	11
大神戸大		6	5	5	1	6
広島大		23	9	8	1	9
九州大		50	31	22	10	32
九州工業大		4	3	8	2	10
福岡教育大		3	3	3	0	3
佐賀大		7	10	6	1	7
長崎大		11	7	5	1	6
大宮大		2	5	8	0	8
大崎大		4	3	0	1	1
鹿児島大		25	19	10	3	13
熊本大	文	9	9	8	0	8
	教育	19	20	18	1	19
	法	11	16	4	0	4
	情報融合	2	3	5	1	6
	理	14	12	7	4	11
	医・医	2	4	0	0	0
	医・保	11	12	10	0	10
	薬	8	7	1	0	1
	工	38	30	23	2	25
	共創	-	-	5	0	5
小計	114	113	81	8	89	
その他の国立大	19	12	10	5	15	
国立大計	296	253	182	48	230	

年度		6	7	8		
大学名				現役	既卒	計
東京都立大		1	0	1	0	1
京都府立大		1	0	2	0	2
大阪公立大		2	1	1	4	5
熊本県立大		15	15	18	1	19
その他の公立大		13	13	4	2	6
公立大計		36	30	26	7	33
青山学院大		3	7	2	7	9
慶應義塾大		7	7	1	2	3
上智大		2	2	4	0	4
中央大		14	8	6	6	12
東京理科大		1	2	1	9	10
日本大		2	3	1	3	4
法政大		8	10	7	3	10
明治大		13	17	5	4	9
立教大		5	0	2	2	4
早稲田大		13	10	9	1	10
同志社大		28	32	3	9	12
立命館大		68	45	14	43	57
関西西大		7	8	6	2	8
近畿大		22	36	22	10	32
関西学院大		10	8	1	9	10
福南学院大		46	54	39	3	42
福岡大		50	52	28	4	32
熊本学園大		22	8	14	1	15
崇城大		36	27	31	15	46
熊本保健科学大		38	18	26	0	26
その他の私立大		53	73	51	36	87
私立大計		448	427	273	169	442
防衛医科大		2	3	0	0	0
防衛大		1	3	1	0	1
その他の大学校		1	3	1	0	1
大学校計		4	9	2	0	2

た。2026年入試では国公立大34校が実施し、前年比184人増の736人規模となった。2027年入試でも、横浜国立大、静岡大、九州大での新規導入が予定されている。これらの取り組みが、学内の多様性確保や卒業後の活躍といたした意図した成果に結びつくかは、今後の長期的な検証が待たれる。なお、本校では熊本大学の情報融合学環において女子枠で合格しており、女子枠での受験者はこれから増えていくのではないかと

思われる。また、年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）も拡大傾向にある。大学側がこれを導入する主な目的は、「受験生を多面的・総合的に評価するため」や「アドミッション・ポリシーに合致する入学者を丁寧に選抜するため」である。なお、推薦入試でありながら学力試験のみで可否を決める大学が増加したことを受け、文部科学省は3月末の方針で2026年度からの年内入試における「面接」の必須化を発表した。これは

済々賢 飾馬奉納団



みなさん、こんにちは。絆としての奉納も今年で12回目となりました。乗隊は春から毎週練習を行っています。先日は10代の若い子達が練習に参加してくれました！練習はどなたでも参加可能で見学もOKです。練習日はインスタでお知らせしますので興味のある方、お時間のある方はアクセスください。乗隊・口取としての参加もいつでも大歓迎です！お子さんとの参加もOK（中学生までは朝随兵のみ）です。



お申し込み



Instagram



ホームページ



facebook



さて今年の本祭は9月20日（日）です。暦の関係で今年の本祭は5連休の2日目、本祭の後もゆっくりお休みいただけると思います。奮ってご参加下さい！また今年も何よりも皆さまからのご寄付がなくては団体の運営もスムーズに行えません。毎度毎度のお願いで恐縮ではございますが、今年も絆へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

済々賢飾馬奉納団 絆

取締役 村上秀一郎（H10）

受験生の多面的な評価を担保するための措置である。本校でも「総合的な探究の時間」等で取り組んだことを活かして、年内入試を受験する生徒が増えつつある。上位の大学になるほど、将来への問題意識に基づいた明確な志望理由と、それを自分の言葉で説明することが求められるため、早めの準備が必要である。

国立大学の「学費引き上げ」について

国は国立大学の授業料の「標準額」を年間53万5800円と定めているが、各

大学の裁量により最大20%増の上限64万2960円まで引き上げることが認められている。約20年間、大半の大学が標準額を据え置いてきたが、東京大学が2025年度の入学生からこの上限額への値上げに踏み切った。これを引き金として、他大学でも2026年春からの値上げ発表が相次ぎ、全国的な「値上げドミノ」が広がりはじめた。背景には、長年の運営費交付金削減に加え、近年の急激な物価・光熱費の高騰があり、「自助努力だけでは教育・研究環境を維持できない」という大学側の苦しい事情

がある。地元の熊本大学も例外ではなく、3月11日、2027年度から全学生の授業料を約1割値上げする方針を公表した。値上げが実施されると、年間53万5800円から59万4800円へ変更となる。値上げ分の使途や減免措置については学生との意見交換を経て夏までに決定される予定である（4月末現在の情報）。文部科学省によれば、授業料が現在の水準になって以降、値上げが実施されれば九州・沖縄の国立大では初となる。今後の学費負担の在り方を巡る議論には、引き続き注視していきたい。

夢の実現に向けて！

令和7年度恩賜記念賞・多士賞受賞者

恩賜記念賞を受賞して

九州大学薬学部創薬科学科 高村 佳未

令和8年卒高村佳未です。この度は恩賜記念賞という伝統のある賞に選んでいただき誠にありがとうございます。

入学当初は伝統ある済々黉に入学できたことが本當にうれしく、部活動は何に入るか、新しい環境で友達ができるかなどワクワクドキドキでいっぱいでした。そして済々黉での生活が始まり、テストの多さやテスト期間の勉強と部活の両立の大変さに圧倒されました。しかし同じクラスの人や、部活の人と仲良くなり、



文化祭でクラスメイトと（後列右から2人目が筆者）

みんな協力したり、遊んだりして、充実した済々黉ライフを送ることができました。

初めて恩賜記念賞のことを知ったのは1年生の時の卒業式で、みんなの前で賞状をもらっていてとてもかっこいいなと思いました。まさかその賞に自分が選ばれるとは思っていなかったのですが、本當にうれしく思っています。

私は九州大学に進学しました。新しい環境で、新生活や大学の履修登録などとても大変な日々ですが、済々黉時代の友人が近くにいる、相談したり、会ったりできるからこそ、乗り越えられていると



部活動の仲間たちと（前列左から4人目が筆者）



多士賞を受賞して

白石 祐也

この度は名誉ある多士賞に選出していただき誠にありがとうございます。振り返って見ると、済々黉での3年間はほんとにあとという間で、仲間からの刺激を受けつつ、自分への挑戦の日々でした。

特に高校から始めた陸上部での活動は自分の生活の核となるものでした。3000円障害というハードルや水泳などの障害を超えるハードな競技に打ち込む中で結果を出せたことは自分にとって大きな自信になったし、自分自身を大きく成長させてくれました。部活動で培った力があってからこそ授業や試験などの学業の面でも粘り強く取り組むことができたと思います。3年間真摯に陸上への指導してくださった安永先生には



陸上競技部の仲間たちと（前列右から2人目が筆者）

本當に感謝しています。

自分の「済春」がこんなにも充実していたのは、3年間ともに走り抜けた陸上部の仲間、多士会館に行ったりして一緒に勉強してくれた友達、いつも気にかけて、応援してくださる先生方、家族がいたからだと思います。こうした日々が今の自分を形作ることも、済々黉の伝統を守っているのだと感じました。

ここで得たこと、支えてくださった方々への感謝を胸に、卒業後も新たな障害を恐れず、自分らしく走り続けたいと思います。済々黉の皆さんも自分だけの「済春」を全力で駆け抜けて最高の3年間にしてください！この度は本當にありがとうございます。



新人戦で表彰台に（写真中央）

世界を繋ぐ一人として

高校生平和大使 林田 美咲（3年）



スイス・ジュネーブで

「微力だけど無力じゃない」。このスローガンを胸に駆け抜けた第28代高校生平和大使としての活動は、私に大きな成長をもたらしてくれました。熊本での地道な署名活動や平和学習などの講師から、スイス・ジュネーブでの国連会議参加まで、平和の在り方を多角的に捉え直す日々でした。

特に印象に残っているのは、スイス派遣での海外の若者たちとの議論です。歴史背景や安全保障観の違いから、意

見が激しくぶつかる場面もありました。しかし、核兵器の非人道性という原点に立ち返ることで、対立を超えて手を取り合える可能性を感じることができました。国連の議場で、日本から集まった数万筆の署名を届けた際の重みは、日本中の「平和への願い」が結晶化したものだと思えました。

この一年で学んだのは、解決困難な課題を前にしても、声を上げ続け、対話を諦めないことの尊さです。高校生平和大使としての任期は終わりますが、平和のバトンはまだ私の手にあります。この活動で得た「対話し続ける勇氣」を糧に、これからも被爆地・長崎や広島、そして地元熊本の想いを世界へ繋ぐ一人であり続けたいと思います。そして最後に、活動を温かく見守ってくださった同窓会の皆様に、心より感謝申し上げます。



県原水禁学習会で大使としての平和活動を報告

済々黌同窓会
進学奨学金
夢への挑戦・実現へ！

済々黌創立140周年を記念し設立した進学奨学金制度は今年4年目を迎えます。今春は3名の生徒に其々50万円を給付いたしました。3名からはメッセージが届いていますのでご紹介します。これも偏に奨学金をご寄附いただいた同窓生の皆様のお陰です。心より御礼申し上げます。

同窓会では今後も多くの生徒に学びの場を提供できるよう、奨学金の募集を継続しておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

支援委員会 副委員長 成尾 雅貴（S52）

九州大学薬学部創薬科学科へ進学

この度は、温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。
 私には夢である製薬開発者になるため、現在九州大学薬学部創薬科学科で学んでおります。高校生の頃は、学費や引越越し費用への不安もありましたが、ご支援をいただけたことで、安心して、受験勉強だけに集中することができ、無事合格できました。

大学生活では、製薬開発者になるために日々勉強に励んでいます。勉強と日々の生活の両立で大変なと感じることもたくさんありますが、将来社会に貢献し、たくさんの人を救うために頑張っています。日々の授業や課題に真剣に取り組む、学びを深める中で自分の知識や視野が広がっていることを実感しています。薬学部での学びは覚えることも多く、講義だけでなく実習やレポート試験勉強など様々なことに日々取り組んでいます。また、今回のご支援を通して多くの

方々に支えられて学ぶことができて、という感謝の気持ちを改めて強く感じました。皆様からいただいた厚意を無駄にしないようこれからも努力を重ね、成長していきたいと思います。将来は患者さんに安心して飲んでもらえ、まだ治療法が確立されていない病気に対して新たな可能性を持つ薬を作ることができるよう製薬開発者になることが目標です。今後も知識と技術を磨きつづけていきたいと考えています。そして皆様からいただいたご支援への感謝を忘れず、社会に恩返しできる人材へと成長していきたいと思っています。

明治大学商学部へ進学

この度は、済々黌同窓会進学奨学金によるご支援を賜り、誠にありがとうございます。明治大学商学部に進学して以来、東京での一人暮らしを始め、右も左も分からない新たな環境の中で慌ただしい日々を送っておりますが、非常に充実し

た毎日を通してしております。

このように充実した学生生活を送ることができておりますのも、ひとえに貴会奨学金のご支援のおかげでございます。私の家庭は母子家庭であり、家計は母の収入のみで支えられているため、関東の私立大学への進学および入学に伴う多額の費用負担は極めて困難な状況にありました。しかしながら、貴会より奨学金を賜りましたことで、自らが学びたい分野を学ぶことのできる大学へ進学することが叶い、現在も安心して学生生活を送ることができております。貴会ならびにご寄附をお寄せくださった皆様方には、感謝の念に堪えません。

大学生活の4年間におきましては、学業に真摯に励むとともに、公認会計士資格の取得を目標として一層精進してまいりたいと考えております。
 末筆ではございますが、貴会ならびに本奨学金に携わってくださったすべての皆様へ、改めて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

慶應義塾大学商学部へ進学

慶應義塾大学への進学、そして、一人暮らしをはじめ1ヶ月が経ちました。時間とお金を自ら管理するのは想像以上に大変ですが、自分の成長に繋がっていると感じています。少しずつではありますが、この生活にも慣れてきたところで

す。

大学生活のはじまりは、新たな発見と出会いの連続でした。済々黌時代よりも多様な価値観を持つ人々との交流に、時には気疲れすることもありましたが、そのなかで、自分らしくいられる居心地の良い場所も見つけることができました。これから始まるサークル活動やアルバイトを通じ、済々黌で得たかけがえのない友人のように、生涯を通じて高め合える関係を築いていきたいと思っています。

またこの2ヶ月は自らの将来を深く見つめ直す時間でもありました。私は元々、国際関係にまつわる職に就きたいと考えておりました。商学部には、公認会計士や金融などの道に進もうと考える人が多く在籍しており、自分もその環境に身を置き、様々な話をきいたことで、改めて様々な進路を検討しました。しかし、将来への見通しが紆余曲折するなかで、やはり、元々自分がなりたいたい姿であった外務省の専門職員として、国際社会に貢献したいといま、強く思っています。

同窓会より賜りました奨学金は、生活費や夢への第一歩となる学習参考書の購入に充てさせていただいております。この多大なるご支援を一生忘れません。いつの日か、私も寄付する側に回り、済々黌から上京する後輩たちの力になりたいと考えております。そのために、いま自分ができることを常に問い続け、無駄のない、実り多き4年間を歩んで参ります。

学年代表評議員

学年と同窓会をつなぐパイプ役としてのご活動に感謝申し上げます。

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
S26	中川 志郎	S54	佐藤 雅夫	H17	坂田 昌陽
S27	下田 金三	S55	高田 徹	H18	林 浩平
S29	藤掛 宣彦	S56	荒木 拓実	H19	竹内 督翔
S30	大川 洋次郎	S57	酒匂 士郎	H20	別當 優輝
S31	伊津野 淳一	S58	坂梨 昭弘	H21	本田 詩帆
S32	徳永 公治	S59	宮田 房之	H22	森 紘宇
S34	古河 幹男	S60	富永 哲生	H23	福元 郁美
S35	山田 善造	S61	杉本 幸生	H24	村井 帝斗
S36	木下 桂甫	S62	木場 達美	H25	西橋 啓太郎
S37	佐藤 祐輝	S63	本田 洋一	H26	伊藤 隼
S38	田中 勇三	H元	吉田 二浩	H27	白石 和真
S39	坂口 文雄	H 2	永村 哲宏	H28	木村 優成
S40	宮部 一郎	H 3	松本 琢磨	H29	宮崎 純望
S41	大嶋 和博	H 4	森 長浩	H30	馬場 竣也
S42	早田 幹雄	H 5	宮田 一起	H31	詫間 未悠
S43	日置 和統	H 6	塚本 康洋	R 2	松山 航大
S44	西島 喜義	H 7	岩崎 豊	R 3	西富 みどり
S45	古泉 隆明	H 8	大塚 一平	R 4	園田 春
S46	清嶋 恭二	H 9	村上 功時	R 5	池崎 敬士郎
S47	有働 淳一郎	H10	村上 秀一郎	R 6	伊藤 志竜
S48	白石 正治	H11	舘上 博貴	R 7	有働 真未
S49	岩永 宣治	H12	荒木 大助	R 8	水上 天晴
S50	中川 寿真子	H13	緒方 佑亮		黌友会
S51	上城 弘幸	H14	林田 将吾	S50	徳田 正己
S52	尾方 良晋	H15	南部 隼平	S53	松本 博昭
S53	吉村 栄治	H16	松村 洋輔		

令和8年度 済々黌同窓会 委員会

委員会	役職・氏名
総務財政	委員長：野田 研一（S50）
・財務戦略部会	副委員長：尾本 裕昭（S54）
・事業運営部会	副委員長：松村 和也（S63）
・史料保存アーカイブプロジェクトチーム	リーダー：多久 善郎（S47）
支援	委員長：荒川慎太郎（H 3）
・母黌支援部会	副委員長：成尾 雅貴（S52）
・同窓生支援部会	副委員長：片桐 英夫（S58）
広報	委員長：大田黒浩一（S51）
・情報発信部会	副委員長：益田 照久（S55）
・広告企画部会	副委員長：甲斐 智和（H 6）
・会報作成プロジェクトチーム	リーダー：上野功一朗（S61）
青年会	会 長：竹内 督翔（H19）
令和9年度大同窓会実行委員会	委 員 長：林 浩平（H18）

「進学奨学金制度」へ
ご寄付のお願い

この制度を確かなものとしていくために、皆様の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

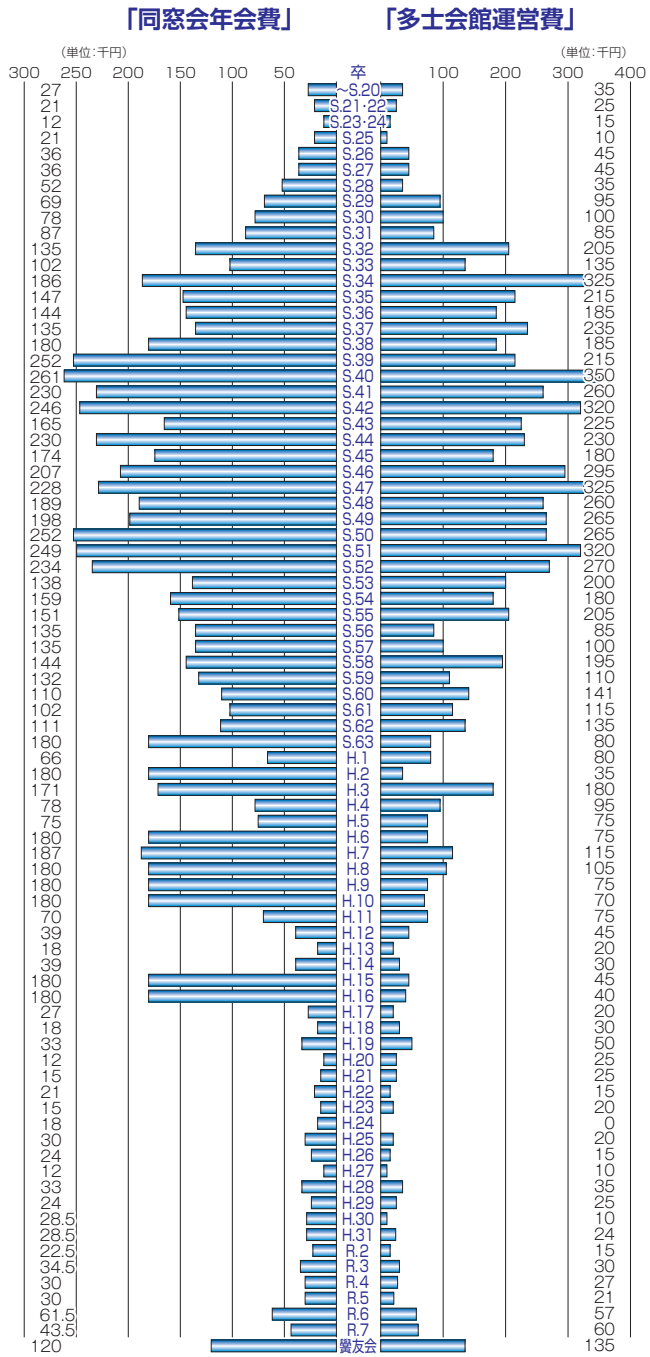


寄付についてはこちら➡

多士会館だより

「同窓会年会費」と「多士会館運営費」納入のお礼

「同窓会年会費」と「多士会館運営費」の令和7年度納入金額を下のグラフに掲載しました。沢山の皆様にご協力をいただきありがとうございました。



同窓会年会費・多士会館運営費納入のお願い

同窓会活動は、同窓生の皆様からの年会費 3,000 円（卒業後 7 年間は 1,500 円）により支えられており、また多士会館の運営も、皆様からの運営費 1 口 5,000 円（卒業後 7 年間は 3,000 円）によって成り立っております。いずれも本会の活動継続に欠かせない大切な財源でございますので、今年度も変わらぬご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。ご納入の際は、同封の振込用紙をご利用ください。

多士会館 令和7年度収支及び現況

貸借対照表				令和7年度収支			
		(単位:円)		◇収入		(単位:円)	
科 目	金 額	科 目	金 額	基本財産利息収入	41,241		
I 資産の部		II 負債の部		運営費(同窓生)収入	9,145,000		
1. 流動資産	28,646,210	1. 流動負債	6,169,537	運営費(在費生)収入	3,328,000		
2. 固定資産		負債合計	6,169,537	同窓会受託料収入	2,500,000	同窓会業務分	
(1)基本財産	181,855,046	III 正味財産の部		会議等使用料収入	205,500	研修施設 部屋代	
(2)その他の固定資産	41,243,035	一般正味財産	245,574,754	合宿使用料収入	39,000		
		正味財産合計	245,574,754	販売手数料収入	16,427	自販機販売手数料、グッズ販売手数料	
資産合計	251,744,291	負債及び正味財産合計	251,744,291	印刷収入	90,695		
				寄附金収入	3,639,609		
				負担金収入	2,500,000	同窓会	
				受取利息収入	35,172		
				雑収入	849,198	月極駐車場	
				収入合計	22,389,842		
				◇支出			
				給料手当 (1)	8,240,728	職員	
				給料手当 (2)	1,059,943	シルバー人材センター	
				法定福利費	1,192,631	社会保険料、労働保険料	
				福利厚生費	199,110	職員通勤手当	
				通信運搬費	271,464		
				減価償却費	1,872,947		
				備品購入費	400,000		
				消耗品費	212,715		
				修繕費	104,168		
				印刷費	204,152		
				光熱水費	917,995		
				諸謝金	262,962	税理士、司法書士料、英会話講師料	
				租税公課	1,570,700	法人住民税、固定資産税	
				負担金	10,800		
				支払手数料	305,075		
				リース料	772,860		
				保険料	5,760		
				機器保守管理費	42,680		
				警備費	170,280	館内警備費	
				清掃費	864,400	館内清掃費	
				交際費	5,400		
				雑費	110,081		
				過年度損益修正損	951,706		
				退職金	161,060		
				助成金(学費)	1,075,000	部活動の全国大会、九州大会出場助成	
				助成金(その他)	721,845		
				支出合計	21,706,462		
				R 7年度収支	683,380		

多士会館から学費への助成金		ご寄付いただいた方々	
助成先	金 額	寄付者氏名	金 額
漕艇部	190,000	S40 年卒 佐田博 様	1,000,000
陸上競技部	120,000	S51 年卒 八木誠 様	1,000,000
水泳部(競泳)	90,000	(匿名)	808,950
男子バスケット	75,000	済々黌 40 会 様	400,000
ソフトテニス部	50,000	S23 年卒 山口雅也 様	200,000
ラグビー部	40,000	八代済々黌同窓会	60,000
硬式テニス部	15,000	S39 年卒 成松正一 様	42,735
放送部	205,000	済々黌 31 会 様	36,243
生物部	70,000	S43 年卒 堤博美 様	30,000
化学部	65,000	済々黌三四会 様	30,000
合唱部	50,000	済々黌 37 会 様	10,361
軽音楽同好会	40,000	済々黌空手部 OB 会 様	10,000
地学部	35,000	黒髪校区第 7 町内自治会 様	5,000
美術部	10,000	東京同窓会 2023 様 (グッズ売上金)	4,320
文芸部	10,000	済々黌 60 会 様	2,000
個 人	スケート(国スポ)	合計	2,830,659
合 計	1,075,000		

運営費をいただいた方々(敬称略)	
利用状況	人 数
公益目的事業	35,223
その他の事業	1,827
合 計	37,600

おかげさまで、令和7年度は、皆様より総額 9,145,000円の運営費をご納入いただきました。心より御礼申し上げます。ご納入への感謝の意を込め、以下にお名前を掲載させていただきますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。多士会館は、皆様からの運営費とご寄附によって維持・管理、運営されております。本年度も、変わらぬご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

昭12 樋山廣治 昭15 高階昇 昭19 加藤逸雄 昭20 大島文彦④ 昭21 田川聖也 昭22 荒木忍、荒木通章、吉弘義鑑② 昭24 仮屋正重、古閑孝之、岩永啓 昭25 松見達俊、松尾由里子 昭26 松永晃、緒方規人、牧野耕治、神戸聰、岩永研一②、北里謙祐、大塚樹也、片桐亨 昭27 速水忠、岡岡克己②、沖村浩史②、荒尾兼通、菅原平、武藤宏一郎、橋口武仁 昭28 田中實夫、澤田多喜子、松村國彦、立山博昭、野口泰一郎、吉田秀明、瀬崎英次 昭29 坂田晃司②、永谷正雄、江藤充男、小野敬太、竹下洋敏、宮本安基②、大森義行、小山照映、大竹伸幸、大場悦子、藤掛宣彦、鬼塚博子②、木原良克、三井所政子、松岡孝博、吉村輝男 昭30 大森公、廣岡克己②、西端子②、宮本雄一、木村純久、小西至、田辺隆秀、西岡輝雄、古住洋二②、樺本憲成②、坂崎善之、岩永猛、山室紀雄 昭31 田邊純、前田英明②、谷崎達夫、吉井瑞代、木村志津子、金田太、中村美城雄、森由美子、浜田浩二、坂田勝、長野徹、益永京子、後藤弘子、末廣保子、中原聰子、佐藤京子 昭32 永村勝子、阿部武生、石口信雄、兼松英幸、忽那龍雄、倉岡東一②、園田一雄、玉置順子、中原光一、井薫②、西岡俊郎、赤尾美知子、平嶋ユキコ、村田徹、近藤傳二、越智佳子、三好南次、宗方良晃、吉田幸一、関正長、徳永公治、下田康夫、永野亨、福田弘、御船真也、吉村正美、江尻良貴、高田浩一、田中恒俊、浦田邦夫、田中将臣、前田栄治、松田長久、安藤雅夫、古川順子、河崎敏、武田征章、松川孝之、吉岡健 昭33 上田隆利、藤本重信、村田六三郎、山内武、太田正善、小城凱歌、中野幸子、蓮田新夫、加藤紀雄、駒崎友和、竹之内久仁也、荒木哲美、村中昭子、木村淳子、友正義、白石隆士、宮田克彦、岩本忠司、緒方孝臣、小川尚、黒田馨、阪田征二、早川康彦、二塚信、加藤繁、瀧口和泉、林田紀久男 昭34 赤星達夫、浅山聡、伊藤俊一、田中和夫、藤本明寛、守田恒、安武紀重、内田嘉春、小山紘、川崎紀宏、高田誠、清瀧誠司④、藤善勲、古市規矩夫、古河幹男、堀川涉、前田利雄、森信孝、岩本洋一、交野富清、川地伊佐男、志水敏男、西村治、上田正幸、神戸威、塩田隆、野口剛、古莊幹郎、浅井正利、桑田峰子、大久保徹住、緒方修二、川上禎士、田中一朗、三角恭須子、大塚國弘、湯貫秀昭、石坂千歳、一瀬英輔、大里八朗、左座決、河野正通、兒玉武久、中嶋義一、新生隆、佐治紀子、草野吉寛、高野賢一、東千歳、安部宗武、藤本脩、益永高吉、岡

啓嗣郎、原忠雄、沖村將史、尾上壽一、小泉満、末次義久、松野達夫②、盛谷貴美代、矢野賢一 昭35 亀光秀明、與縄義昭、境正俊、笹淵裕、佐間野須賀子②、高岡勉、豊田征史、中西照貴、後藤洋一、与田誠、隈部宏城、津住護雄②、甲斐博之、菊池峰生、長谷川義郎、赤星亨、吉田紘彬、関剛一、原口貞信、松田中行②、有田公德、中田征二、松本洋三、村上信義、荒木茂和、寺尾瀏②、坂井弘元、中村光宏、水室俊介、本島瑞穂②、江尻一征、岡本定昭、金崎勝、河田憲明、菊池文彬、正源司克也、(故)野口邦夫、福原英喜 昭36 井上勲、森英久、清見吉則、清田純次、酒井保之、川邊康志、高濱兵部、成松至誠、東口健一、大即信行、斉田浩二、佐藤章、永田哲哉、長野信隆、横田勝行、木下桂男、泉田智宏、平野捷代、村田富子⑥、檀崎喜代子、藤瀬久、松村秀一、村田悦男、山田紘充、渡邊和彦、伊東昭正、今井佑三、榎山教昭、島本哲雄、城本敬一郎、鋤矢武雄、豊後五土 昭37 田中格、塘添敏文、長岡信玄②、(故)檀本明、森敏博、森永明、緒方征二、尾田正幸、河井浩二、後藤司、末田征、橋本武明②、石坂信子、岩見征男、緒方忠昭、坂井朝夫②、北村政雄、渡邊信子、坂田祇彦②、佐々孝雄、佐藤祐輝、牧坂憲邦、森三千雄、白石惇、高見繁廣、小山雅道、黒川英明、坂田敬二、田尻彬、花田武久②、吉武康一、伊津野豪、入江昭雄、合志洋一、中西信之、西島幹男、福島国夫、又吉真雄、丸山忠、守田彰俊、森田公彦、松山捷広 昭38 春野博一、永野健二郎、那須龍昭、森田耕次、佐藤敏一、山田俊孝、甲斐孝太郎、古閑忠之、永田五郎②、福本哲雄、松永芳盛、武藤久義、田北成樹②、八木田健司、洲上健一、許田重治、山内清隆②、池田敏夫、横尾健二、関健二、藤川孝次、小村マチ、木元光夫、坂田俊明、松本益美、草野龍二、宮尾邦彦、河島義雄、栗林忠信②、野口敏夫③、松本武夫、昭39 日野律子、内藤和子、上妻正義、齊藤芳臣、佐藤利喜夫、原博志、山口賢二、坂口文雄、吉岡完起、川上正人、北水博治、黒瀬直邦、高瀬一郎、富田康義、正清栄二、村上勝彦、河上橋夫、古賀晃、西尾剛人、園田喬一、村幸吉、藤田正、藤本勇夫、楠木博征、成松正一、宮崎國忠②、大塚國弘、瀧野雄二郎、永田クニ子、宮川良雄、伊藤晴雄、北島剛房、福田章、吉野功、阿部孝郎、菊池泰子、崎村信弘、高宮城實明、馬場彰、松村英信、清崎和士、徳永瑩治、昭40 池松

隆吉、岡本重則、相良久次郎、田村俊毅、林田弘、藤田秀人、布田昭、外村洋一、近藤亨、佐藤淳也、福永敬行、早川洋一、内田義治、木村次郎、工藤恵二、栗山雅敏、田窪一隆、野島秀司、東求、古賀康彦、武宮信一、堤啓二、中西正敬、山縣正明、上田博士、岡崎一孝、木村賢治、清田和之、小池真也、坂田敏夫、平野正憲、伊藤光紀、川原文次、田邊民義、佐藤啓二、伊豆英一、尾田原初則、塚本洋一、増田和博、松本英隆、青木一郎、麻生史子、古閑邦洋、紫藤三千年、西本昌司、村上一憲、赤星敦、雨森史郎、浦本民生、河喜多熊男、川俣米利子、境哲彦、坂田憲二、櫻井忠明、中村壽恵⑥、西克明、松下好一郎、大野一也、斎藤彦、徳永慶八、富田邦治、藤井進、本田重寿、松見敏夫、宮部一郎 昭41 五島和廣、安倍勇三、甲斐一郎、木村朝男、望月實④、中野健二郎⑥、下城教士、濱本英男、原田康雄、本田守弘、今井達男、佐藤泰彦、豊永喬、守田公一、宇野完三、川上孝雄、久藤清己、宮田義則、村上和夫、佐藤准英②、樋口順子、古川裕久②、溝口康三、木原信市、中村弘則、草野峰晴、中山峰男、高村秀夫、田宮一郎、荒内研吾、伊東登記男、大久保純一、駒崎伸之、津留正良、岡田誠司、西野真一、宮崎朝夫、大嶋和博、広津和則、松原正安、三原耕二、池田英二 昭42 岩永経世、蒲原隆一②、吉松裕子、後藤泰昭、湯原満義、今西達徳、柿原久也、矢野登久男、佐々博雄・愛美、平野俊晴、藤本直、芦野純夫、浦本保典、江藤則幸、山内治樹、沼倉由美子、松永盛文、東ヒトミ、石淵博人、下村勝二、横道英、橋口廣則、吉安啓史、石井良照、津田豊、早田幹雄、江口克郎、栗崎泰爾、平川徹則、藤江義信、本田英一、松尾誠、三井隆、村上義幸、山田通夫、與縄英二、甲斐治、茶木俊明、真木直明、山本芳比古、吉松裕藏、井上隆夫、大嶋健一、小島哲夫、藤波好文②、伊藤俊昭、向坂裕夫、田中豊、中川昭夫、永田昭、上野倫義、江藤雅昭、児玉昭男、武原春香、佐藤俊男、森健治、山内陽太郎、池田久利、岩本幸次、大塚恵一、菅野幸裕、上村千恵子 昭43 江口正明、岡島伸平②、堀邦夫、上村一男、黒島原契子、藤井勝公、藤本良介、前田和幸②、江崎恵政、川野康宣、堤博美②、中村和道、本田良一、毎熊敬一、穴倉涉、森田明、渡辺啓介、坂口憲治、杉田裕、高木直範、齊藤隆、芹川

済々黌同窓会 令和7年度決算及び令和8年度予算

※下記の収支決算書・予算書は、「幹事会」、「代表評議員会」および5月21日開催の「総会」において、事業報告・事業計画と共に審議され、承認されました。

令和7年度 一般会計 決算			令和8年度 一般会計 予算		
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)			(令和8年4月1日～令和9年3月31日)		
◇収入の部			◇収入の部		
(単位:円)			(単位:円)		
科目	補助科目	決算額	科目	補助科目	決算額
入会金		1,248,000	入会金		1,242,000
年会費収入		8,764,000	年会費収入		9,000,000
寄付金収入		1,110,000	寄付金収入		1,000,000
雑収入		18,150	雑収入		12,000
利息収入		24,213	利息収入		11,000
事業収入	多士講座賛助金	0	事業収入	多士講座広告賛助金	0
	ホームページ賛助金	700,000		ホームページ賛助金	750,000
	会報広告賛助金	3,700,000		会報広告賛助金	3,700,000
	事業収入計	4,400,000		事業収入計	4,450,000
総収入計 (A)		15,564,363	総収入計 (A)		15,715,000

◇支出の部		
科目	補助科目	決算額
事業費	会報作成 (印刷費)	2,022,200
	会報作成 (発送費)	2,913,617
	会報作成 (取材費)	49,246
	会報広告	106,240
	HP 管理	60,000
	青年会	151,484
	母費支援	0
	多士講座・げたばき塾	0
	事業委員会備品費	0
	史料保存アーカイブ	100,500
	計	5,583,287
	大同窓会助成費	300,000
助成費	應援同好会助成費	100,000
	卒業証書用丸筒	351,076
	済々黌進学関連助成金	1,084,109
	記念同窓会	100,000
	計	1,935,185
	広報費	41,800
事務局事業費	会議等使用料等	106,130
	計	147,930
事務局業務費	印刷コピー費	4,560
	通信費	77,269
	支払手数料	468,567
	消耗品費	39,710
	慶弔費	168,250
	旅費交通費	246,176
	HP レンタルサーバー料	31,240
	雑費	49,430
	計	1,085,202
	業務委託費	2,500,000
記念事業積立金		0
多士会館寄付		2,500,000
予備費		0
引当金繰入①		1,910,000
引当金繰入②		△ 97,241
総支出計 (B)		15,564,363
収支差額 (A) - (B) = (C)		0

※ 1：HP 運用金＝ホームページ賛助金
就学助成金＝済々黌進学関連助成金(就学助成未執行分) 進學奨学金＝寄附金収入(進學奨学金指定分)
※ 2：事業準備金＝超過支出の補填分 97,241 円
※詳細をお尋ねになりたい方は、事務局 (096-345-3002) までお問合せください。

広告募集のご案内



賛助金：5万円（1枠）で、済々黌の同窓生「約25,000名」に向けた広告・告知ができます。賛助金は、会報制作や母費支援などに活用させていただきます。ぜひ、広告PRとともに、本会へのご賛助としてご協力をお願いします。(法人・団体・個人問いません。学年PRもOK)

会報広告申し込み
1枠：50,000円（次年度掲載）

ホームページバナー広告申し込み
1年間：50,000円（随時掲載）



29	29	29	29	29	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27	27	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	23	22	22	21	21	20	20	20	19	19	18	18	17	16	15	15	13				
鳥飼	足立	水野	益田	片岡	中島	瀬崎	東尾	佐藤	吉田	村上	福岡	西野	鯨島	鈴木	井澤	岩本	坂本	山下	米良	松崎	岩越	西村	古村	青田	弓削	松村	近野	多賀	飯田	池田	梅澤	齋藤	大島	清水	松田	宇野	坂口	坂口	橋本	高杉	森山	高杉	森山	高杉	森山	高杉	森山			
晋	博	喜	龍	龍	武	英	勇	公	和	鐵	健	正	嘉	嘉	俊	義	威	千	芳	恒	彪	一	孝	茂	淳	健	恒	昭	公	安	龍	三	文	威	素	昭	喜	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	謙	
R	H	H	R	R	R	R	H	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	
7	29	8	7	6	6	5	23	2	5	5	27	7	7	7	3	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
4	10	5	2	8	11	10	10	11	7	12	8	5	5	11	7	8	12	4	1	12	7	8	3	10	11	8	8	8	10	6	11	10	3	2	5	2	7	11	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16	15	22	3	29	25	9	1	16	18	10	31	13	5	7	4	24	4	10	16	26	28	8	30	1	28	23	21	11	13	8	1	14	1	6	1	12	4	24	16	12	26	7	4	1	2	5	10	16		

[illegible]

木松島川山田中津松本坂京内野山口前澤田志水岩下法花吉園國吉田清水佐西林井津田馬窪村上緒古古山下川上山吉河吉尾井內山伊塘櫻福本武濱谷口
木松島川山田中津松本坂京内野山口前澤田志水岩下法花吉園國吉田清水佐西林井津田馬窪村上緒古古山下川上山吉河吉尾井內山伊塘櫻福本武濱谷口
木松島川山田中津松本坂京内野山口前澤田志水岩下法花吉園國吉田清水佐西林井津田馬窪村上緒古古山下川上山吉河吉尾井內山伊塘櫻福本武濱谷口
木松島川山田中津松本坂京内野山口前澤田志水岩下法花吉園國吉田清水佐西林井津田馬窪村上緒古古山下川上山吉河吉尾井內山伊塘櫻福本武濱谷口
木松島川山田中津松本坂京内野山口前澤田志水岩下法花吉園國吉田清水佐西林井津田馬窪村上緒古古山下川上山吉河吉尾井內山伊塘櫻福本武濱谷口

[illegible][illegible]

松本 中西 松村 小島 磯田 高見 久保 熊鈴 鈴木 多岐 本比 堀川 安井 東谷 竹中 田尾 尾崎 赤嶺 藏本 岩下 山内 川尻 川村 猿渡 森岡 松登 甲斐原 藤森 大塚 柚木 黒岩 近藤 佐藤 和松 永井 尾崎 笹田 丸高 山本 山下 北本 兼弘 小貴 山内 中村 今村 鶴田 中野 米満 前田 吉野

[illegible]

12	7	30	3	7	5	7	7	6	8	7	6	6	6	5	7	8	8	2	8	7	6	6	6	7	5	7	6	7	7	7	7	7	7	8	7	8	6	7	7	5	7	6	7	8	8			
7	7	10		1	12	6	10		1	4	12	5	5	7	3	3	2	5	9	8	12	5	12	5	6			12	10	6	8	11	2	7	6	11	5	1	8	4	3	12	7	6	14	19	30	19
16	8	23		26	20	19	9		1	15	28	30	11	1	2	5		8	25	26	29	5	28	12	7			25	10	31	3	7		1	27	5	2	13	19		26	17	6	14	19	30	19	

おくやみ 謹んでおくやみ申し上げます。

(R8年5/29現在)



この松永3佐のサイン入りフルーインパ
ルス写真、多士会館1F奥に飾っていた
いでいるので、多士会館にお越しの際
はぜひご覧いただければ幸いです。

4月13日、午前中の済々豊での講演会を終え、多士会館にも来てくださった松永大誠3等空佐（H23）にサインをお願いした。快く、さらさらと軽やかに、彼のTACネームである“SPOCK”というサインを寄贈したのもう一枚に入れていただいた。このもう一枚は我が家に大事に飾ってある。

**ブルーインパルスの表紙写真と
松永3佐の多士会館訪問**

令和8年4月11日、子飼橋際の河川敷で青空を見上げていると、南東の低空からブルーインパルスが轟音と共にやってきた。初めての航空ショー撮影。まったく勝手がわからない中で600ミの超望遠を振り回し、ひどい収率ががらんとか100枚弱、人にお見せ出来そうな写真が撮れた。そのうちの1枚が今号の表紙に採用され、また、自分なりに気に入ったものをA1ポスターサイズに大伸ばしして多士会館に寄贈した。

ブルーインパルス表紙写真と

松永3佐の多士会館訪問

▼「ん、今回の会報は文字が多い」。校正を

【広報作成プロジェクトメンバー】

リーダー 上野功一朗（S 61）

メンバー 鷺頭英司（S 41）、猪猡 郎（S 49）

島田節子（S 49）、小川勝彦（S 49）、倉澤隆子（S 51）

楠田節子（S 52）、新井和也（S 53）、吉田光一郎（H 3）

上西川原千晶（H 4）、和泉伸之介（H 14）、

富永結貴（H 16）、澤村宗輝（R 6）

【特別協力】 田上賢祐（S 49）

【広報委員会】

委員長 大田黒浩一（S 51）

副委員長 益田照久（S 55）、甲斐智和（H 6）

委員 河野祐生（H 18）、片岡孝文（H 18）

【同窓会役員】

諸熊建次（S 44・会長）、中村俊雄（S 44・副会長）

長谷川佳代子（S 49・副会長）、今井政文（S 49・幹事長）

野田研一（S 50・副幹事長）、岡本一隆（S 52・副幹事長）

【同窓会事務局】 本芳幸（S 50・事務局長）、喜多奈美

会報作成PTメンバーの伝えたい、という思いの強さ。ということで、内容によって関心の度合いも様々おありだろうが、ぜひ最後までお読みいただきたい

【読者アンケート】
ぜひ感想をお寄せください。



◆◆◆編集後記◆◆◆

▼「んー、今回の会報は文字が多い」。校正をしなながら、会報作成PTメンバーはみな、そう思った。ということは、同窓生読者の皆さんも同じ感想を持たれたか。昨年末から、月に2回のペースで編集会議をしてきた。スタートは企画を持ち寄ることから。それから徐々に内容を固めていくのだが、回を重ねる度に企画が膨らんでいく。例年そうだが、今号では特に文章を削る作業に手間取った。3分の1、4分の1にした記事もある。どの記事も母費、同窓生に関することばかり。文字の多さは

土子、出井健一郎、櫻純、小牧哲、田中一郎、大古佳子、西洋史、藤澤ひとし、日置和統②、桶田俊光、山添直俊、高瀬直善、竹内勝行、境晴信、粟田民夫、益森芳孝、江藤誠夫、熊元啓人、潮田憲正、山本哲朗
第44 崎嶇一盛、可児明博、杉野裕志、角居恭一、諸熊建次②、和田晴夫、笠田紳一、河村邦比呂、林紀実、森孝男、東敏哉、松枝敬郎、小原重明②、河野達朗、田中康敬、安藤慎一、潮川紀代美、後藤久子、永村一幸、三井誠、宮之尾啓一、山下公一、岩下知生、上田幸穂、小糸伸、村田寿芳、赤星慶治、森山洋明、西島喜喜、西村明博、平野喜代、福永誠規、森川和憲、辻比郎、橋口治郎、若杉雅一、緒方啓子、木永博樹、谷信雄①、竹下正一、川口雄三、中村俊雄、牧野照高、宮本誠、
第45 今村新一、田中良典、井川正二、高木省三、熊本完一、古庄敬美、龍頭保夫、谷川誠二、堀川幸子、森久夫、中原文正、柳村眞②、野田和子、北村幸雄、佐伯公範、津野田昌平、岡端正滿、片山公則、佐久間岡、川口真紀子、金澤誠昌、中島勝弘、山口文則、松田誠明、松本正俊、矢野智彦、横手敬典、井上雅敏、木原和生、兒玉睦雄、高木清一、武石富士雄、萩野寛寛、平田大、渡邊謙治 **第46** 白濱清、津留留伴一、松蔭友一、内田日出、坂元京子、橋本幸幸、田中美典、西府裕一、松浦徳子、峰谷南、松澤博、上田由美、和田賢二、藤永玲子、川口龍男③、市原浩、藤本弘視、馬原浩、伊藤達彦、清嶋三三、佐藤辰男、嶋村達雄、田島朋直②、緒方由紀、古島幹雄、横井みよ子、井速雄、鍛田和實②、吉田二、三村光利、小室三男、坂田信介、銀本弘明、富田辰男⑤、西山庸二、布田信、宮崎繁②、阪本秋秋、中尾隆司、中川龍一郎、中原勝彦、出来田悌吾、松本壯雄、宮崎文樹、大賀秀敏、太田守、堅島寛一、小堀恭裕、西村敬司、山下猛 **第47** 木下龍起、佐藤謙二、武成恭子、田中穗晴④、西谷孝志、藤本謙太郎、赤星一和、泉伸郎、今池公一、名和直子、山崎雄治、加来三津雄、久米廣幸、竹格比治、村上利恵子、久佐實博、久藤了、久保田眞理子、山口健一、木原千雄、清田康之、斉藤寛、高木聡廣、安波小光子、光永憲司、中村洋一②、諸島俊明、井川隆明、石田泰紀、加藤秀武②、高田隆治②、久野玄治郎、森正雄、山村清二、小村和夫、潮崎智子、川崎隆夫、堀増博、堀江正一、松岡修司、荒武祐介、江浦正郎、太田惠一郎、末廣高明、高山雄二、外園誠、中山正純、林田信、小寺敬二、安部賢、田村英滿、有働淳一郎、大隈憲二、古き一敏、島田政博、有田司郎、多々善郎、松下俊一、横田誠一②
第48 興紀聖二、前田哲一、斉藤謙三、中島智恵三、三浦水一、久木田憲司、齋藤正昭②、水野豊、宮本幸三、毛利浩一、斉藤一誠、岡田征次、園村良一、木刈省蔵、西山朋宏、米村宏之、古閑啓弘、杉山幸宏、檜垣郁江、加藤昌子、羽多野俊光、緒方和則、川善俊明、船越和美、松本有子、武藤民、上野洋、木村和久、別当公一③、曲椎信之、安武秀勝②、杉杉生、清水義臣、白石正治、三子由紀夫、荒木朋洋、金子篤志②、川原洋一、北里雄二、永廣久雄、吉永慎一、椎葉辰夫、松本英二、林田清一、松田邦宏、松村春記、宮川慶一、山下一歩 **第49** 田尻廣和、丸山稔、田上賢治、伊藤宗正、原賀雅子、古庄信、丸本文紀②、山下一義、山口勝彦、戸上貴雄、中村里、松山泰典、荒瀬健夫、今井政文、若永宣治、桑原茂、永沼清一、飯綱秀明、厚賀啓生、大塚二郎、岡原秀昭②、久我彰彦、典英郎、長谷川佳代子、山口重三、小山己美子、久木山清貴、中村信、久木山厚子、山澤理恵子、横尾雅生、猪俣一②、緒方健一、角岡佳治、坂田淳一、島田淳一、平上敏郎、岩下利幸、須藤博之、津留彦彦、松尾英昭②、池上敏朗、泉英和、津田伸一、坂本吾香、篠原守継、松田亨、松藤誠郎、西野一郎、水谷邦保、山田隆典 **第50** 小西輝一、小西優一、清水裕美、豊田忠子、高橋智子、小川稷、濱崎真有美、木村道裕、湯原賀郎、内村直子、田浦眞光、上村妙美、泉星洋一、緒方吉喜、小田正二、河野景治、松雅雅博、荒田哲也②、浦上裕正、竹俊夫、行徳了一②、小宮隆、高田正明、中西信雄、野口和紀、松野政志、安岡幹雄、岡田恭代、佐伯謙介、福岡洋子、平岡政宏、星子尚美、石本恭子、田代正雄、鶴川敏郎、本田典利、山口孝子、石本恭子、永田邦規、森山直弘、池田伸一②、置田誠、藤岡昭一郎、本芳幸②、渡邊郁修、赤嶺文樹、江島和郎、河瀬清久、杉野茂一、田嶋徹、野田研一 **第51** 谷永秀次、佐友佐和子②、横千代美、丸本吉紀②、高濱左衛子、鈴木美子、蓮田孝子、平野昭三、倉澤隆子、塚本富男、上野京子、黒木成子、橋本雅彦、大田幾子、伊東一松、松永三、三原治、柳田誠喜、志高京助、大祐祐二②、内田大和、北野司朗、塩澤年行、茂永勝彦、原元秀樹、吉弘誠、川口芳弘、輝田こずえ、八木誠、阿部俊次郎、竹本ひとみ、木原真

山口秀雄、森田悦雄②、吉田啓一、上城弘幸、小櫻修、中野哲也、野田裕三、松枝泰生、木戸知幸、坂本龍成、野澤宏文、横尾祐祐、吉岡健一、吉ヶ江隆廣、大田黒浩一、岡岡昌昌②、橋本吉弘、巻俊光 昭52 甲斐美博、片岡秀司、木村彰男、佐藤修一、松本康二、上野恵子、片白令子、川上裕子、坂口義彰、村中嘉宏、黒田典亮、城間昌子、村松弘美、今村安孝、龍田文二、北原政典、木村真一、木庭夫一、成尾雅貴、野口健一郎、井上由紀夫、三隅清孝、榎木信三、山藤博喜、坂口止子、茶木谷安信、三貫山賢正、深谷薫、中園育一郎、古城戸柏香、藤本正博、山口深恵、大嶋浩正、岡本隆一、荒木博、有働芳夫、熊谷達朗、東博文、藤田一郎、向田敬二、鍬水健一、木村誠一、辻健二郎、中村五子、荒尾淳、伊藤明彦、大川正晃、尾良良晋、小井智博、松本松芳、高柴保信、下村彰、立山由喜、塚本亮也 昭53 坂口洋一、前田、宮崎浩子、高下由喜子、塚山義章、宮本研司、徳永仁郎、渡辺美也、井上尚志、篠原代紀、鳥生博、中本明男、郷原友和、小松暢洋司、竹内信也、山神明、野口伸三、福田浩一、船津雅宏、飯田裕、興根正己、柴垣浩二、宮文寛、合志和、前田明子、安永昌史、浦田英彦、渡邊達子、原輝智、片白雅志、七井洋二、福田弘明、上村哲也、大西弘弘、緒方久幸、新谷和也、外海卓二、中島誠也、石川正彦、佐野俊郎、宮本和明 昭54 前田妙子、谷口喜園、宮崎眞樹子、久我千幸、松元早苗、山内勝志、古閑清貴、茶木谷吉信、長谷富美、長谷信夫⑥、尾本裕昭、有田裕輔、久我真功、佐藤美大、若谷志哉、藤岡政浩、坂梨祐司、松本洋志、山神明明、上妻英隆、鎌田浩造、川口政嗣、小坂直子、勝本隆昌、木下裕俊、内崎由一、木村茂、笹岡野子、前田浩治、松川浩一 昭55 津曲千鶴、緒方則嘉、高田富美、富嶋泰史、藤本恵祐、緒方一雄、北里真一④、山幸英樹、木野康子、石田貴子、西一之、生嶋順理、吉住あおい、大園隆明、川口理一郎、西雅子、高橋利郎、益田照久、白伸一、武石敏章、西村和浩、藤瀬修治、若田智子、佛田洋、宮宮敬平、中原正浩、上原浩志、甲斐智章、菅田雅二、谷口卓二、鶴田佳幸②、村上義幸、河野広光、鮎川浩二、宮田高、平山代助、矢野宏 昭56 前田茂雄、伊東昌子、若谷啓二、北由佳生、嶋北博史、野澤肇、井本幸一、川原昭雄、境一郎、副田正一、村上博一、矢鍋博義、坂田輝久④、山之内 昭57 北野謙司、中村雅雄、眞藤隆成、酒匂士郎、岡知佐、原山明雄、土井善哉、石本尚志、川崎章子、川口英津子、小島和幸、前原健②、田博文、平田正昭、本田英一郎、上原誠治、柴田弘之、馬場博史、山之口宏 昭58 原浩治、福山龍太郎、岡本孝弘、片桐英夫、中村伸、石垣敏郎、倉岡征宏、岡田節子、森山義子④、栗林香織、丸山久美子、西本寛、池田賀一、梨梨昭弘、若永一宏、上灘昇、立山智子、川口和明、堀田美、松本和也、松本俊、牛嶋栄一、友田桂子、亀井敏子、中津健之、藤田博、増木大、藤田裕子、池澤謙、木下澄仁、酒井秀徳、西岡賢太郎、田中美佐子、矢野敬史、安部浩治、内竹浩二 昭59 坂本大二、幸山政史、藤川文明、宮田房之、宮原佳子、村上昌美、河野光義、若下順二、片岡加陽子、石井朋子、金子礼子、渋谷奈美、末吉健一、吹田道代、峯谷貴明、竹下理子、藤本健弘、内間輝久④、上野素成、緒方誠司、富永陽一、中修二 昭60 鹿野俊一、富永哲弘⑩、石村久恵、南真佐子、浦中ゆり子、野村公博、蘭川弘美、笠聡一郎、北里佳寿子、下崎和、牧圭一、松本圭司、米田高章、堀川正三、前出洋、山崎方之、小山英文、賀来万由美、高須尚美 昭61 大島和美、杉本采也、杉山修、鶴村和道、甘田昭也、中村亘志、古里祐章、浅井勇介、坂本晶子、城内春美、木村俊介、川端貴美可、楠本士朗、山崎啓之、和泉宏光、上野功一郎、本田嘉喜、牧野英典、八角徳保、若木直、原田荣作、星田真吾 昭62 河瀬敬、松田健二、米満孝、村上裕美、山口直子、岩村みさ、田中孝和、藤珠江、坂井裕成、坂野定則、田沼理江、西繁、萩潮浩一、村英治、野島洋治、馬場昭治、甲木和世②、木場達美、東郷寿平、松永真弓、羽隅薫、古江義雄、村岡真雄、岩崎主祐、海津泰夫、野口邦広 昭63 川川菜、藤本猪眞司、本田洋一、吉田一治、吉村昌隆②、木原麻、山田真由美、松村和也、堀尾多聞、本田田美、西英典、春木克己、赤塚雅也、甲斐大重、田上邦博、平田直島美、原惠法、森田耕、吉田二治、片山美和、一二三真由美、金谷鈴子、古村香織、栗原洋美、阿向泰二、石崎淳一、清田雅智、阿向尋子、浅香英夫、岩本健、古市真木雄 平2 松原郁、平鳥将生、山浦拓也、野口武彦、永村哲宏、山村健太郎、小川佳宜 平3 清田裕敏、横山晶美、三輪和章、高比良光洋、荒川慎太郎、堤祐成、本松琢磨、二本松智子、山本美早生、石原真理子、永谷隆幸、

高木を、金光寺陽子、高橋静一郎、米川健一、高木
 保澄、渡邊千鶴等、都可祥、中村一郎、佐伯薫、高宗
 暢暢、田中忠宏、森康成、吉田裕子、渡邊直人、上
 野秀、坂田富裕、江崎寛子、早川浩三、井上清隆、
 田中典美、西島隆徳、岡本久夫、水村晶範、瑞穂賢治、森
 一博 平 4 高宮彦兵、林智貴、高濱安徳、永村裕子
 宮崎拓郎、今福弘仁彦、渡邊久美子、土井恵子、盛高
 明子、吉原勇二、武本英博、永野由紀、村山鉄次、服部
 秀亮、佐藤隆子、桂佳樹、山内真雄、吉田貴治、松
 尾隆 平 5 田嶋知幸、福島一章、田端あい、遠山啓、
 廣瀬美穂、波多志宏、金子昌裕、緒方香織、久保謙一
 福永千穂、山口幸恵、田村夕起子、古川真由美、宮田
 一、坂井貴 平 6 甲斐智和、塚本康彦、塚本雪雪
 長尾瑞穂、上野尚文、牛嶋健一、森真之、池嶋晃
 本田亮太、荒木康祐、濱田綾一郎、池永敬恵、石橋治
 盛田保文、古賀朋代 平 7 田村健正、隈田辰彦、坂本
 友一、東健一郎、山村弥太郎、菊澤由香、園田沙織、
 坂井俊太郎、大塚智博、下田祐樹、村上久子、甲斐泰樹、
 久光陽子、森永博徳、東田大介、江藤雅哉、平原信
 幸幸子、田上安子、本田智子、宮原邦友 平 8 藤井
 美奈子、松村龍夫、角谷佳代、城下和歌、岡岡栄徳、
 志賀弘剛、西博士、福井謙、伊瀬知誠、大森恵太、藤
 井順、荒川綱子、尾方智幸、千葉恵子、内田昭博、城
 後俊輔、米川景子、丹伊恒、本田郁之、大塚一平、
 塘田健次郎 平 9 白河淑郎、杉町真里子、白河朝祥子、
 坂本聡子、矢野貴裕、村上功時、平井京子、林誠、下
 田雅臣、近藤俊徳、塚本雅代、松本剛毅、岡本有紀子、
 野口裕美、前田智徳 平 10 斎藤信雄、村上七美、河
 島康之、園田浩貴、村山雅則、米満文、澤田英祐、杉
 島紘大、平光拓光、高野大樹、梅野智子、山崎詩乃、
 村上秀一郎、田中洋平 平 11 戸尻沙、上床明香、川
 上聖司、福田隆雄、平正太、大嶋寛之、林田匠史、藤
 本昌史、瀧留明美、新納鉄平、春岡辰典、上野景太、
 萩原英一、春野克仁、桝田秀和 平 12 永田将士、南
 孝徳、境健次郎、泗水康大、森本有紀、工藤豊、田中
 慎太郎、西山大輔、益田幸 平 13 古賀智貴、奥畑太郎、
 坂田比呂志、松谷隆介 平 14 平川幸一、北野伸治、
 坂本貴子、古池孝志、橋爪智孝、金枝舞 平 15 山崎
 拓哉、森谷健二、高田美里、中島正淳、荒木大、南部幸
 平、田川作、森祐志、馬原裕紀 平 16 渡邊景輔、田尾優
 高木春奈、秋嶋友子、藤本仁孝、村上英明、若根賢幸、
 富永結貴 平 17 関寛一、伊藤温美、中野哲夫、綱脇
 智智 平 18 小谷雅司、柳瀬美和、永野貴美子、金子星
 上松宏介、緒方雄一 平 19 兒玉又一、坂田光、浦
 光一郎、宮本大樹、竹内晋輝、野田ありさ、福岡智哉、
 森永幹太、中島貴文、中村真吾 平 20 竹下博貴、松
 枝幹久、秋吉里香、添島康久、高宗典玄 平 21 松元
 友美、福岡祐輝、緒方健太、石崎香成、恵口泰 平
 22 池田大志、茶本みちる、近浦祐光 平 23 小池
 俊介、益田大也、庄司聖一、古庄祐太 平 25 日野遼、
 福岡弘也、山本貴弘、米満光平 平 26 崎山美月、北
 川翔也、山下賢士 平 27 松本倫旺、遠坂未紗 平
 28 米満はるの、池澤美、若尾百奈美、松本奈未、土
 野佐和子、寺田尚平、若杉見太郎 平 29 隈部明日花
 堀尾瞳子、久原正、河津咲穂、久保真樹 平 30 吉井
 隆裕、中内悠仁、平 31 上田将弘、藤野渡平、鶴田晴、
 中村嘉孝、岸亮太郎、益田昌仁、福田真由、境彬虎
 令 2 佐藤隆、藤川大樹、井手悠介、伊藤照太、入仁徳
 令 3 荒牧泰斗、豊田悠介、元中遼之、佐伯和郎、
 赤池雅二、西岡祐輔、村端昌恵、松下優花、田中未結、
 福見孝太、横山遼、山下凜華、市原寛亮、池澤穰、鎌田
 ひかり 令 4 川端夏帆、馬場円花、三浦健太郎、中山
 翔奈子、坂本真麻、田中來太、永野恵 令 6 松本一、
 木脇真優、坂田中海、山下真大、松尾歩、村上大和、
 根原原久、東杏楓、穴見斗輝、伊藤悠太、中村元紀、
 中元康介、田尻茂、山内秀朗、奥田菜央、木下裕太、
 小濱怜佳、小柳諒真、山下颯斗 令 7 金谷優花、小車
 悠歌、土野ちよる、緒方俊介、日野なな子、平山心優、
 本多藍子、久雅雅、勝田泰生、久川愛菜、山口香彩、
 若下奈央、木庭真弓、白河紗奈、上田陽鞠、坂本元氣、
 原井麻生、貝川七美、荒井祐輔、村島輝 友会 小島悠太
 井手直房、山室文恵、瀬田幸三、大槻美咲、松本瑠治、
 米岡愛一、宮川喬好、西川二千六、仲摩洋一、堺美智代、
 田上美久、原口吉子、今里明、仲田なおみ、森田
 勢津、高木健次、高木はるみ、松村秀逸、三枝子、
 手嶋宏、岩崎光、高藤利光、田博治、松本博昭、野
 方義弘 地区同窓会 北九州同窓会 2 事務局 喜多奈美

○数字は口数です。「ご寄付をいただいた方々」は別途掲載しています。








水処理・環境衛生・保健福祉の総合商社
株式会社 尼崎薬品

お客様に支えられ60年。
水処理用薬品とAEDはお任せ下さい！

取締役 谷山陽祐 H21卒

AED販売
4,000台突破

☎ 千860-0833 熊本市中央区平成3-13-18
☎ 096-370-0150



株式会社 大 晶

代表取締役 星山 昌岐 (平成6年卒)

■解体工事 ■バイオマス発電 ■廃棄物のリサイクル

〒861-1116 熊本県合志市福原 3122-10
TEL(096)248-7300 FAX(096)248-7525
E-mail hoshiyama@dai-shou.com
携帯 :090-4346-1323




代表取締役

坂 部 龍 也 (平成6年卒)

私たちの思い それは **全てのお客様の味方となり見方をかえることです**

株式会社のみかたホールディングス

〒861-4106 熊本県南区南高江6丁目3番28号
TEL 090-7389-1269
mail: sakabe.tatsuya@nomikatahd.com




現場応援団長

大津中村整形外科

外来・入院病棟 CT・MRI 検査装置 リハビリ・手術室

●ひざ・股関節・脊椎外科

●スポーツ外傷 -予約優先-

【名誉院長：中村孝文】【院長：石井一誠】
(平成6年卒)

☎096-293-8888





代表取締役 佐藤 俊輔 (平成7年卒)

株式会社バオプラン熊本 〒862-0913 熊本県東区尾ノ上1-18-9
Tel.096-381-8181 Fax.096-381-8190 bauplan-kumamoto.co.jp



【ホームページ】

●正直な不動産エージェント●

熊本ぱんだ不動産

代表取締役 社長 村上 功時 (平成9年卒)






科学を通して幸せな未来を実現する

株式会社 同仁グローカル

代表取締役 上野景太 (H11年卒)

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原2081-25
TEL : 096-286-1311 FAX : 096-286-1312





各種受託分析承ります。

Instagram



白内障手術・ICL手術専門

眼科こがクリニック

完全予約制

熊本市中央区八王寺町40-5

TEL 096-377-1701





株式会社 古木常七商店

阿蘇レミコン 株式会社

代表取締役社長 古木 善三 (平成6年卒)

(株)古木常七商店 〒862-0959 熊本市中央区白山1丁目10-11
TEL(096)366-3281 FAX(096)371-8654
携帯 :090-2541-5186 zenzo@furuki7.co.jp

阿蘇レミコン(株) 〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水 905
TEL(0967)35-0326 FAX(0967)35-1639




弁護士法人 東法律事務所

LEGAL PROFESSIONAL CORPORATION HIGASHI LAW OFFICE



弁護士 東 健一郎 (平7年卒)

Kenichiro Higashi

〒860-0845 熊本市中央区上通町6-15 オークス第2ビル2F
tel.096-227-6677 fax.096-227-6688
ken@higashi-law.jp



代表社員 / 所長 前田 智徳 (平成9年卒)

〒860-0074 熊本市西区出町4番30号
TEL : 096-295-1000
MAIL : t.maeda@sotto.tech

『May the “Sankoryo” be with you ! 』



SINCE 1921 石の世界

株式会社 江副石材工業

代表取締役社長 江副 弘幸 (平成9年卒)

本社「石の世界」竜田展示場
〒861-8006 熊本県北区龍田2丁目19番31号 (三の宮 旧57号線沿)
TEL:096-338-8684 (代) FAX : 096-338-8749





ARAKI KENSO



E-mail▶ a-kensou@iwa.bbq.jp

平成12年卒 ポート部 荒木大助

096-344-5172

(有)荒木建装

建築塗装工事・防水工事 / 熊本県知事許可第9935号
〒860-0084 熊本市北区山室 4-6-1



(株) 林田直樹建築デザイン事務所
(H15年卒)



※写真は施工例です。

建築物一般の設計・工事監理一式を承ります
熊本県熊本市南区奥古閑町1747-2
TEL : 096-342-6024 / FAX : 096-342-6025
MAIL : naoki@nh-hayashida.com / WEB : www.ne-hayashida.ocm

kumamoto×kanakoの季節香るお菓子屋さん

DOBLE K(ダブルカー)

〒862-0924 熊本県熊本市中央区帯山1丁目31-20
営業時間/9:00～18:00
定休日/火曜、水曜(祝日の場合は営業)
臨時休業あり。
お電話、Instagramにて店休日をご案内しております。
TEL:096-221-1697

平成16年卒 馬場 加奈子



母校並びに同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

済々黌平成17年卒一同



令和8年 創立144周年 済々黌大同窓会「栄譽の架橋」を終えて

全国・県内外からご参加いただいた皆さまのおかげをもちまして、創立144周年 済々黌大同窓会「栄譽の架橋」を無事開催することができました。

今年は「世代をつなぐ架け橋」をテーマに、先輩・後輩・同級生が一堂に会し、“一年に一度、済々黌生に戻る日”として、温かな再会と交流の場を築くことができました。

また、多くの皆さまのご協力により、若い世代の参加や新たな交流も広がり、改めて済々黌同窓会の力と繋がりの深さを実感しております。

この一年で築かれた「栄譽の架橋」を、平成18年卒の皆さまへ繋いでまいります。なお、来年令和9年(2027年)の大同窓会は、下記の日程・会場にて開催予定です。来年もまた、多くの皆さまとお会いできますことを心より楽しみにしております。

来年令和9年(2027年)大同窓会 2027年5月29日(土) 熊本ホテルキャッスル テーマ：済済愛



ライオンズクラブ国際協会337-E地区

熊本黄壁城ライオンズクラブ

済々黌卒業生だけで結成されたライオンズクラブです

会 長 河野 祐生 (H18卒)

事務局 080-1316-0992 (片岡 H18年卒)
<http://www.ouhekijyo.com/>
Email : ouhekijyo.lc@gmail.com



HIFUMI PET CLINIC

ー二三ペットクリニック

院長 添島 康介 (平成20年卒)

KOSUKE SOEJIMA

TEL 096-206-1765
MAIL k.soejima0622@gmail.com
〒861-8019 熊本県熊本市東区下南部3丁目12-9




HP Instagram



HEISEI COLLEGE OF MUSIC
平成音楽大学

理事長 学 長 出田 雄人 (平成19年卒)
YUTO IDETA

演奏のご依頼受け付けております。
お気軽にお問い合わせください。

学校法人御船学園 平成音楽大学
TEL 096-282-0506 MAIL perform@heisei-music.ac.jp



Tax Account TH Office

竹下博貴税理士事務所

竹下 博貴
HIROKI TAKESHITA
(平成20年卒)

〒862-0954 熊本市中央区神水2丁目13番34号
竹下ビル4F
TEL: 096-385-0202



キモノや帯、長襦袢や和装小物の
お求めやお手入れは

下通アーケード1番街 **ぎん せん**
の 銀 深

詳しくはWebサイトでも
お知らせしております

代表取締役 河野景治 (昭和50年卒)
熊本市中央区下通1丁目3番7号 電話(096)354-6000

済々黌D51会

令和8年11月14日(土)
卒業50周年D51会
同窓会を開催します。

D51会会長 大田黒 浩一

株式会社 通宝

代表取締役 塚田 一成 (昭和53年卒)

〒862-0946
熊本県熊本市東区画図町所島1100番
Tel 096-370-0066 Fax 096-370-2552
http://www.tuhonori.co.jp/
https://www.478124.com/

通宝海苔HP のり通HP

多士済々

母黌の益々のご発展を祈ります

ダスキン熊本 会長 甲斐紳一郎 (S53年卒)
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-10-21 TEL 096-384-1331

医療法人 木星会 **山鹿温泉**
リハビリテーション病院

【診療科目】
リハビリテーション科、内科、放射線科、消化器外科、消化器内科

理事長 田代 桂一 (昭和55年卒)

〒861-0514 熊本県山鹿市新町1204
TEL 0968-43-4151 FAX 0968-43-4153
Homepage http://www.yamaga-reha.jp

普通免許入校者数 **51年連続 No.1**
熊本県指定自動車教習所協会の統計より

Enjoy! Rule & Manner
テラバル自動車学校

清々堂 熱烈歓迎! 社長 片桐英夫 (済々黌S58卒)

(有) 行徳パン

(S50年卒) 行徳 了一 (応援団)

〒862-0975 熊本市中央区新屋敷3丁目1の28
TEL:364-0562

株式会社 サンコーライフサポート 代表取締役 橋本 一郎 (S52年卒)

【本社】〒861-1102 熊本県合志市須屋250-1
TEL ▶ 096-348-0039 FAX ▶ 096-348-0031 URL ▶ https://sankolife.co.jp

通所型サービスA / 通所介護事業所
サービス付き高齢者向け住宅
スリースマイル秋桜

居住支援協議会
居住支援法人として住まい・住まいの方
の総合支援を実施
一社) 合志市居住支援協議会

住宅型有料老人ホーム
訪問介護事業所
元氣な家 ひまわり

合志市の森小児童 ぞうさんクラブ
就労継続支援A型事業所 YORISOI
三幸居宅介護支援事業所

仕事と育児の両立を目指す
「企業主導型保育園」
ぞうさんのほな保育園

■ 高齢者施設所在地 合志市・福岡市早良区・宇土市 ■ 宅地建物取引業 熊本県知事(1)第5633号

ishizaka 有価物回収協業組合 石坂グループ

家庭ごみ・事業ごみの回収 / 鉄くず・古紙の買取 / リサイクル品の販売

LINEでかんたん! お見積もり

石坂グループに全ておまかせください!

伊藤敦子 (S53年卒)
石坂広徳 (H元年卒)

〒861-8031 熊本県熊本市東区戸島町2874 Fax: 096-389-5502

MRA Holdings 代表取締役 会長 岩間 浩憲 (昭和54年卒)

〒860-0072 熊本市西区花園1丁目20-66
TEL 096-321-7808
FAX 096-277-1166
E-mail: m-tech@sea.plala.or.jp

M-TECH エムテック株式会社
空調・冷凍・電気設備
設計・施工・保全
菱設 株式会社
DAIWAREIKI

有限会社 **西口晴秀堂**

すこやか堂薬局・すこやか堂薬局みよし店・すこやか堂薬局江津店

代表取締役 西口賢太郎 (S58年卒)
薬剤師 西口 直子 (S62年卒)

健康と、ながいおつきあい

https://www.seishudo.co.jp/ 熊本市東区尾ノ上1-8-11
西口晴秀堂 検索 TEL.096-369-8448

西本会計事務所

税理士 西本 寛 (S58年卒)

〒862-0971 熊本市中央区大江4丁目19番76号
TEL 096-372-2309 FAX 096-362-3277

宮田総合法律事務所

弁護士 宮田 房之 (昭和59年卒)

MIYATA & PARTNERS
〒860-0017 熊本市中央区練兵町88-3
PHONE 096-312-1188・312-1189
FAX 096-312-1190
http://bengoshi.ecgo.jp/

株式会社 **福通工** CATV 設計施工 電気通信工事・電気工事
本社 / 長崎営業所 / 佐世保営業所

株式会社 **愛平** アミューズメント事業 **LOVE FLAT** 下通店 / 新市街店
飲食事業:「あたりや山鹿店」

〒8615502 熊本県熊本市北区大鳥居町618
代表取締役 福島 大典 昭和60年卒

宅建多士会は、下記の不動産に関わる専門家で構成しています。
信頼おける窓口として、皆様からのご相談に対応いたしますので、
お気軽にお声掛けください。

済々黌宅建多士会

第21代会長 中野 伸治 (S61年卒)
第一開発(株) TEL 096-345-8455

事務局 横溝 礼司 (平成元年卒)
(株)横溝開発 TEL 096-378-2808

【会員業種】
不動産業、建設業、建築設計事務所、土木コンサル業、住宅メーカー、解体業、不動産鑑定士、土地家屋調査士
弁護士、司法書士、税理士、社労士、保険業、福祉関連業、印刷業、自動車学校、衆院県市議、他

河津法律事務所

弁護士 河津 和明
弁護士 河津 典和 (H2年卒)
弁護士 土井 洋平
弁護士 永田 成真

〒860-0848 熊本市中央区南坪井町1番24号
TEL:096-325-0810 FAX:096-325-0817

心ひとつ 医療と福祉の融合 **医療法人社団 仁誠会**

理事長 田尻哲也 (平成2年卒)

田添 昇 仁誠会クリニック 大津 医師 (S.49年卒)
池崎信彦 仁誠会クリニック 黒髪 医師 (S.52年卒)
江田幸政 仁誠会クリニック 光の森 院長 (S.56年卒)
太田裕美子 仁誠会クリニック 黒髪 院長 (H.5年卒)
吉田美幸 仁誠会 理事 (S.51年卒)

TEL:096-360-7112 https://www.jinseikai.or.jp/

10年後も50年後も、「満足の続く」家づくり。

Heartful Design 平野設計室

住宅・店舗・アパート・介護施設等の新築工事とリフォーム工事

代表取締役 平野義登 (平成4年卒)

〒860-0833 熊本市中央区平成3丁目5-6
TEL:096-378-7091 Mail:hirano@j-hirano.co.jp

GOOD DESIGN 熊本の木の家 グッドデザイン賞22作品受賞

新産住拓株式会社
熊本市南区近見8丁目9-85 ☎0120・096・112

代表取締役社長 小山 英文 (昭和60年卒)

マルキン食品株式会社
本社 / 熊本市中央区世安町380

代表取締役社長 CFO 吉良 扶佐子 (S60年卒)

おかげさまで **創業111周年**
特設サイトはこちら!

元氣納豆 九州本仕込み

誉産業株式会社

代表取締役 米満 泰二 (S62年卒)

〒861-4114 熊本市南区野田3丁目9番19号
TEL 096-357-2167 FAX 096-357-2157
E-mail: yonemitsu@homare-kk.com

お気軽にご相談ください

弁護士法人 田中ひろし法律事務所

弁護士 田中 裕司 (平成2年卒)

熊本事務所 〒860-0047 熊本県熊本市西区春日5-6-5 田中スクエアビル2F
TEL.096-312-8868 FAX.096-312-8878

株式会社 タケモト

代表取締役社長 武本 英博 (平成4年卒)

学生服 / 事務服 / 作業服 / Tシャツ / トレーナー / 帽子
食品工場、病院、ホテル、飲食店などのビジネスユニフォーム

〒861-8035 熊本市東区御領2丁目14-18 TEL: (096) 389-2321 FAX: (096) 389-1108
http://www.takemoto-net.co.jp/

医療法人 一森会 **いちもり内科クリニック**
糖尿病内科

理事長・院長 一森 伸二 (平成5年卒)

医学博士
日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医
日本内科学会認定内科医

〒861-0132 熊本市北区植木町植木534 TEL 096-272-3333



蘇り、磨かれる。より豊かな街へ

会 長 **木村 賢治** (昭和40年卒)

鈴木 好美 (昭和55年卒)
永田 佳世 (平成14年卒)

株式会社 木村建設

一級建築士事務所 県知事 第1585号
建設業許可: 県知事 (特-4) 第648号
宅地建物取引業者 県知事 (2) 第5292号

本社 / 〒860-0863 熊本市中央区坪井6丁目17番15号 <http://www.kimura-c.co.jp/>
TEL (096) 344-3271 FAX (096) 344-3229



大宝堂

メガネと補聴器

おかげさまで 119 周年

これからも快適な「見える」「聴こえる」をお届けします。

取締役会長 布田 昭 (S40 年卒)
代表取締役社長 布田 善久 (H13 年卒)

上通本店 〒860-0845 熊本市中央区上通町 5-6 ☎096-354-2155



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

企画・設計・施工・メンテナンスでトータルサポート

 **株式会社 富坂建設**

QRコード

コンクリート住宅のMOLS 賃貸マンション CASTLE SERIES
医療介護施設 C-MOLS 法人施設 オフィス・商工業・教育施設・保育・福祉

〒862-0972 熊本市中央区新大江2-2-21 TEL 096-362-4345 FAX 096-363-2365

正確・迅速・丁寧

永村一泰 税理士・行政書士事務所

経営・税務・組織再編・事業承継

TEL.096-341-2921



不動産管理

株式会社 トムス

熊本市中央区新屋敷 3-4-3
TEL 096-363-7322

不動産仲介 (売買・賃貸)

株式会社 **ハウスレッシュ**

熊本市中央区新屋敷 2-13-12
TEL 096-366-9020

代表取締役会長 川口雄三 (昭和 44 年卒)

創業 1913 年

地域に寄り添い、美と健康をお届けします

くすりと化粧品

風 仁 堂

〒860-0845 熊本市中央区上通町2番7号 | TEL (096) 322-7111 | FAX (096) 325-4030

株式会社 **桜樹会・古川建築事務所**

OJUKAI・FURUKAWA ARCHITECTURAL OFFICE

代表取締役 **古川 瑠実** 一級建築士・構造設計一級建築士
平成10年卒

会 長 **古川 裕久** 一級建築士・昭和41年卒

〒862-0950 熊本市中央区水前寺6丁目28番8号
TEL(096)381-2370 FAX(096)381-2415



溝口病院

MIZOGUCHI HOSPITAL 1909-

創立 明治 42 年

顧問 **小島 哲夫** 昭和42年卒
済々黌 福岡同窓会 名誉会長

〒810-0001 福岡市中央区天神 4-6-25
TEL(092)721-5252



谷口 亮 作

TKC 認定経営革新等支援機関

宍倉 渉 税理士事務所

株式会社 インフォミックス

代表取締役 **宍倉 渉** (S43年卒)
税理士 事業承継士 Shishikura Wataru

〒866-0866 熊本県八代市鷹辻町5-25
TEL (0965) 33-3521 FAX (0965) 33-3523
<http://www.sisikura-oda.jp/>
E-mail: wataru-sisikura@tkcnf.or.jp





Life Tact

代表取締役会長 **牛島 敏文** (S44 年卒) 損保ジャパン
Toshifumi Ushijima プロフェッショナルエージェント
トップグレード認定代理店

株式会社 ライフタクト

本 社・熊本中央支社
〒862-0976 熊本市中央区九品寺2丁目3番7号
Tel. 096-372-4155 Fax. 096-372-4158
[Mail] tushijima@lifetact.co.jp
[URL] <https://life-tact.jp/>




(社) 日本シャッター・ドア協会理事

東鋼シャッター株式会社

会 長 **岡 陽 一** (昭和44年卒)

太陽光発電システム 施工・販売

本社 営業部 〒861-1104 熊本県合志市御代志 1656-3
Tel(096)242-4126 Fax(096)242-2959

支店・営業所 福岡 ・ 八代 ・ 天草

E-mail : toko-s@basil.ocn.ne.jp



北朝鮮に中学1年生(13歳)のとき拉致された横田めぐみさんは今年62歳、26歳で拉致された松木薫さん(九州学院出身)は73歳になった。もう待てない! 日本で待つ親兄弟が元気に内に拉致被害者全員を取り戻さねばならない。高市早苗首相と木原稔官房長官(拉致問題担当大臣)の手腕にかかっているのだ、この問題の解決は!!

布田 悟 法務総合事務所

北朝鮮に拉致された日本人被害者を救出する熊本会の会長 司法書士・行政書士・菊陽町議会議員 布田 悟 (昭46卒 空手部)
土地家屋調査士 布田 俊 (昭50卒 吹奏楽部)
熊大付属中学校教諭 布田賢次郎 (平14卒 ラグビー部)
菊池郡菊陽町大字津久礼2385-5(三里木・R57号線菊陽バイパス沿) TEL 096-232-3321

「救う会」フルリボンプロジェクト

拉致被害者を取り戻す! あなたも意思表示を!

済々黌 四九会



来年もみんな元気で集まるばい! 四九会会長 岩永 宣治

保険調剤 処方せん受付

グリーン薬局

GREEN PHARMACY

月出店・長嶺店・戸島店
下南部店・豊岡店・佐土原店

〒861-8039 熊本市東区長嶺南3-8-66 昭和49年卒 今井 政文
TEL 096-382-0256 FAX 096-382-0370

済々黌 50 会

我々昭和 50 年卒業生は令和 7 年秋、卒業 50 年記念同窓会を開催しました。

「会って、飲んで、食べて、笑って」 恩師とともに過ごした楽しいひと時。

みんな、また逢う日まで元気で。



50 会会長 野田 研一

浄行寺交差点



小島眼科

KOJIMA

ミアーズホームグループ

丸本 文紀 (S49 卒)

厚賀 啓助 (S49 卒) 真嶋 浩 (S49 卒)
迎田 恒成 (S49 卒) 野田 研一 (S50 卒)
佐保 優 (S59 卒) 山口佐和子 (H13 卒)
南部 隼平 (H15 卒) 山下 美月 (H18 卒)



一 病院機能評価認定病院 一

医療法人社団 永寿会

天草第一病院 熊本県天草市今金新町3413-6 〒863-0013
Tel0969・24・3777 Fax0969・24・0870



創造と挑戦

IWANAGA

株式会社 岩永組

860-0812 熊本市中央区南熊本 4 丁目 8-32
TEL 096-372-3333 FAX 096-372-3600
URL <http://www.i-gumi.co.jp>



熊本トヨタホールディングス

代表取締役社長 與 縄 義昭 (昭和 35 年卒)

取締役副社長 與 縄 英二 (昭和 42 年卒)

ジェームス事業部
上席執行役員
中村 幹男
(昭和 57 年卒)

熊本トヨタ自動車
常務取締役
中川 大
(平成 4 年卒)



医療法人 朝日野会 系列

朝日野総合病院

熊本市北区室園町12-10
TEL 096-344-3000

十善病院

熊本市中央区南熊本3-6-34
TEL 096-372-2688

球磨病院

人吉市上青井町176
TEL 0966-22-3121

球磨病院介護医療院

人吉市上青井町170-1
TEL 0966-24-2854



光生病院

人吉市下原田町1125-2
TEL 0966-22-5207



サービス付き高齢者向け住宅
サンあさひの

熊本市北区室園町8-10
TEL 096-274-1130



外食産業食品流通サービス業

株式会社ハウディ

Challenge for Tomorrow



名誉会長 富永 晃夫 (昭和 34 年卒)

代表取締役社長 富永 哲生 (昭和 60 年卒)



- 本 社 〒 862-0967 熊本市南区流通団地 1-8
TEL. 096-377-2111 (代) FAX. 096-377-2134
 - 鳥 栖 支 店 〒 841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜 3-26
TEL. 0942-85-0231 (代) FAX. 0942-85-1208
 - 福 岡 支 店 〒 812-0064 福岡県福岡市東区松田 2-4-23
TEL. 092-692-7101 (代) FAX. 092-692-7201
 - 北九州支店 〒 803-0801 福岡県北九州市小倉北区西港町 62-1
TEL. 093-562-3300 (代) FAX. 093-562-3310
 - 山陽小野田支店 〒 756-0021 山口県山陽小野田市大字高畑字北畑 77-33
TEL. 083-681-5080 (代) FAX. 083-681-5085
- グループ企業
- ハウディ大分食品株式会社 (外食産業食品流通サービス業)
 - ベジークス株式会社 (カット野菜製造・販売)
 - 株式会社ほっとキッチン (施設向け配食サービス)

建築物総合サービス

衛生管理ならおまかせください!

清掃管理・設備管理・給食管理
警備業務・建設業・人材派遣



感謝と共に

笑顔の明日を

株式会社 三 勢

熊本市中央区帯山 3 丁目 8-4 4
電話 096 (383) 2341

代表取締役会長 福原 英喜
(S35 年卒)

代表取締役社長 福原 浩倫
(S63 年卒)

三角 真一郎 (S63 年卒)



医療法人 社団 一真会

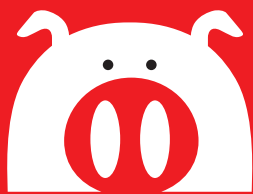
春野医院

耳鼻咽喉科
アレルギー科・呼吸器科

©2010熊本県くまモン#15691

会 長 春 野 博 一 (昭和38年)
監 事 法花津 剛 健 (昭和37年)
事務部長 春 野 真 紀 (平成7年)

〒866-0865 八代市北の丸町3-37
tel. 0965-35-6111 (代) 0965-35-6112 fax. 0965-35-6108



餃子屋

式ノ式

NI NO NI

草野 龍二 (昭和38年卒)

【姉妹店】壺之倉庫・よこばち
小坊主 赤組 芳文

総合建設業

INNOVATOR
MITSUNO

株式 会社 三津野建設

代表取締役会長 西尾 剛人 (昭和39年卒)

〒862-0910 熊本市東区健軍本町23番5号 ☎ (096) 369-1281 (代)・FAX369-1257
URL: <http://www.mitsuno.jp/> E-mail info@mitsuno.jp



株式会社 熊本総合設備

空調冷暖房・給排水衛生工事設計施工

熊本市南区薄場 3 丁目 11 番 13 号 〒861-4131
TEL 096-358-8811 FAX 096-358-8800

会長 藤田 秀人 (昭和 40 年卒)

専務 甲斐 智和 (平成 6 年卒)

経理 泉 和宏 (平成 12 年卒)

令和 8 年度母賛創立 144 周年記念

濟々賛三綱領精神による人づくり

すずかけ台保育園 理事長 平野 正 憲 (昭和 40 年卒)
園 長 平野 光 祐 (平成 10 年卒)
(創立 47 周年)

社会福祉法人 しあわせ福祉会 すずかけ台保育園
〒861-1115 熊本県合志市豊岡 2000-699 TEL: 096-248-4532